仙台市文化財調査報告書第380集

上　野　遺　跡

―第10次発掘調査報告書―

2011年１月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第380集　上野遺跡―第10次発掘調査報告書―　二〇一一年一月　仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第380集

上　野　遺　跡

－第10次発掘調査報告書－

2011年 1 月

仙台市教育委員会

序　　文

仙台市の文化財行政に対して、日頃から多大なご理解・ご協力をいただき、感謝申しあげます。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで、文化財が多く残されています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し次世代へ継承していけるように努めています。

仙台市南西部の山田・富田地区周辺は市内でも縄文時代の遺跡が数多く分布する地域です。その中でも上野遺跡は、「仙台市縄文の森広場」として整備された山田上ノ台遺跡や、現在は桜の名所として市民から親しまれている三神峯遺跡などとともに市内の代表的な縄文時代の集落跡です。特に、都市計画道路富沢山田線建設に伴い、平成16年から17年にかけて調査された第 6 次・ 7 次調査では、縄文時代中期後半に属する竪穴住居跡や土坑、大量の遺物が見つかっています。

本書には、平成22年度下水管敷設工事に先立ち実施した上野遺跡第10次調査の結果報告を収録しています。主に縄文時代中期に属する多数の土坑や土器が確認されました。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に関心を抱く契機になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書刊行に際しまして、ご協力・ご助言いただきました方々に、深く感謝申しあげます。

平成 23 年 1 月

仙台市教育委員会
教育長　　青沼　一民

例　　言

1．本書は、仙台市太白区富田地内の下水管敷設工事に伴う上野遺跡第10次調査の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、仙台市教育委員会の監理のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3．本書の作成及び編集は、鈴木　隆・庄子裕美（仙台市教育委員会文化財課）、吉田浩明（株式会社玉川文化財研究所）が行った。
4．本書の執筆は、鈴木　隆・庄子裕美・主濱光朗（仙台市教育委員会文化財課）の責任のもとに下記の通り行った。
　第Ⅰ章第１節…… 鈴木　隆
　第Ⅰ章第２節、第Ⅱ～Ⅴ章…… 吉田浩明
　第Ⅶ章…… 鈴木・庄子・吉田の協議による。
5．調査と報告書作成にあたり、仙台市建設局下水道管路部管路建設課の協力を得ている。
6．自然科学分析は株式会社パレオ・ラボが行った。
7．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原　1977）に基づいて認定した。
2．本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:25,000『仙台西南部・仙台東南部』の一部を縮小して使用している。また、調査区配置図では仙台市発行の都市計画基本図1:5,000を使用した。
3．調査の際の平面座標基準は、日本測地系の直角平面座標第Ｘ系を基にしており、挿図中には（ ）数字で世界測地系を併記している。
4．本図に使用した挿図縮尺は以下の通りである。
　調査区配置図1/3,000、調査区位置図1/1,000、グリッド配置図1/800、調査区壁断面図1/60、全体図1/200
　遺構平面図1/60・1/30、遺構断面図1/60・1/30
　遺物挿図1/6・1/3・2/3
5．挿図中のレベルは海抜標高を示す。
6．遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の略号を付している。
　Ａ：縄文土器　　Ｋ：石器・石製品　　Ｐ：土製品
　なお、石器については打製石器Ｋａ、磨製石器Ｋｂ、礫石器Ｋｃを分類基準に基づき次のように分類した。
　石鏃（有茎）：Ka-a1、石鏃（平基）：Ka-a2、石鏃（凹基）：Ka-a3、石鏃（その他）：Ka-a4
　尖頭器（その他）：Ka-b3、不定形石器（削器）：Ka-e1、不定形石器（掻器）：Ka-e2
　石篦（両面加工）：Ka-f2、石匙（その他）：Ka-d3、石核：Ka-m、磨製石斧：Kb-a、磨石：Kc-a
　凹石：Kc-b、敲石：Kc-c、石皿：Kc-f
7．本文中での遺物の表記には、挿図番号の他に登録番号を用いた。なお、挿図中のＳは自然礫を表す。
8．本書で使用した遺構略号は以下の通りで、番号は種別ごとに付した。
　ＳK:土坑　ＳD:溝跡　ＳX:埋設土器・性格不明遺構　P:ピット
9．本文中における遺構の新旧関係について『Ａ→Ｂ』と記述したものは、Ａの遺構よりＢの遺構が新しいことを示している。主要遺構の新旧関係は第32図を参照のこと。
10．層位名は基本層位をローマ数字「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、遺構内堆積土層位を算用数字「1・2・3」で表した。
11．遺構および遺物観察表では< >は現存値、( )は推定値を示した。
12．遺物写真については遺物実測図と同一の縮尺としたが、大型の遺物については1/4及び1/6として掲載した。
13．石器実測図で使用したスクリーントーンは以下の通りである。

節理

火ハネ

被熱による黒変

二重パティナ

敲き痕

目　　次

序　文
例　言・凡　例
第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅲ章　調査の方法と経過 …… 3
第Ⅳ章　基本土層 …… 5
第Ⅴ章　検出遺構と出土遺物 …… 8
　第１節　土　坑（ＳＫ） …… 8
　第２節　溝　跡（ＳＤ） …… 19
　第３節　埋設土器（ＳＸ） …… 19
　第４節　性格不明遺構（ＳＸ） …… 20
　第５節　ピット（Ｐ） …… 21
　第６節　遺構外出土遺物 …… 21
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 43
第Ⅶ章　まとめ …… 46

写 真 図 版 …… 51
報告書抄録 …… 巻末

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 2
第２図　上野遺跡の調査区配置図 …… 2
第３図　調査区位置図 …… 4
第４図　グリッド配置及び調査区壁断面図 …… 6
第５図　遺構全体図 …… 7
第６図　１Ａ区東側遺構平面・断面図 …… 10
第７図　１Ａ区西側遺構平面・断面図 …… 12
第８図　１Ａ区西端、1Ｂ区、１Ｃ区北側遺構平面・断面図 …… 14
第９図　１Ｃ区遺構平面・断面図 …… 16
第10図　１Ｄ区遺構平面・断面図 …… 17
第11図　ＳＸ１・２埋設土器平面・断面図 …… 20
第12図　ＳＫ１出土遺物、ＳＫ２出土遺物（１） …… 24
第13図　ＳＫ２出土遺物（２） …… 25
第14図　ＳＫ２出土遺物（３）、ＳＫ３出土遺物、ＳＫ４出土遺物（１） …… 26
第15図　ＳＫ４出土遺物（２） …… 27

第16図　ＳＫ４出土遺物（３）…… 28
第17図　ＳＫ４出土遺物（４）…… 29
第18図　ＳＫ４出土遺物（５）、ＳＫ５出土遺物（１）…… 30
第19図　ＳＫ５出土遺物（２）、ＳＫ７出土遺物（１）…… 31
第20図　ＳＫ７出土遺物（２）、ＳＫ８出土遺物…… 32
第21図　ＳＫ９出土遺物、ＳＫ11出土遺物（１）…… 33
第22図　ＳＫ11出土遺物（２）…… 34
第23図　ＳＫ13・14・16出土遺物…… 35
第24図　ＳＫ17出土遺物（１）…… 36
第25図　ＳＫ17出土遺物（２）…… 37
第26図　ＳＫ17出土遺物（３）、ＳＫ18・19・22出土遺物…… 38
第27図　ＳＫ20・23～25、ＳＤ１出土遺物…… 39
第28図　ＳＸ１・２埋設土器、ＳＸ３性格不明遺構出土遺物…… 40
第29図　Ｐ１・４・８・12・36（ピット）出土遺物…… 41
第30図　Ｐ12・51・59・73・83（ピット）、遺構外出土遺物…… 42
第31図　土器付着赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果…… 44
第32図　主要遺構の新旧関係図…… 47
第33図　縄文土器集成図…… 48

表　目　次

第１表　ピット観察表（１）…… 22
第２表　ピット観察表（２）…… 23
第３表　分析結果一覧（自然科学分析）…… 43

写　真　図　版　目　次

写真図版１　調査区全景（１）…… 53
写真図版２　調査区全景（２）…… 54
写真図版３　調査区全景（３）…… 55
写真図版４　遺構検出状況…… 56
写真図版５　遺構群全景（１）…… 57
写真図版６　遺構群全景（２）…… 58
写真図版７　土　坑（１）…… 59
写真図版８　土　坑（２）…… 60
写真図版９　土　坑（３）…… 61
写真図版10　土　坑（４）…… 62
写真図版11　土　坑（５）…… 63
写真図版12　土　坑（６）、溝跡…… 64
写真図版13　埋設土器、ピット（１）…… 65
写真図版14　ピット（２）…… 66

写真図版15　ピット（３）…… 67
写真図版16　ＳＸ３性格不明遺構、土層断面（１）…… 68
写真図版17　土層断面（２）、調査前現況 …… 69
写真図版18　ＳＫ１出土遺物、ＳＫ２出土遺物（１）…… 70
写真図版19　ＳＫ２出土遺物（２）、ＳＫ３出土遺物、ＳＫ４出土遺物（１）…… 71
写真図版20　ＳＫ４出土遺物（２）…… 72
写真図版21　ＳＫ４出土遺物（３）、ＳＫ５・７出土遺物 …… 73
写真図版22　ＳＫ８・９出土遺物、ＳＫ11出土遺物（１）…… 74
写真図版23　ＳＫ11出土遺物（２）、ＳＫ13・14・16出土遺物 …… 75
写真図版24　ＳＫ17出土遺物（１）…… 76
写真図版25　ＳＫ17出土遺物（２）、ＳＫ18～20・22～25、ＳＤ１、ＳＸ１埋設土器・
ＳＸ３性格不明遺構出土遺物 …… 77
写真図版26　ＳＫ２埋設土器及びピット・遺構外出土遺物 …… 78

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

上野遺跡第10次発掘調査は、遺跡内に計画された下水管敷設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査である。本遺跡では、1976（昭和51）年の第１次調査を皮切りに、過去９次にわたる発掘調査が行われている。とくに今次調査地点の北側で都市計画道路建設に伴い実施された第６・７次調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑などが多数検出され、大規模な集落の存在が明らかにされている。

周辺におけるこれらの調査状況から、今次調査地点においても縄文時代を中心とする遺構、遺物が良好に存在する可能性が極めて高いと予測された。仙台市教育委員会は、仙台市建設局下水道管路建設課より、平成21年10月23日付け、建管建第108-134-１号で提出された「計画と埋蔵文化財のかかわりについての協議」（平成22年1月26日付け、教生文第175-11号により県通知を伝達）に基づき協議を進め、工事範囲の200㎡を対象に本調査を実施することとした。

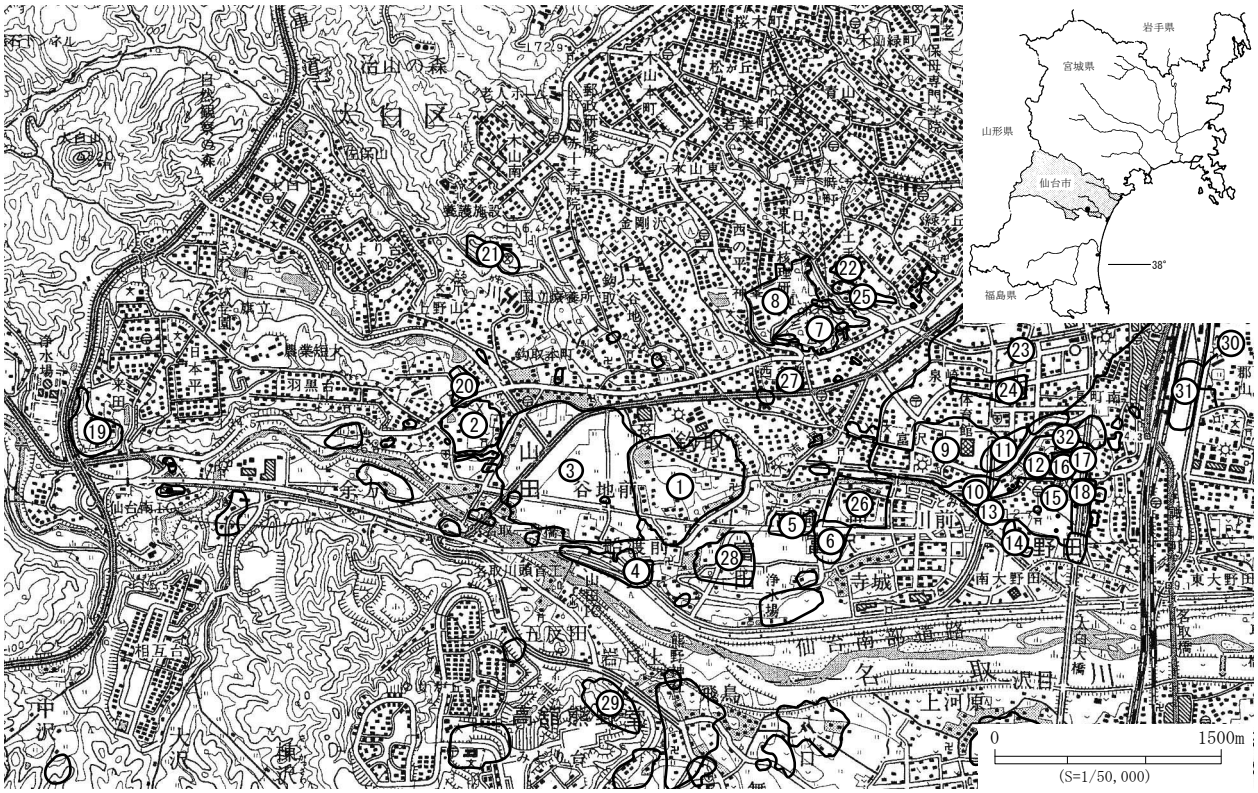
第２節　調査要項

１．遺 跡 名 称　　上野遺跡（第10次調査）宮城県遺跡登録番号01002・仙台市文化財登録番号Ｃ－108
２．所　　在　　地　　宮城県仙台市太白区富田字上野西11-６地先～11-２地先外
３．調 査 原 因　　下水管敷設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
４．調 査 主 体　　仙台市教育委員会
５．調 査 担 当　　仙台市教育委員会生涯学習部文化財課　調査指導係主事　鈴木　隆
　　調査指導係主事　庄子裕美
６．調 査 組 織　　株式会社　玉川文化財研究所
　　主任調査員　吉田浩明
　　調査補助員　斉藤武士
７．調 査 期 間　　平成22年５月21日～平成22年７月28日
８．調査対象面積　　約200㎡
９．調 査 面 積　　152㎡
10．整 理 期 間　　平成22年７月29日～平成23年１月28日

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

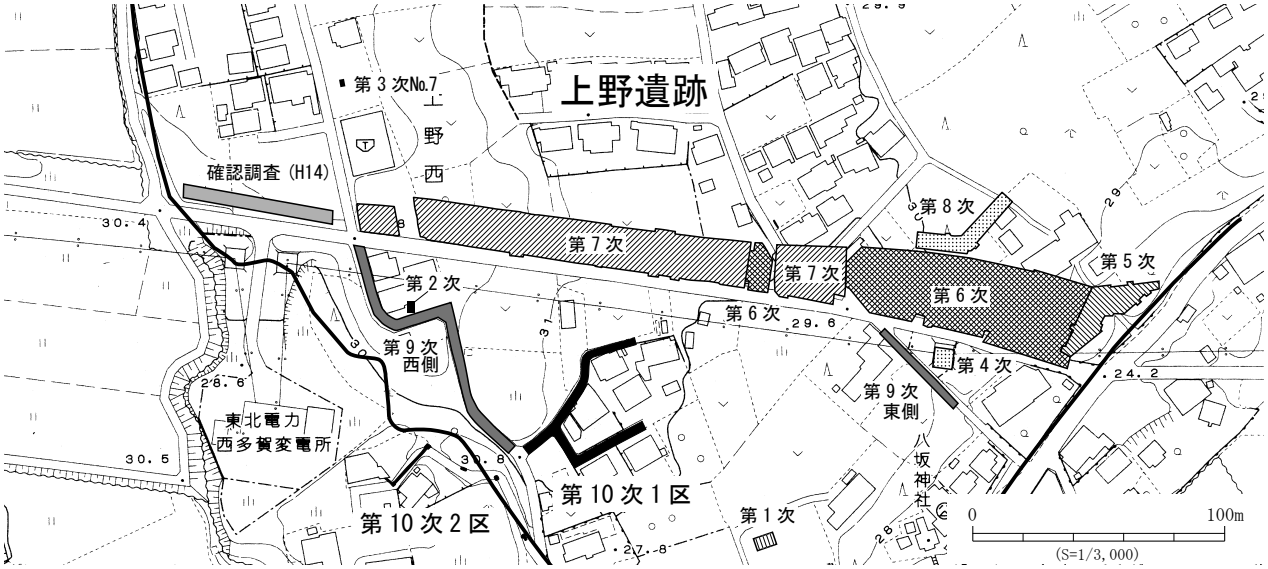
上野遺跡は宮城県太白区富田字上野中及び上野西に所在する。ＪＲ長町駅から南西約3.5㎞、地下鉄南北線富沢駅から西に２㎞の位置にあり、北西4.5㎞には名取富士とも呼ばれる太白山（320.7ｍ）が眺望できる。また、南方0.8㎞には奥羽山脈を源とし太平洋に注ぐ名取川が東流する。名取川左岸域には名取台地が形成されているが、上野遺跡はこの名取台地東端部の東西750ｍ、南北700ｍの独立した河岸段丘上に立地している。標高は30ｍ前後である。

名取川流域には多数の遺跡が存在しているが、旧石器時代では山田上ノ台遺跡、富沢遺跡が知られている。縄文時代早期では下ノ内浦遺跡や山田上ノ台遺跡、前期では三神峯遺跡が著名である。縄文時代中期から後期にかけては遺跡数が増加する傾向にある。中期後葉では上野遺跡、山田上ノ台遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡にみられるよ



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	上野遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安・近世	17	大野田遺跡	祭祀跡・集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
2	山田上ノ台遺跡	集落跡	旧石器・縄文・平安・近世	18	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
3	山田条里遺跡	水田跡・屋敷跡	縄文・平安・中世・近世	19	人来田遺跡	集落跡	縄文・弥生
4	船渡前遺跡	包含地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	20	北前遺跡	集落跡	縄文・平安・近世
5	鍛冶屋敷Ａ遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	21	御堂平遺跡	集落跡	縄文・平安・中世
6	鍛冶屋敷Ｂ遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	22	土手内遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
7	三神峯遺跡	集落跡	縄文・平安	23	富沢遺跡	集落跡・水田跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
8	芦ノ口遺跡	集落跡	縄文・弥生・平安	24	泉埼浦遺跡	集落跡・水田跡・墓	縄文・弥生・古墳・平安・近世
9	山口遺跡	集落跡・水田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	25	土手内横穴墓群	墓	古墳・奈良
10	下ノ内遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	26	富沢館跡	館跡	中世
11	下ノ内浦遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	27	原遺跡	集落跡・古墳	弥生・古墳・平安
12	六反田遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	28	南ノ東遺跡	散布地	弥生・平安
13	伊古田遺跡	集落跡	縄文・古墳～平安	29	熊ノ堂横穴墓群	墓	古墳
14	伊古田Ｂ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	30	西台畑遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
15	大野田古墳群	集落跡・古墳・官衙	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	31	長町駅東遺跡	集落跡・官衙跡	弥生・古墳・奈良・平安
16	袋前遺跡	集落跡	奈良	32	大野田官衙遺跡	官衙	奈良

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡



第２図　上野遺跡の調査区配置図

うな安定的な集落が営まれるようになり、後期では富沢駅周辺の大野田遺跡、下ノ内浦遺跡、伊古田遺跡、王ノ壇遺跡で配石遺構や埋設土器、遺物集中箇所などが検出されている。

弥生時代は遺跡数は少ないものの、後期の原遺跡の住居跡をはじめ、下ノ内遺跡、下ノ内浦遺跡、西台畑遺跡で土坑墓などが確認されている。古墳時代では大野田古墳群があるが近年行われた春日社古墳の調査では革盾の発見が注目される。古代以降では大野田官衙遺跡が知られているが、第１図でみると大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡にかけてに存在している。中世では王ノ壇遺跡で屋敷跡や「奥大道」に関連する道路跡、近世では上野遺跡の西に接する山田条里遺跡で屋敷跡が検出されている。

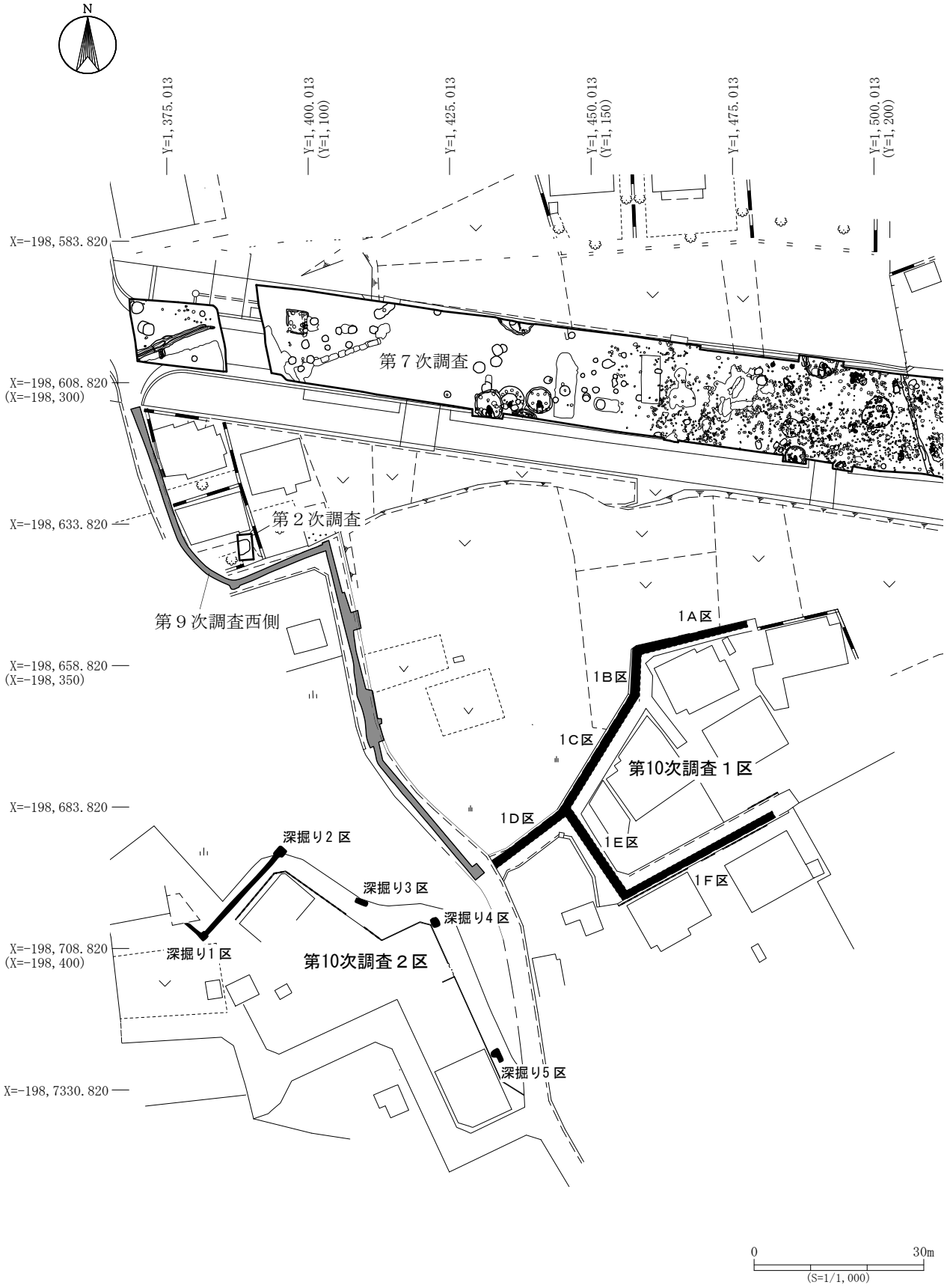
今回調査を行った上野遺跡は仙台市内において縄文時代中期の遺跡として著名であり、1976年の調査を皮切りにこれまで第９次調査まで行われている。とくに2004年の第６次、2005年の第７次調査では6,000㎡を対象に調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡27軒の他、348基に及ぶ土坑群が検出されている。住居跡は大木９～10式期が中心となり、土坑群は大木８ａ～ 10式期にかけての変遷がみられ、台地の東側縁辺部にあたる第６次調査では大木８ａ～ ８ｂ式期にかけての土坑群が形成されている。2008年の第９次調査では土坑、溝跡、埋設土器、ピット群などが検出されている。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

今回の調査は下水管敷設に伴う調査であり、幅90㎝、延長約200ｍの範囲が調査対象となっていた。調査区は２ヵ所に分かれ、現況地形でみる東側の上段部分を１区、下段を２区とした（第３図）。この段階で調査対象地区の全体を網羅するように西から東へアルファベット、北から南へ算用数字を付して５ｍグリッドを設定した。調査区は現在使用されている水道管や配水管を避けて設定するため、まず既存の埋設管の位置を確かめる必要があった。そのため、５月10日から13日にかけて下水道工事請負業者により１・２区を対象に計12ヵ所の既存埋設管の確認作業が実施された。この間調査側が遺構の存否確認のため立ち会うこととしたが、確認範囲の大部分は埋設工事による撹乱であり１Ａ区とした東端部でＶ層の一部が確認されたのみであり、遺構は検出できなかった。遺物は１・２区から少量の縄文時代の土器片が出土した。

埋設管確認作業の後、５月21日より２区の西側から本格調査を進めたが、深掘り１区から２区にかけて砂礫層まで削平が及んでいる状況が明らかとなった。このため、２区の残る部分については深掘り３～５区の調査を行ったところ、同様の削平状況がみられ２区には遺構が存在しないと判断できるものであった。２区の調査は深掘り部分の記録をもって６月３日に終了した。次いで６月４日より１区の調査に着手した。直線部分ごとに１Ａ区から１Ｆ区と呼称し、１Ａ区を６月４日～７月28日、１Ｂ区６月24日～７月９日、１Ｃ区６月22日～７月８日、１Ｄ区７月６日～８日、１Ｅ区６月15日～18日、１Ｆ区を６月７日～11日に調査を行った。

１区南側の１Ｅ区と１Ｆ区では遺構が確認されなかったため、遺構の集中する１Ａ～１Ｃ区が調査の中心となっていった。１Ａ区と１Ｃ区では遺構の重複状況がみられたため計２回に分けて調査を行い、ともにＶ層上面を削り下げて遺構の最終確認を行っている。遺構のみられなかった２区及び１Ｅ区と１Ｆ区については記録した部分ごとに終了確認を行い、遺構が検出された１Ｃ区と１Ｄ区は７月８日、１Ｂ区は７月21日に終了確認を行った。７月28日には１Ａ区の終了確認とともに、下水道管路建設課の立ち会いのもとに完了確認を行った。同日、器材の撤収をもって今回の調査を終了している。


N
Y=1,375.013
Y=1,400.013
(Y=1,100)
Y=1,425.013
Y=1,450.013
(Y=1,150)
Y=1,475.013
Y=1,500.013
(Y=1,200)
X=-198,583.820
X=-198,608.820
(X=-198,300)
X=-198,633.820
X=-198,658.820
(X=-198,350)
X=-198,683.820
X=-198,708.820
(X=-198,400)
X=-198,7330.820
第７次調査
第２次調査
第９次調査西側
1A区
1B区
1C区
1D区
1E区
1F区
第10次調査１区
深掘り2区
深掘り3区
深掘り4区
深掘り1区
第10次調査２区
深掘り5区
0
30m
(S=1/1,000)

第３図　調査区位置図

第Ⅳ章　基本土層

土層の遺存状態の良好であったのは１区の南側にあたる１Ｅ区から１Ｆ区にかけてで、Ⅰ～Ⅵ層までが確認できた。１Ａ区の北側40ｍ地点から東西に広がる上野遺跡第６・７次調査地区においてはⅡ層が黒褐色粘土質シルト、Ⅲ層が暗褐色粘土、Ⅳ層が褐色シルト、Ⅴ層が明黄褐色シルトとして確認されている。今回の調査区は第６・７次調査と比較して全体的に土層の砂味が強くなり、とくに南側の１Ｅ・Ｆ区ではⅡ～Ⅴ層中への砂礫の混入が顕著であった。分層にあたっては基盤層となるⅥ層（砂礫）を基準とし、土性の漸移的な変化の共通性により上野遺跡の基本土層に対応させている。なお、１Ｄ区では盛土直下でⅤ層が確認できるとともにⅤ層確認レベルからみて１Ｄ区が最も高い箇所にあたると推測される（第４図）。また、１Ａ区ではⅥ層上面が東方に向かって傾斜する状況がみられ、徐々にⅤ層の層厚を増すようである。なお、２区では砂礫中まで削平を受けており、調査範囲内でⅡ～Ⅴ層はみられなかった。また、２区の砂礫と１区のⅥ層との対応関係は不明である。

Ⅰａ層：盛土層。１区ではアスファルト道路下の砕石層も含めている。２区では旧耕作土の上に盛土が厚く堆積しており、深掘り５区では深さ１ｍ以上を測る。

Ⅰｂ層：旧表土層。２区の旧耕作土上、あるいは１Ａ区や１Ｆ区で確認できた。

Ⅰｃ層：耕作土層。現畑地に面した１Ａ区で確認された。２区では砂礫の直上で旧耕作土と考えられる土層が確認された。

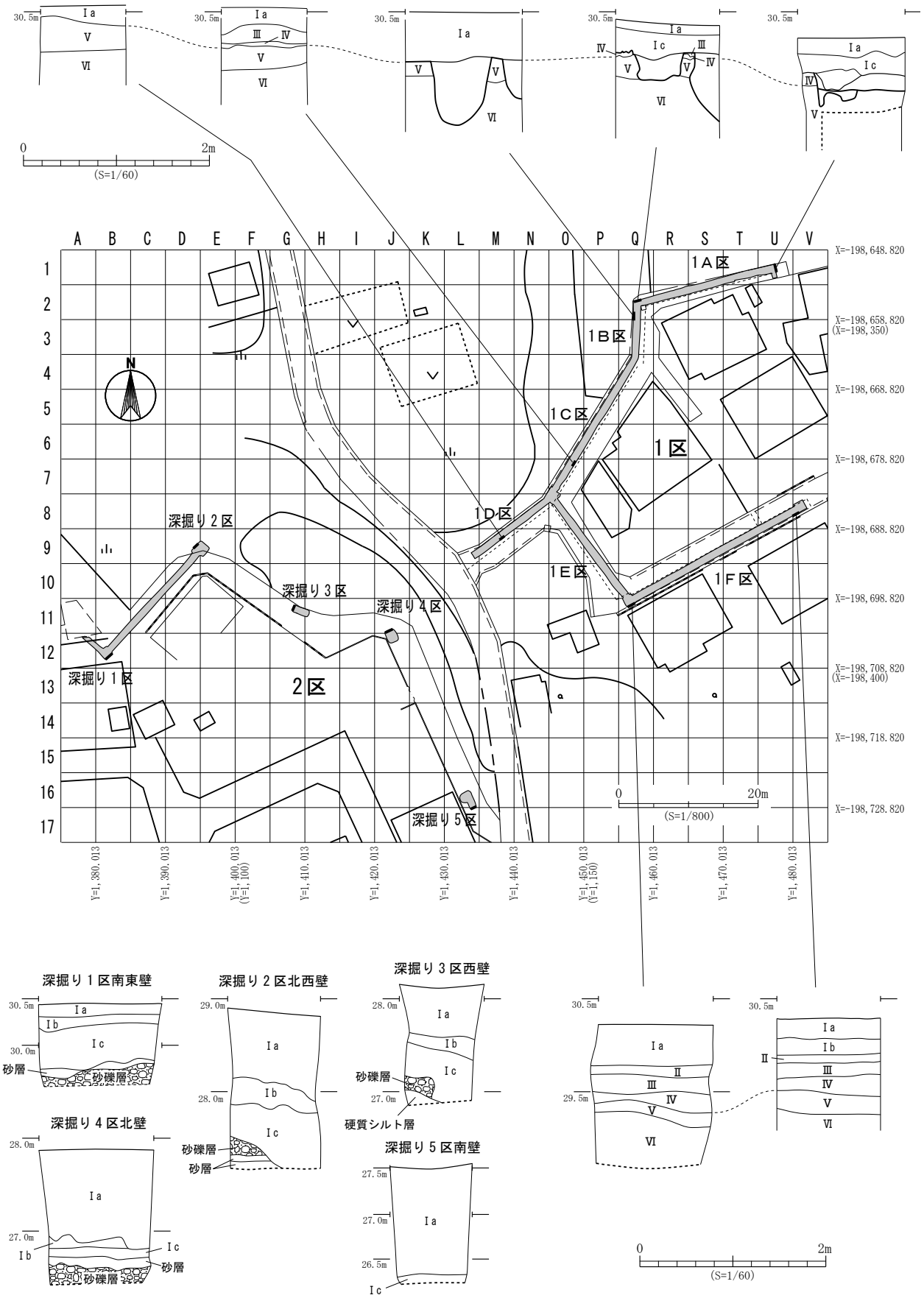
Ⅱ　層：黒褐色砂質（10YR2/3）シルトである。１Ａ区北壁の一部に確認でき，遺物の包含状況が認められた。また，１区の南側にあたる１Ｅ区から１Ｆ区にかけても確認でき、ここでは小・中型の礫をやや多量含む。層厚は10～15㎝である。

Ⅲ　層：暗褐色土（10YR3/3）砂質シルトが基調となる。１Ｃ・１Ｅ・１Ｆ区にかけて遺存し、１Ａ区でも部分的に確認できた。地点ごとに土層の状況が異なる部分が見受けられ、１Ｃ区では暗褐色（10YR3/3）～黒褐色（10YR2/3）砂質シルト、１Ｅ区では暗褐色（10YR3/3）砂礫、１Ｆ区ではにぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫となる部分がある。南側の１Ｅ区あるいは１Ｆ区に向かい砂礫の含有量が増加し色調が明るくなる。撹乱の影響の少なかった１Ｃ区では層厚30㎝を測る。

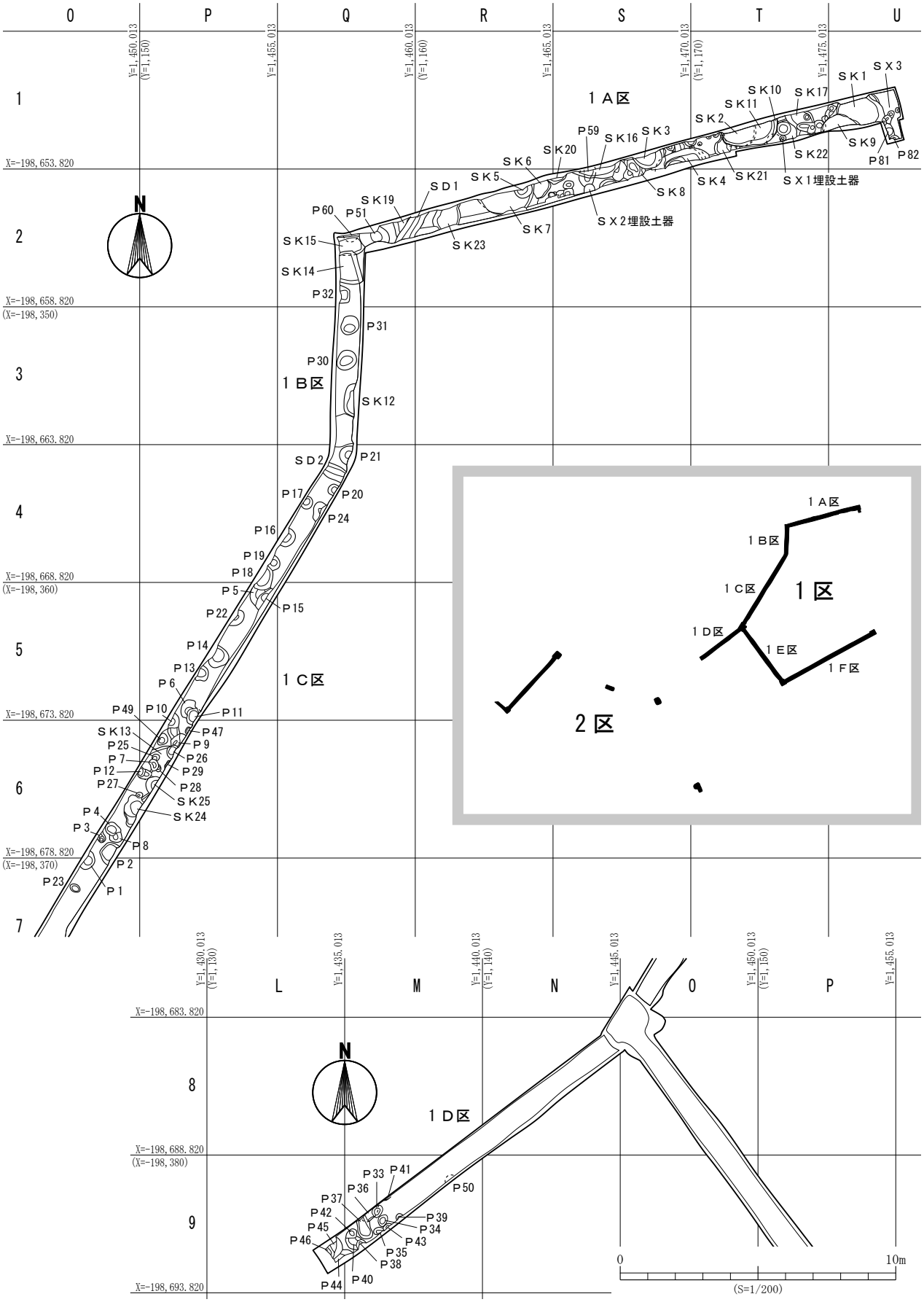
Ⅳ　層：にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトが基調となる。地点ごとに土層状況が異なる部分が見受けられ、１Ａ区東端では褐色（10YR4/4）～にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト、１Ａ区西側でにぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫、１Ｂ区では暗褐色（10YR3/3）砂礫、１Ｃ区では褐色（10YR4/4）砂質シルトあるいはにぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫となる部分がある。そこから南に向かった１Ｅ区から１Ｆ区西側にかけてはにぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫、１Ｆ区東側では褐色（10YR4/4）砂質層である。全体的にみて１Ａ区以外では砂礫の混入が顕著である。

Ⅴ　層：にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質シルトが基調となる。地点ごとに土層状況が異なり、１Ａ区ではにぶい黄橙色（10YR6/4）シルト～砂質シルト、１Ａ区以南では砂礫の混入が著しく、１Ｂ・１Ｃ区は黄橙色（10YR6/4）砂礫、１Ｄ区は明褐色（7.5YR5/6）砂礫、１Ｅ・１Ｆ区では褐色（10YR4/4）砂礫となる部分がある。１Ａ区以外では１Ｃ区中央の３基の土坑が近接する付近や１Ｆ区東側では黄褐色（10YR5/4）砂質シルトとなり、砂礫の混入が少ない均質な堆積が部分的にみられる。

Ⅵ　層：にぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫が主体である。１Ａ区、１Ｃ区ではⅤ層が砂質シルトとして認められ、その直下にある砂礫層がⅥ層として確認できた。１Ｄ区・１Ｅ区付近では礫密度が明らかに変わる部分をⅥ層上面とした。



第4図　グリッド配置及び調査区壁断面図


1A区
1B区
1C区
1D区
1区
2区
1E区
1F区
SX1埋設土器
SX2埋設土器
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SX3
SD1
SD2
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
P46
P47
P49
P50
P51
P59
P60
P81
P82
N
0
10m
(S=1/200)

第５図　遺構全体図

第Ⅴ章　検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は、土坑25基、溝跡２条、埋設土器２基、性格不明遺構１基、ピット83個である。これらは調査範囲北側の１Ａ区、１Ｂ区、１Ｃ区、１Ｄ区に分布し、南側の１Ｅ区、１Ｆ区に遺構は検出されていない。土坑は１Ａ区に集中傾向をみせており、２基の埋設土器も１Ａ区での検出である。２条の溝跡のうち１Ａ区で検出されたＳＤ１は１Ｂ区に延びる方向性をもっているが、１Ｂ区で溝跡は検出されなかった。ピットは調査区全体に分布するが、土坑が１Ａ区に集中することもあり、１Ｂ区と１Ｃ区の主体遺構となっている。

出土遺物は総量で土器類が平箱14箱、石器・礫が９箱であり、土坑から出土したものが中心となっている。

第１節　土　坑（ＳＫ）

25基検出されたうち22基は１Ａ区と１Ｂ区に分布するが、とくに１Ａ区での重複が著しい。Ⅳ層が遺存する箇所で検出されたＳＫ２・10・11・12・14・15・20・23の８基はいずれもⅣ層を掘り込んで構築されており、Ⅳ層の遺存しない部分についてはⅤ層上面の検出となる。調査区幅が90㎝前後と細長いこともあり完掘できた土坑はないが、確認部分からみてフラスコ状土坑11基が含まれるものと推測される。これらのフラスコ状土坑は１Ａ区のみに存在している。出土遺物からみて土坑群の時期は縄文時代中期中葉の大木８ａ式から後期前葉にかけての中に位置付けられ、遺構数と遺物量は大木９～10式が中心となっている。

ＳＫ１土坑（第６図、図版７）

１Ａ区東側のＵ－１グリッドに位置し、ＳＫ１→Ｐ54→Ｐ79及びＳＫ１→ＳＫ９の新旧関係となる。規模は東西方向が168㎝、南北方向では107㎝までが確認でき、深さは73㎝である。平面形は円形と推測され、検出面での推定径は170㎝前後、底部の推定径は140㎝前後となる。底面はほぼ平坦で、壁はオーバーハングする箇所がみられ、掘り込み形はフラスコ状土坑と推測できる。堆積土は北壁と南壁断面で16層に分層される。上位の１・２層が黒褐色シルト、以下は暗褐色シルトが基調となり、１・２層及び９～13層からは土器片や小型の礫がまとまって出土し、堆積土全体には炭化物が認められる。

遺物は土器片44点、石器は磨石１点、石皿１点、鉄石英の原石１点が出土した。これらは上層から底面直上層にかけて散在的に出土した。出土土器からみて土坑の時期は大木９式期と考えられる。このうち第12図に土器５点、石皿１点を図示した。

ＳＫ２土坑（第６図、図版７・９）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ11→ＳＫ10→ＳＫ２の新旧関係となる。規模は東西方向が118㎝、南北方向では67㎝までが確認でき、深さは57㎝である。ＳＫ10・11の堆積土中に構築されているため掘り込み形は不明瞭であるが、断面形からみて底部径110㎝前後のフラスコ状土坑になると思われる。堆積土は炭化物を含む黒褐色砂質シルトが主体となり、上・中位層となる１・２層からは土器片や小型の礫がまとまって出土し、骨片状の白色物も混じっていた。１層に対応する遺物の分布範囲は開口部外の東側に延びている。

遺物は土器片618点、土製円盤８点、石器は剥片３点、磨石２点、凹石２点、敲石１点が出土した。これらは上層から中層に集中して出土しており、土器は破片が主体となっている。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第12～14図に土器21点、土製円盤２点、磨石１点、凹石１点、敲石１点を図示した。また、写真図版19－１に示した土器はスス状の付着物が認められるものであり写真掲載した。

ＳＫ３土坑（第７図、図版７・８）

１Ａ区のＳ－１グリッドに位置し、ＳＫ８→ＳＫ３の新旧関係となる。規模は東西方向が104㎝、南北方向では56㎝までが確認され、深さは56㎝である。平面形は円形が推測される。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がる。堆積土は３層に分層され、１層は暗褐色砂質シルト、２・３層は黒褐色砂質シルトで、１・２層からは小～中型の礫がまとまって出土した。堆積土全体に焼土粒と炭化物が混入する。

遺物は１層より大型深鉢の底部（A-027)、及び２層より小型深鉢の個体資料（A-028）が出土した。その他は土器片８点及び土製円盤の可能性をもつ破片が２点、石器では石篦１点が出土した。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。第14図に土器３点、石篦１点を図示した。

ＳＫ４土坑（第６図、図版７・８）

１Ａ区のＳ･Ｔ－１グリッドに位置し、Ｐ76･Ｐ80→ＳＫ４→ＳＫ８の新旧関係となる。規模は東西方向で167㎝、南北方向で54㎝までが確認できた。平面形が円形とすれば検出面での推定径220㎝前後、底部推定径は180㎝前後となる。検出面から底面の深さは62㎝であるが、東側に落ち込みをもっており検出面からの深さは93㎝である。掘り込み形態からみてフラスコ状土坑と推測される。堆積土は上位の１層が黒褐色砂質シルト、２層が暗褐色シルト、３層はにぶい黄褐色砂質シルトである。１層中には骨片状の白色物を微量含んでいる。また、４層とした部分は別遺構の可能性があるが、平面形など不明な点があるためＳＫ４の中で示した。

遺物は堆積土の１層下部より集中的に出土した。復元率の高いものは５個体を数え、この他にも大破片が混在する状況である。土製円盤は12点が出土している。石器は不定形石器２点、二次加工のある剥片１点、剥片３点、凹石１点が出土した。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第14～18図に土器18点、土製円盤３点、凹石１点を図示した。

ＳＫ５土坑（第７図、図版８）

１Ａ区のＲ－２グリッドに位置し、ＳＫ７→ＳＫ６→ＳＫ５の新旧関係となる。規模は東西方向で166㎝、南北方向で66㎝までが確認でき、深さは67㎝である。平面形は円形状に確認できた。しかし、壁断面でみるとさらに上方に開いて立ち上がり、東西方向で２ｍの規模が確認できる。堆積土は暗褐色～黒褐色砂質シルトが主体となり、１・２層には小～中型の礫が多く含まれる。

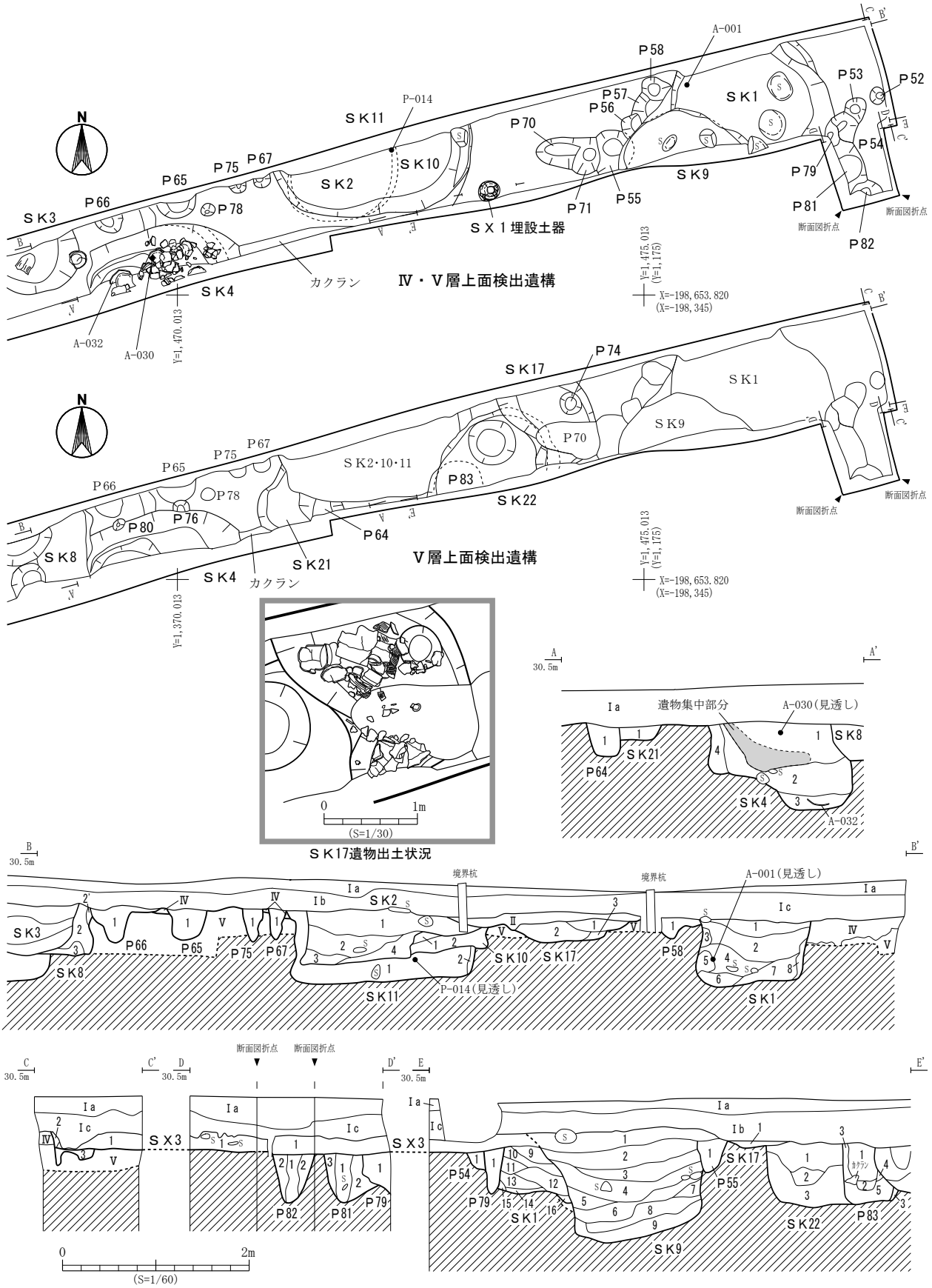
遺物は土器片330点、土製円盤５点、石器は不定形石器１点、微細剥離痕のある剥片１点、剥片１点、磨石３点、石皿１点が出土した。これらは１層中にまとまって出土した。なお、ＳＫ５・７一括として土器片140点を取り上げているが、遺物の集中するＳＫ５に属する可能性が強いためＳＫ５の出土遺物として扱った。出土土器からみて土坑の時期は後期前葉と考えられる。このうち第18・19図に土器13点、土製円盤３点、不定形石器１点、磨石２点を図示した。

ＳＫ６土坑（第７図、図版８）

１Ａ区のＲ－２グリッドに位置し、ＳＫ７･ＳＫ20→ＳＫ６→ＳＫ５の新旧関係となる。規模は東西方向で69㎝、南北方向で58㎝までが確認でき､深さは35㎝である。平面形は推定径90㎝前後の円形が推測できる。底面は平坦で、壁はオーバーハングして立ち上がりフラスコ状土坑となる。堆積土は３層に分層され、１・２層は小礫を含む暗褐色あるいは褐色シルトで、底面直上の３層は炭化物を多く含む黒褐色砂質シルトである。出土遺物は土器片６点であるが、いずれも小片のため図示していない。石器は出土していない。

ＳＫ７土坑（第７図、図版８・９）

１Ａ区のＲ－２グリッドに位置し、ＳＫ７→ＳＫ６→ＳＫ５の新旧関係となる。規模は東西方向で214㎝、南北方向で77㎝までが確認でき、深さは87㎝である。平面形は円形になると思われ、推定径は210㎝前後となる。底面はほぼ平坦で壁は膨らみをもって立ち上がり、フラスコ状土坑となる。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトが主体となるが、２・３層は小～中型の礫をやや多量含み、４・５層の黒褐色砂質シルトが帯状に入り込む。また、堆積土



第６図　１Ａ区東側遺構平面・断面図

全体に炭化物を含む。なお、第７図で示したように本土坑の堆積土上に遺物を包含する黒褐色砂質シルトが認められた。これについては別遺構などの可能性があるが、平面形など詳細は不明であるため本土坑の１層とした。

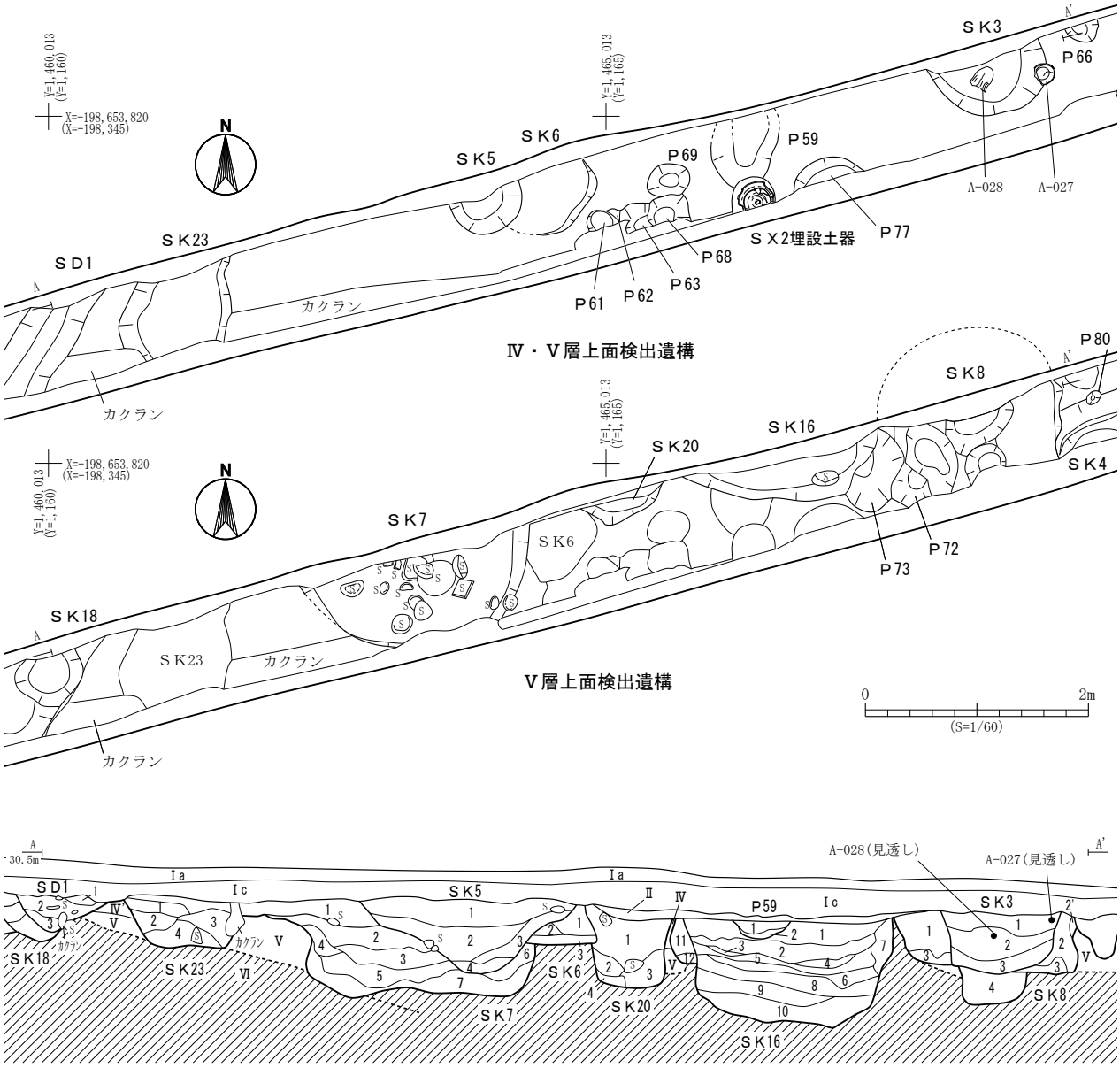
遺物は土器片150点と土製円盤１点、石器は石鏃１点、二次加工のある剥片１点、剥片３点、石皿４点が出土した。これらは堆積土の上層から下層にかけてに土器片が散在的に出土する状況である。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第19・20図に土器６点、石鏃１点、石皿２点を図示した。

ＳＫ８土坑（第７図、図版９）

１Ａ区のＳ－１・２グリッドに位置し、ＳＫ４→ＳＫ８→ＳＫ３の新旧関係となる。Ｐ72・73との新旧関係は不明である。規模は東西方向が160㎝、南北方向では70㎝までが確認でき、深さは47㎝である。西側でＰ72・73と重複するなど壁の遺存がわずかなため平面形は不明であるが、オーバーハングする壁形態からフラスコ状土坑と考えられる。底面には落ち込みが３ヵ所確認されたが、堆積土の観察から本土坑に伴うものと判断した。堆積土は４層に分層され、１・２層としたにぶい黄褐色あるいは褐色シルトが主体となり、底部ピット内は黄褐色粘質シルトとなる。本土坑の堆積土は人為的に埋められた可能性がある。

遺物は土器片80点、石器は剥片二次加工のある剥片２点、剥片１点、磨石１点、凹石１点が出土した。堆積土上層の遺存部分は少ないが、遺物の分布状況からみて堆積土の下層に遺物が集中する出土状況が推測できる。出土土

遺構	層位	土色	土性	備考
ＳＫ１	1	10YR2/3黒褐色	シルト	土器片・小礫出土層。締まり強く、粘性やや弱い。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まり強く、粘性やや弱い。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	土器片・小礫出土層。焼土粒少量。炭化物やや多量。締まり・粘性やや弱い。
	5	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	締まり・粘性やや弱い。
	6	10YR3/2黒褐色	シルト	焼土粒微量。炭化物やや多量。締まりやや弱く、粘性ある。
	7	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルトブロックやや多量。炭化物中量。締まりあり、粘性やや弱い。
	8	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	締まり・粘性やや弱い。
	9	10YR3/2黒褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まり強く、粘性やや弱い。
	10	10YR3/3暗褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まり強く、粘性やや弱い。
	11	10YR3/3暗褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	12	10YR3/3暗褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物やや多量。締まりあり、粘性やや弱い。
	13	10YR3/4暗褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物少量。締まりあり、粘性やや弱い。
	14	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	締まり・粘性弱い。
	15	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	壁際層。Ⅴ層粒多量。締まり・粘性弱い。
	16	10YR4/4褐色	砂質シルト	底面落ち込み層。炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
ＳＫ２	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	土器片・小礫出土層。炭化物少量。骨片状の白色物微量。締まりあり、粘性弱い。
	2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	土器片・小礫出土層。炭化物少量。骨片状の白色物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	3	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物中量。締まりやや弱く、粘性ある。
	4	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物少量。締まりあり、粘性やや弱い。
ＳＫ４	1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	焼土粒微量。骨片状の白色物微量。炭化物少量。締まりやや弱く、粘性ある。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色大型ブロック混在。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅴ層粒主体。締まり弱く、粘性やや強い。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物微量。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
ＳＫ９	1	10YR4/4褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まり・粘性ある。
	3	10YR3/2黒褐色	シルト	土器片・小礫出土層。炭化物微量。締まりやや弱く、粘性ある。
	4	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物やや多量。締まり・粘性ある。
	5	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	Ⅴ層粒やや多量。炭化物やや多量。締まりやや弱く、粘性ある。
	6	10YR3/3暗褐色	シルト	土質粗い。Ⅴ層ブロックやや多量。炭化物やや多量。締まり弱く、粘性ある。
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層粒主体。締まり・粘性やや弱い。
	8	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅴ層ブロック多量。炭化物やや多量。締まりやや弱く、粘性ある。
	9	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	Ⅴ層ブロック多量。締まりやや弱く、粘性ある。
ＳＫ10	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。
ＳＫ11	1	10YR5/6黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトブロック多量混在。炭化物微量。骨片状の白色物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層粒主体土。締まりやや弱く、粘性ある。
ＳＫ17	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	締まりやや強く、粘性やや弱い。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトブロックと10YR3/4暗褐色シルトブロックの混合土。炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	締まりやや強く、粘性やや弱い。
ＳＫ21	1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR4/3～5/4にぶい黄褐色ブロック混在。締まり・粘性ある。
ＳＫ22	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック中量。焼土粒・炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	土質粗い。10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック中量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
	3	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
ＳＸ３	1	10YR3/4暗褐色	シルト	堆積土基調土。焼土粒・炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR4/4褐色	シルト	北側壁際層。均質土。締まりあり、粘性やや弱い。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。焼土粒・炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。



第７図　１Ａ区西側遺構平面・断面図

器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。出土遺物のうち第20図に土器３点、磨石１点を図示した。

ＳＫ９土坑（第６図、図版７・９）

１Ａ区のＴ･Ｕ－１グリッドに位置し、ＳＫ１→ＳＫ９→Ｐ55の新旧関係となる。P56･57との新旧は不明である。規模は東西方向で144㎝､南北方向で47㎝までを確認し､深さは110㎝である。検出面での推定径は150㎝前後となる。底面は皿状で壁の一部はオーバーハングして立ち上がるためフラスコ状土坑と考えられる。堆積土は１層が褐色シルト、２・３層が黒褐色シルト、以下は暗褐色シルトが基調となり、１～３層は土器片や小型の礫を多量含み、堆積土全体に炭化物が混入する。

本土坑からは土器片120点､土製円盤７点､石器は石鏃１点､二次加工のある剥片２点､微細剥離痕のある剥片１点、剥片１点、敲石２点、石皿１点が出土した。出土遺物は１～３層にまとまっていた。また、ＳＫ１・９一括で取り上げたものとして土器片約630点、土製円盤６点、剥片１点があるが、遺物が集中するＳＫ９の１～３層からの出土と考え、ＳＫ９の出土遺物として扱った。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第21図に土器６点、土製円盤５点、石鏃１点、敲石２点を図示した。

遺構	層位	土　色	土　性	備　　考
ＳＫ３	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	小・中礫多量。焼土粒・炭化物・微量。締まり強く、粘性やや弱い。
	2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫多量。焼土粒・炭化物少量。締まりやや弱く、粘性弱い。
	3	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	小･中礫やや多量。10YR5/4にぶい黄褐色ブロックやや多量。焼土粒微量。炭化物中量。締まりやや弱く､粘性弱い。
ＳＫ５	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。焼土粒微量。締まり強く、粘性弱い。本層下部に中礫並ぶ。
	2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫多量。焼土粒・炭化物微量。締まりやや弱く、粘性弱い。
	3	10YR2/3～3/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫中量。焼土粒・炭化物微量。締まりやや弱く、粘性弱い。
	4	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	小・中礫少量。10YR5/3ブロックやや多量。焼土粒・炭化物微量。締まりやや弱く、粘性弱い。
ＳＫ６	1	10YR3/3暗褐色	シルト	小礫やや多量。締まりやや強く、粘性弱い。
	2	10YR4/4褐色	シルト	小礫やや多量。10YR6/4にぶい黄橙色粒中量。締まりあり、粘性弱い。
	3	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	10YR5/4にぶい黄橙色粒斑紋状にやや多量。炭化物多量。締まり弱く、粘性弱い。
ＳＫ７	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。焼土粒・炭化物少量。締まりあり、粘性やや弱い。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層ブロックやや多量。小・中礫やや多量。焼土粒・炭化物少量。締まりやや弱く、粘性ある。
	4	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	Ⅴ層ブロック少量。締まり・粘性やや弱い。
	5	10YR3/2褐色	砂質シルト	Ⅴ層ブロックやや多量。小礫中量。焼土粒微量。炭化物少量。締まり弱く、粘性やや弱い。
	6	10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。
	7	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層ブロック主体。10YR3/4暗褐色シルトブロック少量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
ＳＫ８	1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトブロックが混合。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	2	10YR4/4褐色	黒シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック少量。締まり・粘性ある。
	3	10YR5/6黄褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色シルトブロック少量。締まり・粘性やや弱い。
	4	10YR5/6黄褐色	粘質シルト	10YR4/4褐色シルトブロック混合。締まりやや強く、粘性ある。
ＳＫ16	1	10YR3/4暗褐色	シルト	小・中礫少量。焼土粒・炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	小・中礫少量。焼土粒・炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	3	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	焼土粒微量。炭化物やや多量。締まり・粘性弱い。
	4	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	焼土粒少量。炭化物多量。締まり・粘性弱い。
	5	10YR4/4褐色	シルト	焼土粒微量。炭化物少量。締まり・粘性やや弱い。
	6	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物中量。締まり・粘性やや弱い。
	7	10YR5/6黄褐色	シルト	Ⅴ層粒主体の均質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	8	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
	9	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	焼土粒少量。炭化物中量。締まり・粘性弱い。
	10	7.5YR4/4褐色	シルト	焼土粒やや多量。炭化物中量。締まり・粘性やや弱い。
	11	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロックやや多量。焼土粒・炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	12	10YR4/4褐色	砂質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粒やや多量。締まりやや弱く、粘性弱い。
ＳＫ20	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック中量。焼土粒微量。炭化物少量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粒やや多量。焼土粒微量。炭化物少量。締まり・粘性やや弱い。
	3	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックと10YR3/4暗褐色シルトブロックの混合土。焼土粒微量。炭化物少量。締まり・粘性やや弱い。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層粒主体。締まり弱く、粘性やや弱い。
ＳＫ23	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物微量。小礫中量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物微量。小礫中量。締まりあり、粘性やや弱い。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	小礫少量。締まりあり、粘性やや弱い。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色砂質シルトブロックが混合。小礫少量。締まり・粘性やや弱い。

ＳＫ10土坑（第６図、図版７・９・10）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ11→ＳＫ10→ＳＫ２の新旧関係となる。規模は東西方向で83㎝、南北方向で71㎝までが確認でき、深さは45㎝である。検出面での推定径は140㎝前後である。底面はほぼ平坦となり、一部で残存する壁はオーバーハングして立ち上がるためフラスコ状土坑と考えられる。堆積土は２層に分層され、暗褐色シルトが主体となる。出土遺物は土器小片が２点であるため図示していない。

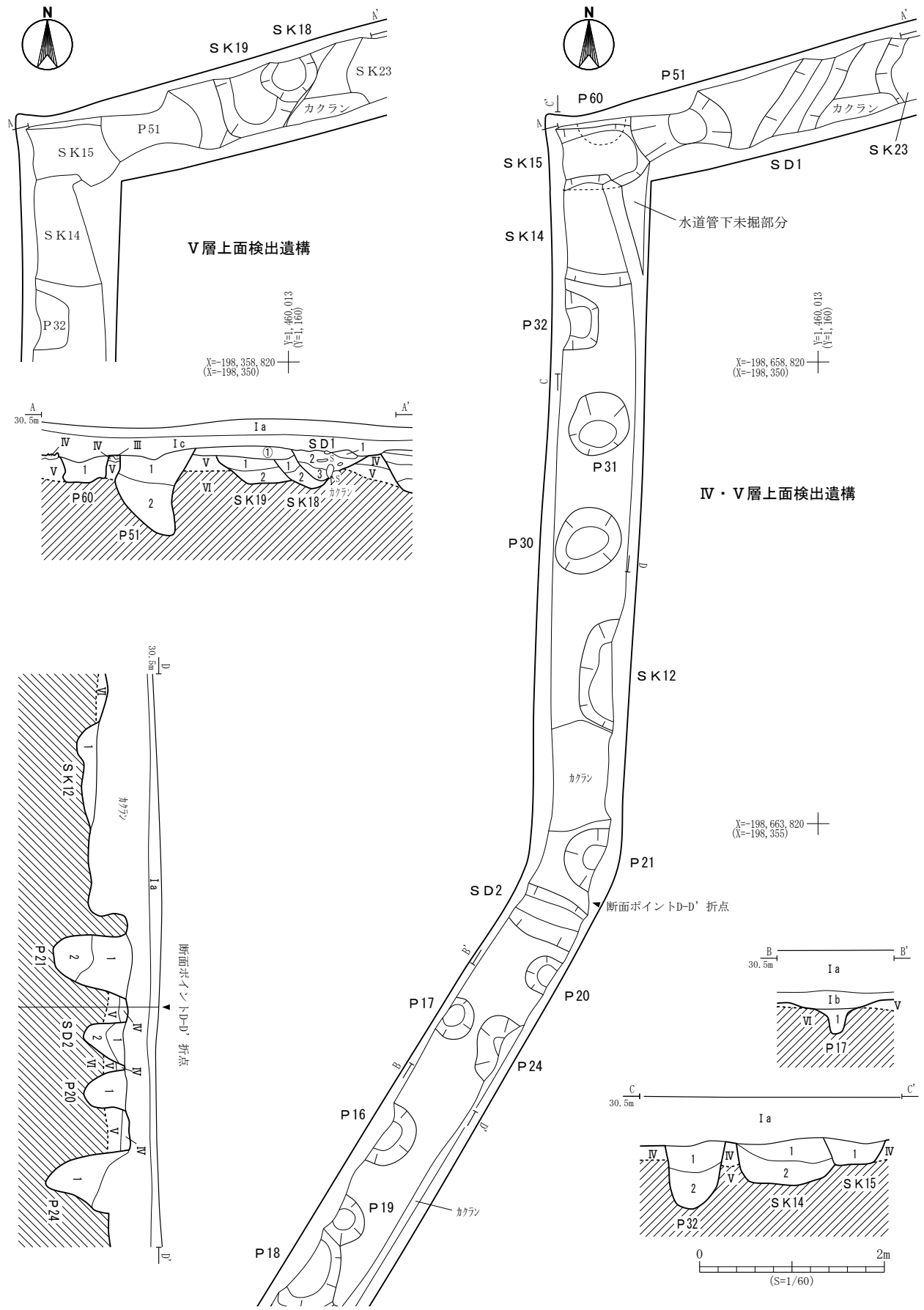
ＳＫ11土坑（第６図、図版７・９・10）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ22→Ｐ83→ＳＫ11→ＳＫ10→ＳＫ2､Ｐ64→ＳＫ11の新旧関係となる。規模は東西方向で204㎝、南北方向で70㎝までを確認し、深さは79㎝である。検出面での推定径220㎝前後である。底面は平坦で壁はオーバーハングして立ち上がり、フラスコ状土坑と考えられる。堆積土は２層に分層され、黄褐色シルトが主体となる。１層中には骨片状の白色物を微量含んでいる。

遺物は小片を主体とした土器片80点、三角壔形土製品１点、石器は尖頭器１点、剥片４点、磨石１点、敲石１点が出土した。三角壔形土製品は堆積土の１層から礫と混在する状態で出土した。出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第21・22図に土器９点、三角壔形土製品１点、尖頭器１点、磨石１点、敲石１点を図示した。

ＳＫ12土坑（第８図、図版10）

１Ｂ区のＱ－３グリッドに位置する。規模は南北方向で112㎝、東西方向では35㎝までが確認でき、深さは23㎝



第８図　１Ａ区西端、１Ｂ区、１Ｃ区北側遺構平面・断面図

である。平面形は楕円形が推測され、断面形は皿状である。底面には緩やかな凹凸がみられ、わずかに残る壁は開いて立ち上がる。堆積土は黒褐色砂礫の単層である。出土遺物はない。

ＳＫ13土坑（第９図、図版10）

１Ｃ区のＰ－６グリッドに位置する。ＳＫ13→ＳＫ25・Ｐ７・Ｐ12・Ｐ26・Ｐ29の新旧関係となる。Ｐ25・Ｐ28との新旧は不明である。規模は長軸方向で137㎝、短軸方向で97㎝までが確認でき、深さは25㎝である。平面形は楕円形が推測され、主軸方位はＮ－69°－Ｅを向く。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。堆積土は２層に分層され､褐色～暗褐色シルトが主体となる。遺物は堆積土中より土器片17点が出土した。いずれも小片であるが、第23図に土器２点を図示した。第23図１の土器から考えて土坑の時期は大木10式期と考えられる。石器は出土していない。

ＳＫ14土坑（第８図、図版10）

１Ｂ区のＱ－２グリッドに位置し、ＳＫ14→ＳＫ15の新旧関係となる。規模は東西方向で72㎝までが確認でき、南北方向は72㎝、深さは21㎝である。平面形は円形あるいは楕円形と推測される。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がる。堆積土は２層に分層され、１層は赤暗褐色砂質シルト、２層が暗褐色砂礫であり、いずれも焼土粒の混入が顕著である。

遺物は堆積土中から土器片51点が出土した。いずれも小片であるが、出土土器からみて土坑の時期は後期前葉と考えられる。このうち第23図に土器４点を図示した。石器は出土していない。

ＳＫ15土坑（第８図、図版10）

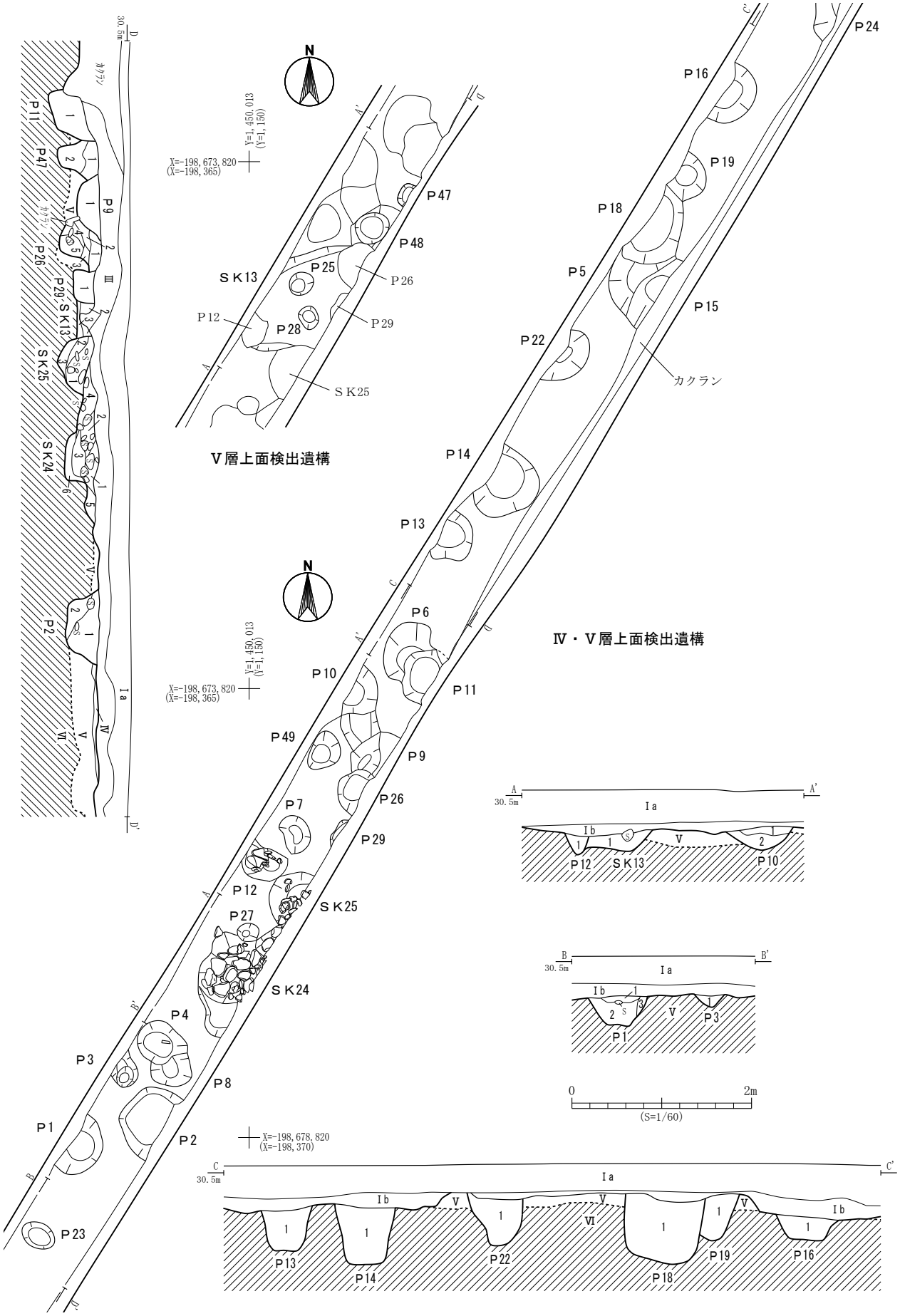
１Ｂ区北端のＱ－２グリッドに位置し、ＳＫ14→ＳＫ15→Ｐ60の新旧関係となる。Ｐ51との新旧は不明である。規模は東西方向で95㎝、南北方向で67㎝までが確認でき、深さは28㎝である。平面形は楕円形と推測され、主軸方位はＮ－79°－Ｅを向く。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり断面形は台形となる。堆積土は黒褐色砂礫である。本土坑から遺物は出土していない。

ＳＫ16土坑（第７図、図版10）

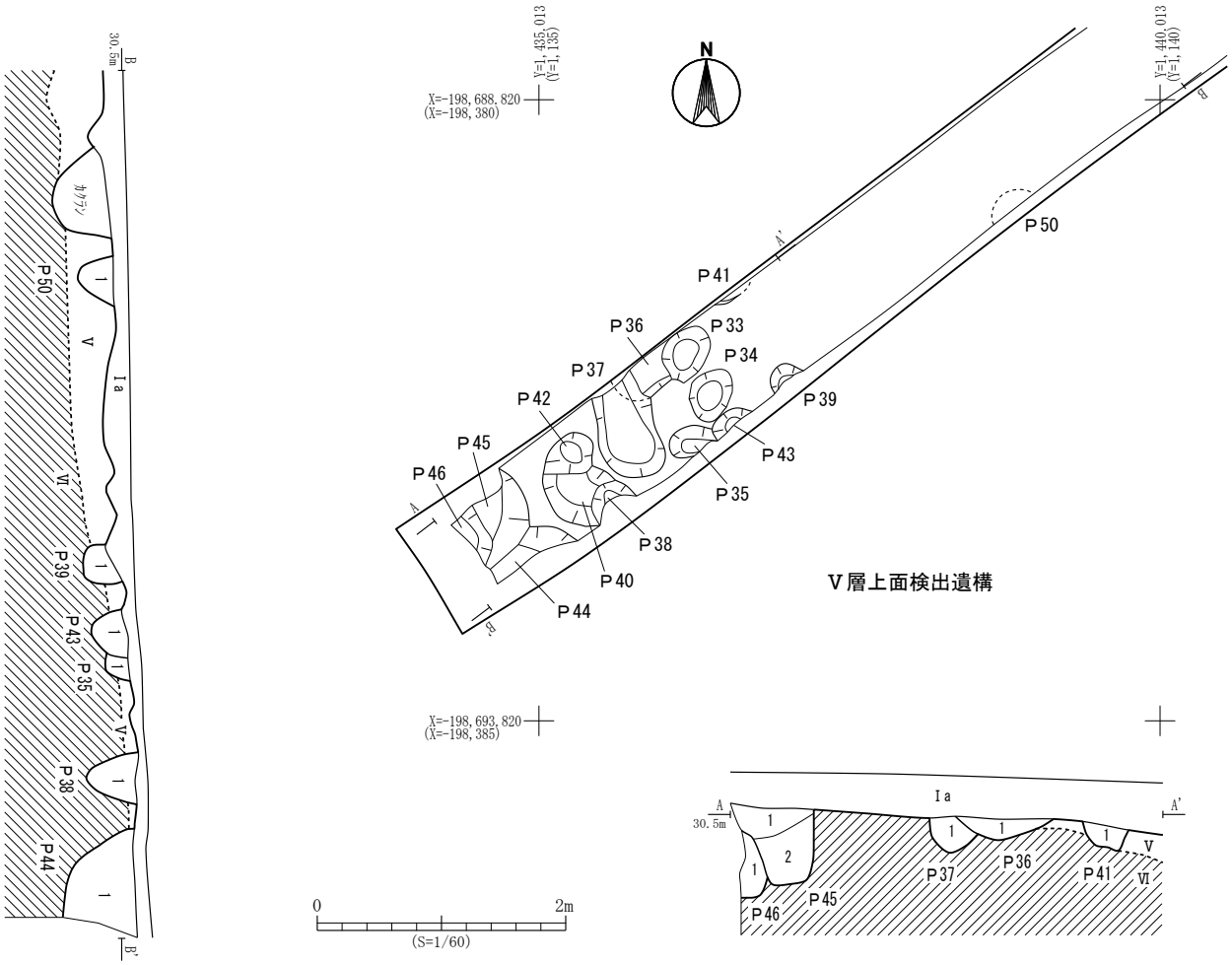
１Ａ区のＳ－１・２グリッドに位置し、Ｐ73→ＳＫ16→Ｐ59の新旧関係となる。規模は東西方向で180㎝、南北方向で45㎝までが確認でき、深さは94㎝である。検出面での推定径は200㎝前後である。底面は緩やかな凹凸をもち壁はオーバーハングして立ち上がるため、フラスコ状土坑と推測される。堆積土は12層に分層されるが、上位の１・２層が小～中型の礫を含む暗褐色シルトで、中位ではシルト層と砂質シルト層が薄い互層となっている。底面直上層の10層は焼土粒を多めに含む褐色シルトである。なお、断面図の11・12層とした部分は別遺構の可能性をもつものであるが、平面形が不明なため本土坑の中で示した。

遺物は土器片140点、土製円盤２点が出土した。これらは４～９層にまとまって出土した。出土土器は大木８ａ式期と大木10式期が混在しているが、深鉢口縁部の大破片（Ａ-091）を指標とすると土坑の時期は大木10式期と考えられる。第23図には土器11点、土製円盤１点を図示した。石器は出土していない。

遺構	層位	土色	土性	備考
ＳＫ12	1	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫多量。
ＳＫ14	1	5YR2/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。焼土粒やや多量。締まりあり、粘性弱い。
	2	7.5YR3/3暗褐色	砂礫	小・中礫多量。焼土粒中量。締まり・粘性弱い。
ＳＫ15	1	10YR3/2黒褐色	砂礫	小・中礫多量。焼土粒微量。締まり・粘性弱い。
ＳＫ18	①	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	ＳＫ19直上層。炭化物微量。締まりあり、粘性弱い。
	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	小礫中量。締まりやや弱く、粘性弱い。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	小礫中量。締まり・粘性弱い。
ＳＫ19	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	小礫やや多量。締まりやや弱く、粘性弱い。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質	小礫中量。締まり・粘性弱い。
ＳＤ１	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	締まり・粘性やや弱い。
	2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	径10㎝前後の円礫やや多量。下位にⅥ層砂粒少量。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層粒主体。径5㎝前後の円礫中量。
ＳＤ２	1	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。
	2	10YR3/2黒褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。



第９図　１Ｃ区遺構平面・断面図



第10図　１Ｄ区遺構平面・断面図

ＳＫ17土坑（第６図、図版10・11）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ22→ＳＫ17→Ｐ70・Ｐ71・Ｐ74の新旧関係となる。規模は東西方向で91㎝、南北方向で85㎝までが確認でき、深さは22㎝である。平面形は不整形であるが、遺物の出土状況からみて１基の土坑とした。底面は平坦で断面形は皿状となる。堆積土はにぶい黄褐色シルトが基調となる。

出土遺物は底面直上に深鉢が横位につぶれた状態で検出された。２個体の深鉢を中心に深鉢片が集中しており、これに剥片２点、石核１点が混じっていた。出土土器からみて土坑の時期は大木８ａ式期と考えられる。このうち第24～26図に土器12点、石核１点を図示した。

ＳＫ18土坑（第８図、図版11）

１Ａ区のＱ・Ｒ－２グリッドに位置し、ＳＫ19→ＳＫ18→ＳＤ１の新旧関係となる。規模は東西方向で62㎝、南北方向で49㎝までが確認でき、深さは34㎝である。平面形は円形と推測できる。底面から壁の立ち上がりにかけて

遺構	層位	土色	土性	備考
ＳＫ13	1	10YR4/6褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトブロックやや多量。炭化物少量。締まり・粘性ある。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	締まり・粘性ある。
	3	10YR4/6褐色	シルト	均質。締まり・粘性ある。
ＳＫ24	1	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性ある。
	2	10YR3/3暗褐色	砂礫	焼土粒・炭化物中量。締まり強く、粘性弱い。
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
	4	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	小礫・炭化物少量。締まり・粘性ある。
	5	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性やや弱い。
	6	10YR5/4にぶい黄褐色	砂礫	砂粒と径1㎝以内の小礫多量。締まり強く、粘性やや弱い。
ＳＫ25	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	小・中礫やや多量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性弱い。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	小礫少量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。
	3	10YR4/4褐色	砂質シルト	小礫少量。炭化物少量。締まり・粘性ある。

は椀状となる。堆積土は２層に分層され、小～中型の礫が混入する褐色砂質シルトが主体となる。また、断面図には本土坑直上に堆積する遺物包含層を①層として示している。これは別遺構の可能性をもつが、平面形が不明なため本土坑の中で示した。

遺物は土器片22点、石器は剥片１点が出土した。このうち第26図に土器２点を図示したが、時期としては大木８ａ～８ｂ式期と考えられる。ただし、本土坑が後期前葉としたＳＫ19を切っていることから、土坑の時期としては後期前葉以降となる可能性がある。

ＳＫ19土坑（第８図、図版11）

１Ａ区のＱ・Ｒ－２グリッドに位置し、ＳＫ19→ＳＫ18→ＳＤ１の新旧関係となる。東西方向で82㎝、南北方向で71㎝までが確認でき、深さは28㎝である。平面形は楕円形が推測できる。底面はほぼ平坦で壁は開いて立ち上がる。堆積土は２層に分層され、１層が暗褐色砂質シルト、２層がにぶい黄褐色砂質シルトとなり、いずれも小型の礫が混入する。

遺物は土器片16点が出土した。いずれも小片であり、このうち第26図に土器１点を図示した。図示した土器は後期前葉と考えられるものである。石器は出土していない。

ＳＫ20土坑（第７図、図版11）

１Ａ区のＲ・Ｓ－２グリッドに位置し、ＳＫ20→ＳＫ６の新旧関係となる。規模は東西方向で77㎝、南北方向で21㎝までが確認でき、深さは63㎝である。大部分が調査区外にかかっているため平面形は不明である。堆積土は３層に分層され、焼土粒や炭化物を含む暗褐色シルトが主体となる。

遺物は土器小片18点が出土したが､いずれも小片であるため土坑の時期は不明である。石器は磨石１点が出土し、第27図に図示した。

ＳＫ21土坑（第６図、図版11）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ21→Ｐ64→ＳＫ11の新旧関係となる。規模は東西方向で53㎝、南北方向で71㎝までが確認でき、深さは19㎝である。平面形は円形か楕円形が推測できる。底面は平坦で壁は開いて立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。

出土遺物は土器小片２点のみであり、土坑の時期は不明である。石器は出土していない。

ＳＫ22土坑（第６図、図版11）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ22→Ｐ83→ＳＫ11・ＳＸ１埋設土器及びＳＫ22→ＳＫ17の新旧関係となる。規模は東西方向が146㎝、南北方向では76㎝までが確認でき、深さは70㎝である。検出面での推定径は径160㎝前後である。平面形は円形が推測できる。底面はほぼ平坦で壁は垂直方向に立ち上がり、フラスコ状土坑と考えられる。堆積土は焼土粒・炭化物の混入する暗褐色あるいは褐色シルトが主体となる。

遺物は土器片170点、石器は剥片３点が出土した。堆積土中に破片類が散在する出土状況である。出土土器からみて土坑の時期は大木８ａ式期と考えられる。このうち第26図に土器８点を図示した。

ＳＫ23土坑（第７図、図版12）

１Ａ区のＲ－２グリッドに位置する。規模は東西方向が101㎝、南北方向では78㎝までが確認でき、深さは47㎝である。平面形はやや不整な楕円形と推測できる。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。堆積土は４層に分層され、１・２層が小型の礫を混入する暗褐色あるいはにぶい黄褐色砂質シルトで、３層はにぶい黄褐色シルト、４層はにぶい黄褐色砂質シルトである。

遺物は堆積土下層から底面直上にかけて土器片４点が出土した。少量ではあるが出土土器からみて土坑の時期は大木10式期と考えられる。このうち第27図に土器２点を図示した。石器は出土していない。

ＳＫ24土坑（第９図、図版12）

１Ｃ区のＯ･Ｐ－６グリッドに位置し、ＳＫ13→ＳＫ25→ＳＫ24の新旧関係となり、Ｐ27との新旧は不明である。規模は北東方向が116㎝、北西方向では54㎝までが確認でき、深さは27㎝である。平面形は円形が基本となるが、４層や５層とした不整に張り出す部分については堆積土の観察や遺物が連続して出土したことにより本土坑の一部と判断した。１・２層は石器や中型の礫が集中する層で、１～５層には炭化物が混入する。底面直上の６層は硬く締まる砂礫である。

遺物は礫の集中する層に混じって土器片46点、石器は石鏃１点、磨石１点、石皿２点が出土した。土器片はいずれも小片であるが、出土土器からみて土坑の時期は後期前葉と考えられる。出土遺物のうち第27図に土器２点、石鏃１点を図示した。

ＳＫ25土坑（第９図、図版12）

１Ｃ区のＰ－６グリッドに位置し、ＳＫ25→ＳＫ24の新旧関係となる。規模は北東方向が67㎝、北西方向では34㎝までが確認でき、深さは40㎝である。平面形は円形と推測できる。掘り込み形は椀状である。堆積土は１層中に小～中型の礫が多量混入し、堆積土全体に炭化物を含む。

遺物は礫の集中する層に混じって土器片33点、土製円盤１点、石器は磨石１点、石皿１点が出土した。土器は小片が多く、土坑の時期は不明である。このうち第27図に土器１点、磨石１点を図示した。図示した土器片は後期前葉と考えられる。

第２節　溝　跡（ＳＤ）

１Ａ区の西側と１Ｃ区の北側に計２条の溝跡を検出した。１Ａ区にあるＳＤ１の南東向きの方向性をみると、１Ｂ区内に延びる可能性があったが、１Ｂ区内で溝跡は検出されなかった。２条の溝跡はいずれもⅣ層を掘り込んで構築されている。

ＳＤ１溝跡（第８図、図版12）

１Ａ区のＱ・Ｒ－２グリッドに位置し、ＳＫ19→ＳＫ18→ＳＤ１の新旧関係となる。確認された長さは112㎝で、幅は53㎝、深さは33㎝である。主軸方位はＮ－30°－Ｅを向く。断面形は緩いＶ字形である。堆積土は３層に分層されるが、１・２層が暗褐色あるいは黒褐色砂質シルト、底面直上の３層はにぶい黄褐色砂質シルトとなる。

遺物は堆積土中から散在的に土器片13点が出土し、このうち第27図に土器１点を図示した。図示した土器片は大木８ａ式と考えられるが、溝跡の時期は不明である。石器は出土していない。

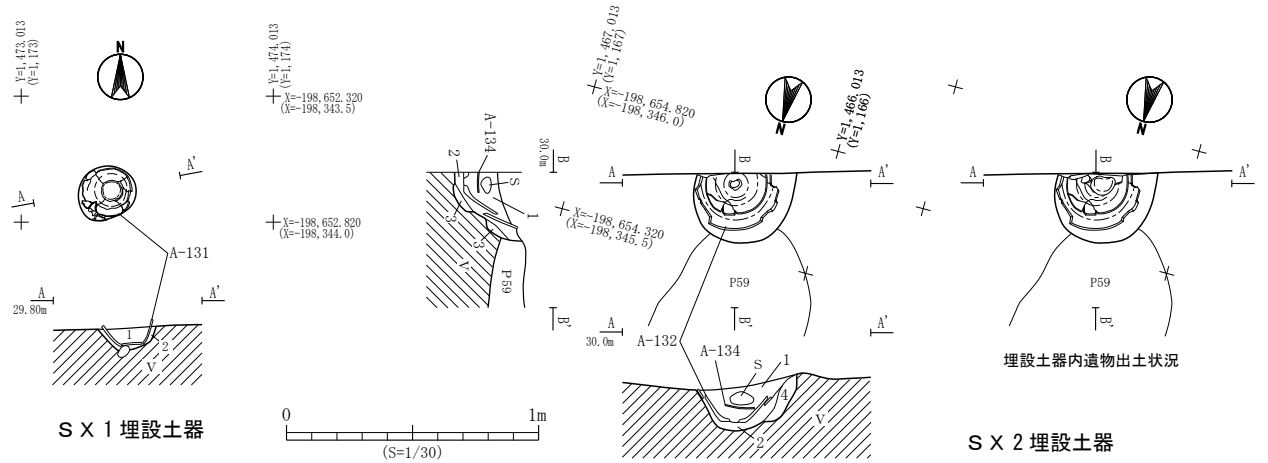
ＳＤ２溝跡（第８図、図版12）

１Ｃ区のＱ－４グリッドに位置する。確認された長さは72㎝で、幅53㎝、深さは45㎝である。主軸方位はＮ－65°－Ｗを向く。断面形はＵ字形である。堆積土は２層に分層され、黒褐色砂礫が主体となる。

遺物は堆積土中より土器片２点が出土したが、いずれも小片のため溝跡の時期は不明である。石器は出土していない。

第３節　埋設土器（ＳＸ）

２基の埋設土器が検出された。検出面はⅤ層上面である。いずれも１Ａ区内にあり、７ｍほどの間隔をおいて位置している。いずれも深鉢が埋設されている。



遺構	層位	土色	土性	備考
ＳＸ１埋設土器	1	10YR3/3暗褐色	シルト	土器内堆積土。炭化物微量。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	掘り込み充填土。締まり・粘性ある。
ＳＸ２埋設土器	1	10YR3/4暗褐色	シルト	埋設土器内堆積土。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	2	10YR3/3暗褐色～5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	掘り方堆積土。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	掘り方堆積土。締まり・粘性弱い。
	4	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	掘り方堆積土。締まり・粘性弱い。

第11図　ＳＸ１・２埋設土器平面・断面図

ＳＸ１埋設土器（第11図、図版13）

１Ａ区のＴ－１グリッドに位置し、ＳＫ22→Ｐ83→ＳＸ１埋設土器の新旧関係となる。調査区南壁にかかる状態で検出された。深鉢を正位の状態で埋設しており、検出面での掘り込み規模は径21～23㎝、検出面からの深さは９㎝である。埋設土器内の堆積土は炭化物を微量含む暗褐色シルトである。

検出時点では深鉢下部が遺存している状態であったが、検出面からの出土破片により頸部まで接合でき第28図に示した。埋設土器内からは遺物は出土していない。本遺構の時期は大木10式期と考えられる。

ＳＸ２埋設土器（第11図、図版13）

１Ａ区のＳ－２グリッドに位置し、Ｐ59→ＳＸ２埋設土器の新旧関係となる。調査区壁にかかる状態で検出された。深鉢が正位の状態で埋設されているが、輪積痕に沿って割れた状態で胴部がずれ込んでいる。底部には穿孔がみられる。掘り込みの規模は東西方向が39㎝、南北方向では28㎝までが確認でき、検出面からの深さは21㎝である。埋設土器内の堆積土は炭化物微量の暗褐色シルトである。

埋設土器内からは蓋をされたような状態で土器片と礫が検出され、同じく埋設土器内からは石鏃１点、二次加工のある剥片１点、剥片１点が出土した。第28図には埋設土器及び埋設土器内から出土した土器片２点と石鏃１点を図示した。本遺構の時期は大木10式期と考えられる。

第４節　性格不明遺構（ＳＸ）

ＳＸ３性格不明遺構（第６図、図版16）

１Ａ区東端のＵ－１グリッドに位置する。Ⅴ層上面からやや下げたレベルで床面状の平坦面が検出された。平坦面の範囲は南北1.5ｍ、東西0.5ｍほどであり、東壁では立ち上がり状の断面が確認できた。また、平坦面から掘り込まれたＰ81・82には柱痕状の断面が確認できたことから住居跡の可能性も視野に入れて調査を行ったが、炉跡などの施設が確認できないため、性格不明遺構とした。この他に平坦面で確認されたピットはＰ52～54・79がある。堆積土は３層に分層され、焼土粒・炭化物の混入する暗褐色シルトが基調と主体土となる。堆積土のうち１層はＳ

Ｋ９の堆積土と比較して明るみを帯びており、ＳＫ９の堆積土を覆うように見受けられたが、遺物分布の差から判断して断面図に示したＳＫ９の立ち上がりを想定した。

本遺構に伴うと考えられる出土遺物として土器片７点、石器は不定形石器２点、微細剥離痕のある剥片１点、剥片１点、磨製石斧１点が出土した。土器片はいずれも小片であり、第28図には不定形石器１点と磨製石斧１点を図示した。

第５節　ピット（Ｐ）

ピットは計83個検出された。１Ａ～１Ｃ区及び１Ｄ区西側に分布する。ピットの規模としては長径が27～102㎝、深さは８～74㎝であり、長径40～60㎝、深さが30～50㎝前後のものが中心となっている。断面形はＵ字状となるものが大部分で、柱痕跡の認められるものは１Ａ区東側にあるＰ81～83の３個である。堆積土は１Ａ区で検出されたピットはにぶい黄褐色シルトあるいは褐色シルトが基調となるが、１Ｂ～１Ｃ区ではⅥ層中に掘り込まれた影響もあり、黒褐色砂質シルトや砂礫が主体となっている。規模や形態からみて住居跡あるいは掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットもあるが、細長い調査範囲であるため、ピットの対応関係は不明である。

ピットからの出土遺物としては、83個中40個から土器片が351点が出土した。大部分は破片が混在した状況であるが、ピット８からは深鉢の大破片が立位の状態で出土した（写真図版14－３）。土製円盤はピット３個からそれぞれ１点ずつ出土した。石器はピット９個から計17点が出土したが、このうちピット12からは敲石３点が出土している。また、ピット62・70の堆積土中にはからは骨片状の白色物が微量確認された。

ピットについての詳細は第１・２表に示したピット一覧表を参照頂きたい。

第６節　遺構外出土遺物

遺構外からは土器片約660点、土製円盤５点、石器は石匙１点、二次加工のある剥片３点、微細剥離痕のある剥片１点、剥片６点が出土した。このうち２区から出土したものは土器片８点、土製円盤１点とわずかであり、いずれもⅠ層からの出土である。１区の遺構外出土遺物は大部分が１Ａ・１Ｂ・１Ｃ区からの出土であり、基本土層のⅡ～Ⅳ層の残りが悪いため、Ⅰ層から出土した遺物が中心となっている。出土した土器片の時期は大木９～10式期にかけてである。遺構外出土遺物のうち、第30図にミニチュア土器１点、土製円盤１点、石匙１点を示した。

第１表　ピット観察表（１）

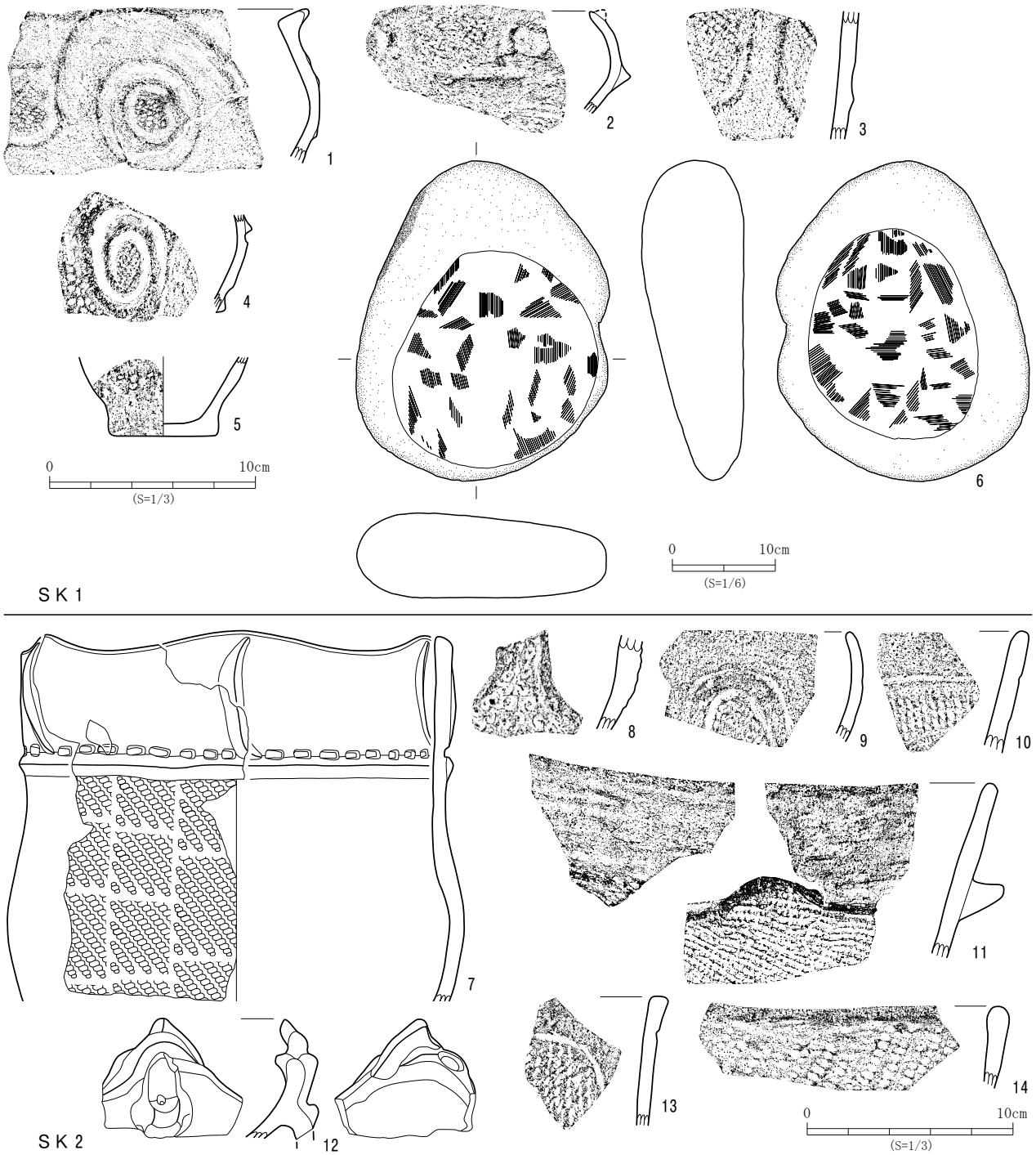
＜　＞現存値

遺構	位置（グリッド）	規模㎝ 長径	短径	深さ	堆積土 土色	土性	備考	出土遺物・新旧関係（古→新）	挿図	写真
Ｐ１	Ｏ－６・７	67	<38>	36	1層 10YR3/4暗褐色	シルト	締まりやや弱い、粘性ある。	縄文土器片30点。微細剥離痕のある剥片1点、敲石1点（第29図、写真図版26）。	9	14
					2層 10YR4/4褐色	シルト	砂粒少量。締まりやや弱く、粘性ある。			
					3層 10YR5/6黄褐色	シルト	Ｖ層主体。締まり・粘性ある。			
Ｐ２	Ｏ－６・７	80	<52>	27	1層 10YR4/4褐色	シルト	下層に中礫分布。締まりあり、粘性やや弱い。	-	9	14
					2層 10YR4/3にぶい黄褐色	粘質シルト	Ｖ層粒多量。締まり・粘性ある。			
Ｐ３	Ｏ－６	<29>	<29>	23	1層 10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小礫少量、ピット壁沿いの堆積土。	縄文土器片1点。	9	-
Ｐ４	Ｏ－６	57	44	45	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫やや多量。炭化物中量。	縄文土器片44点。土製円盤1点。石鏃1点（第29図、写真図版26）、微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点。Ｐ8と重複。	9	14
Ｐ５	Ｐ－５	<77>	<77>	33	10YR3/4暗褐色	砂礫	小･中礫多量。10YR5/4粒子やや多量。締まり･粘性弱い。	Ｐ15・Ｐ18と重複。	9	-
Ｐ６	Ｐ－５	72	<51>	18	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫多量。	Ｐ11と重複。	9	-
Ｐ７	Ｐ－６	41	29	15	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小礫微量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片11点。ＳＫ13→Ｐ7。	9	
Ｐ８	Ｏ－６	<33>	44	26	10YR3/2黒褐色	砂礫	小・中礫やや多量。	縄文土器大破片1点（第29図、写真図版26）。Ｐ４と重複。	9	14
Ｐ９	Ｐ－６	55	32	24	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小・中礫中量。10YR5/4粒中量。締まり・粘性弱い。	土器片15点。Ｐ26・Ｐ47・48→Ｐ9。	9	14
Ｐ10	Ｐ－５・６	61	<34>	17	1層 10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小礫中量。締まり・粘性弱い。	-	9	-
					2層 10YR4/4褐色	砂質シルト	小・中礫中量。締まり・粘性弱い。			
Ｐ11	Ｐ－５・６	63	<39>	36	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫多量。上位に土器片出土。	縄文土器片38点。Ｐ47→Ｐ11。	9	-
Ｐ12	Ｏ・Ｐ－６	<50>	36	10	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片3点。敲石3点（第29図、写真図版26）。ＳＫ13→Ｐ12。	9	14
Ｐ13	Ｐ－５	60	<37>	44	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中円礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片1点、土製円盤？1点。	9	14
Ｐ14	Ｐ－５	78	<55>	59	10YR3/3暗褐色～10YR4/4褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片1点。	9	14
Ｐ15	Ｐ－５	92	<25>	57	10YR3/4暗褐色	砂礫	小･中礫多量。10YR5/4粒子やや多量。締まり･粘性弱い。	縄文土器片29点。剥片1点。Ｐ5と重複。	9	14
Ｐ16	Ｑ－４	70	<41>	29	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	-	9	14
Ｐ17	Ｑ－４	47	<31>	29	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	-	8	15
Ｐ18	Ｐ－４・５	92	<48>	43	10YR3/3暗褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。	Ｐ19→Ｐ18。Ｐ5と重複。	9	14
Ｐ19	Ｐ・Ｑ－４	55	<44>	32	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫やや多量。締まり。粘性弱い。	Ｐ19→Ｐ18。	9	14
Ｐ20	Ｑ－４	<28>	39	25	10YR2/3黒褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。	-	8	-
Ｐ21	Ｑ－４	<39>	72	64	1層 10YR3/2黒褐色	砂礫	小・中礫やや多量。締まり・粘性弱い。	-	8	-
					2層 10YR4/3にぶい黄褐色	砂礫	小・中礫やや多量。締まり・粘性弱い。	-		
Ｐ22	Ｐ－５	<68>	<41>	36	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。	-	9	-
Ｐ23	Ｏ－７	40	28	22	10YR4/3にぶい黄褐色～10YR3/4暗褐色	砂礫	小・中礫やや多量。締まり強く、粘性弱い。	縄文土器片1点。	9	-
Ｐ24	Ｑ－４	71	<32>	65	10YR3/3暗褐色	砂礫	小・中礫多量。締まり・粘性弱い。	-	8	-
Ｐ25	Ｐ－６	28	25	13	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	締まり・粘性ある。	縄文土器片3点。ＳＫ13と重複。	9	-
Ｐ26	Ｐ－６	50	<32>	33	1層 10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片8点。ＳＫ13→Ｐ26→Ｐ9･Ｐ29。	9	-
					2層 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。			
					3層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。			
					4層 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	Ｖ層粒子やや多量、締まりやや弱い、粘性ある。			
					5層 10YR4/4褐色	シルト	締まりやや弱く、粘性ある。			
Ｐ27	Ｏ・Ｐ－６	25	20	11	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。	縄文土器片1点。ＳＫ24と重複。	9	-
Ｐ28	Ｐ－６	24	20	12	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	締まり・粘性ある。	縄文土器片2点。ＳＫ13と重複。	9	-
Ｐ29	Ｐ－６	<36>	<7>	8	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	中礫中量。焼土粒・炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。	縄文土器片1点。ＳＫ13→Ｐ26→Ｐ29。	9	-
Ｐ30	Ｑ－３	77	65	31	10YR3/2黒褐色	砂礫	中礫多量。締まり・粘性弱い。	-	8	-
Ｐ31	Ｑ－３	72	61	53	10YR3/2黒褐色	砂礫	中礫多量。締まり・粘性弱い。	-	8	15
Ｐ32	Ｑ－２	<35>	65	57	1層 10YR3/2黒褐色	砂礫	小礫やや多量。炭化物少量。締まり･粘性弱い。	-	8	15
					2層 10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫やや多量。炭化物少量。締まり･粘性弱い。			
Ｐ33	Ｍ－９	46	34	18	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	Ｐ36と重複。	10	-
Ｐ34	Ｍ－９	44	32	24	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片7点。	10	-
Ｐ35	Ｍ－９	<38>	25	19	10YR3/2黒褐色	砂礫	小礫多量。Ｖ層粒中量。締まり・粘性弱い。	Ｐ35→Ｐ43。	10	-
Ｐ36	Ｍ－９	79	<28>	17	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片9点（第29図、写真図版26）。Ｐ37→Ｐ36。Ｐ33と重複。	10	-
Ｐ37	Ｍ－９	<84>	46	29	10YR3/3暗褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	Ｐ37→Ｐ36。	10	-
Ｐ38	Ｍ－９	<25>	36	39	10YR3/2黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片1点。Ｐ40と重複。	10	-
Ｐ39	Ｍ－９	29	15	31	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片1点。	10	15
Ｐ40	Ｍ－９	<60>	49	22	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	やや粘質。小･中礫多量。締まり弱く･粘性ある。	Ｐ38・Ｐ42と重複	10	-
Ｐ41	Ｍ－９	<35>	<5>	19	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	-	10	-
Ｐ42	Ｍ－９	47	34	35	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片3点。Ｐ40と重複。	10	-
Ｐ43	Ｍ－９	36	<13>	29	10YR2/3黒褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	Ｐ35→Ｐ43。	10	-
Ｐ44	Ｌ－９	<73>	<25>	57	10YR3/3暗褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	縄文土器片19点。Ｐ45・Ｐ46と重複。	10	-
Ｐ45	Ｌ－９	<62>	<60>	62	1層 10YR3/3暗褐色	砂礫	小礫多量。締まりやや弱く、粘性弱い。	Ｐ46→Ｐ45。Ｐ44と重複。	10	15
					2層 10YR3/4暗褐色	砂礫	小礫多量。土質粗い。締まり･粘性極めて弱い。			
Ｐ46	Ｌ－９	<47>	<23>	74	10YR4/4褐色	砂礫	小礫多量。締まり・粘性弱い。	Ｐ46→Ｐ45。Ｐ44と重複。	10	15

第２表　ピット観察表（２）

＜　＞現存値

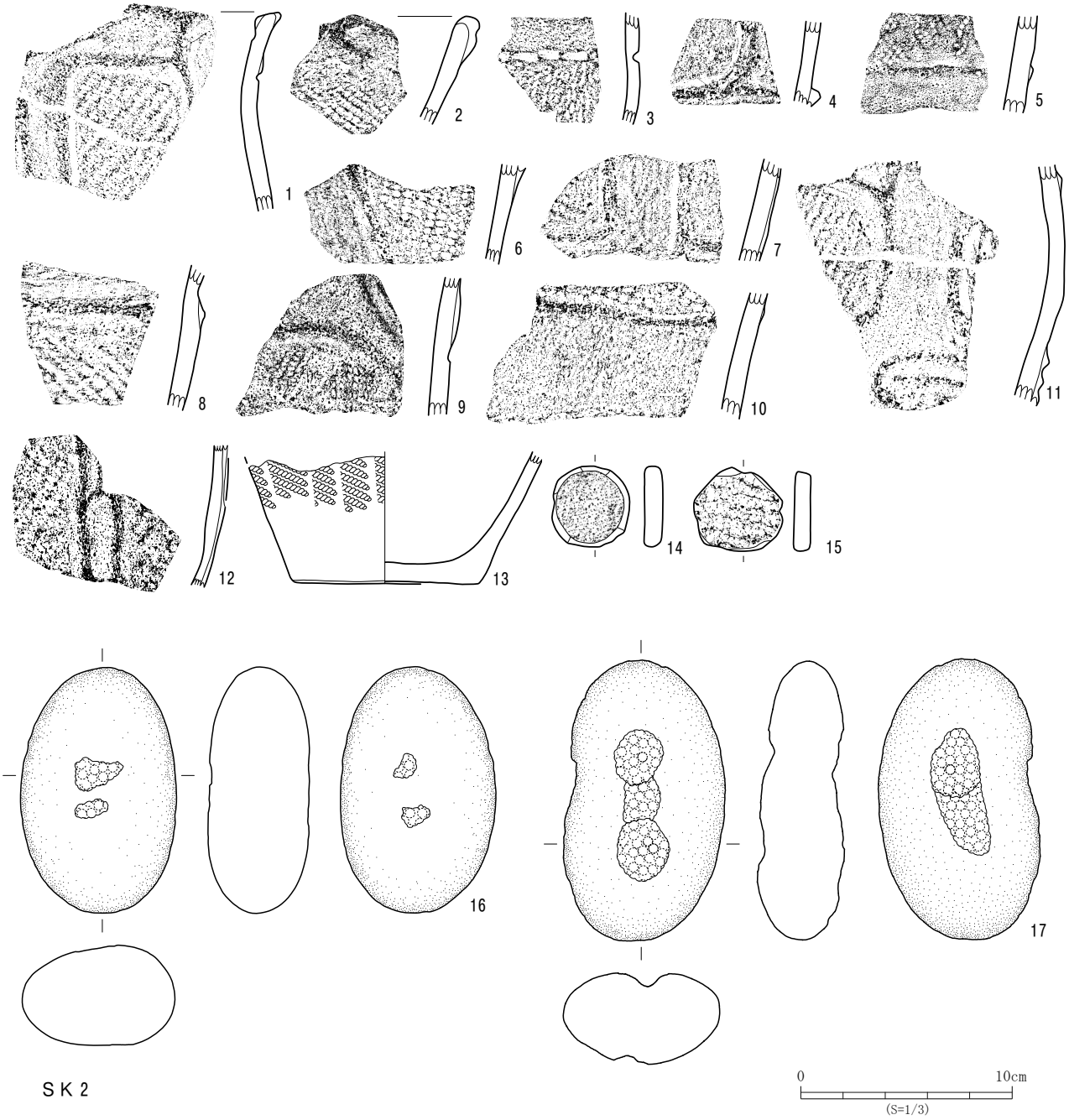
遺構	位置（グリッド）	規模㎝ 長径	短径	深さ	堆積土 土色	土性	備考	出土遺物・新旧関係（古→新）	挿図	写真
P47	P－6	27	<13>	14	1層 10YR4/4褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。小礫中量。締まり・粘性ある。	縄文土器片2点。P47→P9・P11。	9	-
					2層 10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒微量。炭化物少量。小礫中量。締まりあり、粘性やや弱い。			
P48	P－6	38	33	15	10YR3/4暗褐色	シルト	締まり・粘性ある。	-	9	-
P49	P－6	46	32	24	10YR3/4暗褐色	シルト	締まり・粘性ある。	-	9	-
P50	M－9	40	不明	29	10YR2/3黒褐色	シルト	締まり・粘性弱い。	縄文土器片2点。	10	-
P51	Q－2	102	<68>	70	1層 10YR4/4褐色	砂質シルト	小・中礫少量。締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片7点。不定形石器1点（第30図、写真図版26）。ＳＫ15と重複。	8	-
					2層 10YR3/4暗褐色	砂礫	小・中礫多量。炭化物微量。締まり・粘性弱い。			
P52	U－1	19	16	12	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。	ＳＸ3→P52。	6	-
P53	U－1	<22>	23	15	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。	P54と重複。	6	-
P54	U－1	<20>	35	19	10YR3/4暗褐色	シルト	焼土粒微量。炭化物少量10YR5/4にぶい横位褐色ブロック中量。締まりやや強く、粘性弱い。	ＳＫ1→P54→P79。ＳＸ3→P54。P53と重複。	6	-
P55	T－1	<44>	<34>	35	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層粒多量。炭化物少量。締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片3点。ＳＫ9→P55。P56・P71と重複。	6	-
P56	T－1	<22>	<22>	21	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。	縄文土器片2点。ＳＫ9・P55・P57と重複。	6	-
P57	T・U－1	<34>	<24>	23	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりやや強く、粘性ある。	ＳＫ9・P56・P58と重複。	6	-
P58	T・U－1	<29>	24	22	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。	P57と重複。	6	-
P59	S－1・2	<67>	57	17	1層 7.5YR4/3褐色	シルト	焼土粒中量、炭化物微量、締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片42点（第30図、写真図版26）。剥片1点。ＳＫ16→P59→ＳＸ2埋設土器。	7	13
					2層 10YR4/4褐色	シルト	焼土粒少量。炭化物微量。締まり・粘性やや弱い。			
P60	Q－2	53	不明	28	10YR3/3暗褐色	砂礫	小礫やや多量。10YR4/4褐色ブロック中量。下部に15～20㎝大の礫。	ＳＫ15→P60。	8	-
P61	R・S－2	<17>	28	25	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物少量。締まり・粘性やや弱い。	P62と重複。	7	-
P62	S－2	<13>	<12>	<25>	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物少量。骨片状白色物微量。締まり・粘性やや弱い。	縄文土器片2点。P61・P63と重複。	7	-
P63	S－2	<29>	<24>	36	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物少量。締まり・粘性やや弱い。	縄文土器片1点。P62・P68と重複。	7	-
P64	T－1	<30>	47	36	10YR4/4褐色	砂質シルト	焼土粒少量。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。	ＳＫ21→P64→ＳＫ11。	6	11
P65	S・T－1	44	<16>	34	10YR4/4褐色	シルト	締まり・粘性ある。	P76→P65。	6	15
P66	S－1	30	<17>	49	10YR4/4褐色	シルト	Ⅴ層粒子やや多量。締まりやや強く、粘性ある。	-	6	-
P67	T－1	18	<11>	35	10YR4/4褐色	シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。	-	6	-
P68	S－2	<38>	<27>	37	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	締まり・粘性弱い。	縄文土器片2点。P63・P69と重複。	7	-
P69	S－2	40	30	26	10YR3/4暗褐色	シルト	締まり・粘性弱い。	P68と重複。	7	-
P70	T－1	<47>	32	28	10YR3/3暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。骨片状白色物微量。	縄文土器片30点。剥片2点。ＳＫ22→ＳＫ17→P70。P71と重複。	6	-
P71	T－1	43	<27>	40	10YR3/4暗褐色	シルト	締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片6点。ＳＫ17→P71。P55・P70と重複。	6	-
P72	S－2	<31>	<36>		10YR4/4褐色	砂質シルト	炭化物微量。締まりやや弱く、粘性弱い。	ＳＫ8・P73と重複。	7	-
P73	S－2	73	<41>	46	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片1点。土製円盤1点（第30図、写真図版26）。不定形石器1点（第30図、写真図版26）。P73→ＳＫ16。P72と重複。	7	-
P74	T－1	24	21	17	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	締まり・粘性弱い。	縄文土器片8点。ＳＫ17→P74。	6	-
P75	T－1	19	<9>	32	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量。締まり・粘性ある。	縄文土器片2点。	6	-
P76	S・T－1	<13>	16	14	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	炭化物少量、締まり・粘性やや弱い。	縄文土器片1点。P76→ＳＫ4・P65。	6	15
P77	S－2	<65>	<20>	21	10YR4/4褐色	砂質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロックやや多量。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。	縄文土器片3点。	7	-
P78	T－1	16	13	16	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロックやや多量。	-	6	15
P79	U－1	<29>	<17>	43	1層 10YR4/4褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。	磨石1点。ＳＫ1→P54→P79。ＳＸ3・P81→P79。	6	-
					2層 10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色ブロック少量。			
					3層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック多量。10YR3/4暗褐色シルトブロック中量。締まり・粘性やや弱い。			
					4層 10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒主体。締まり・粘性やや弱い。			
					5層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック主体。締まりやや弱く、粘性ある。			
P80	S－1	25	16	25	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	締まりあり、粘性やや弱い。	P80→ＳＫ4。	6	-
P81	U－1	<53>	<21>	53	1層 10YR3/2黒褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量。焼土粒微量。炭化物少量。	縄文土器片7点。P81→P79。P82と重複。柱痕跡を確認。	6	15
					2層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック多量。10YR4/4褐色ブロック中量。締まりある。			
					3層 10YR4/4褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量。炭化物微量。締まりあり、粘性やや弱い。			
					4層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粒子主体。締まり・粘性弱い。			
P82	U－1	<35>	<77>	52	1層 10YR4/2灰黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量。炭化物微量。締まりやや弱く、粘性ある。	P81と重複。柱痕跡を確認。	6	-
					2層 10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック多量。炭化物微量。締まり・粘性ある。			
P83	T－1	54	不明	67	1層 10YR4/4褐色	シルト	焼土粒・炭化物微量。	縄文土器4点（第30図、写真図版26）。ＳＫ22→P83→ＳＫ11・ＳＸ1埋設土器。柱痕跡を確認。	6	-
					2層 10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色シルトブロック少量。			
					3層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトブロック中量。締まり・粘性やや弱い。			
					4層 10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	締まり・粘性やや弱い。			
					5層 10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	締まり・粘性やや弱い。			



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-001	ＳＫ1	中層	深鉢-口縁部	円形隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-1
2	A-002	ＳＫ1	上層	深鉢-口縁部	円形・楕円区画隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	隆線剥落。器面の摩滅激しい。	18-2
3	A-003	ＳＫ1	中層	深鉢-胴部	隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	18-3
4	A-004	ＳＫ1	下層	深鉢-口縁部	渦巻隆沈線文、円形刺突文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-4
5	A-005	ＳＫ1	中層	深鉢-底部	縄文ＲＬ縦位施文？ 底面：ナデ。	器面の摩滅激しい。	18-5
7	A-006	ＳＫ2	1層	深鉢-口縁～胴部	推定口径20.3㎝、残存高17.0㎝。口縁部:鰭状隆線文。頸部:横位隆線文、連続刺突文。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。	波状口縁（6単位？）	18-7
8	A-007	ＳＫ2	3～4層	深鉢-把手	円形刺突文。	-	18-8
9	A-008	ＳＫ2	3～4層	深鉢-口縁部	「∩」字状沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	18-9
10	A-009	ＳＫ2	3～4層	深鉢-口縁部	横位沈線文、撚糸文Ｒ縦位施文。	-	18-10
11	A-010	ＳＫ2	3～4層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：無文。頸部：横位・鰭状隆線文。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。	波状口縁。	18-11
12	A-011	ＳＫ2	1～2層	深鉢？-口縁突起	橋状把手？、隆線文、刺突文、指頭状押圧文。	-	18-12
13	A-012	ＳＫ2	1層	深鉢-口縁部	沈線文、撚糸文Ｌ縦位施文。	波状口縁。	18-13
14	A-013	ＳＫ2	1層	深鉢-口縁部	縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-14

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	備考	写真図版
6	Kc-f-1	ＳＫ1	下層上位	礫石器-石皿	安山岩	31.1	25.6	9.9	1,005.5	磨1＋1、被熱痕あり。	18-6

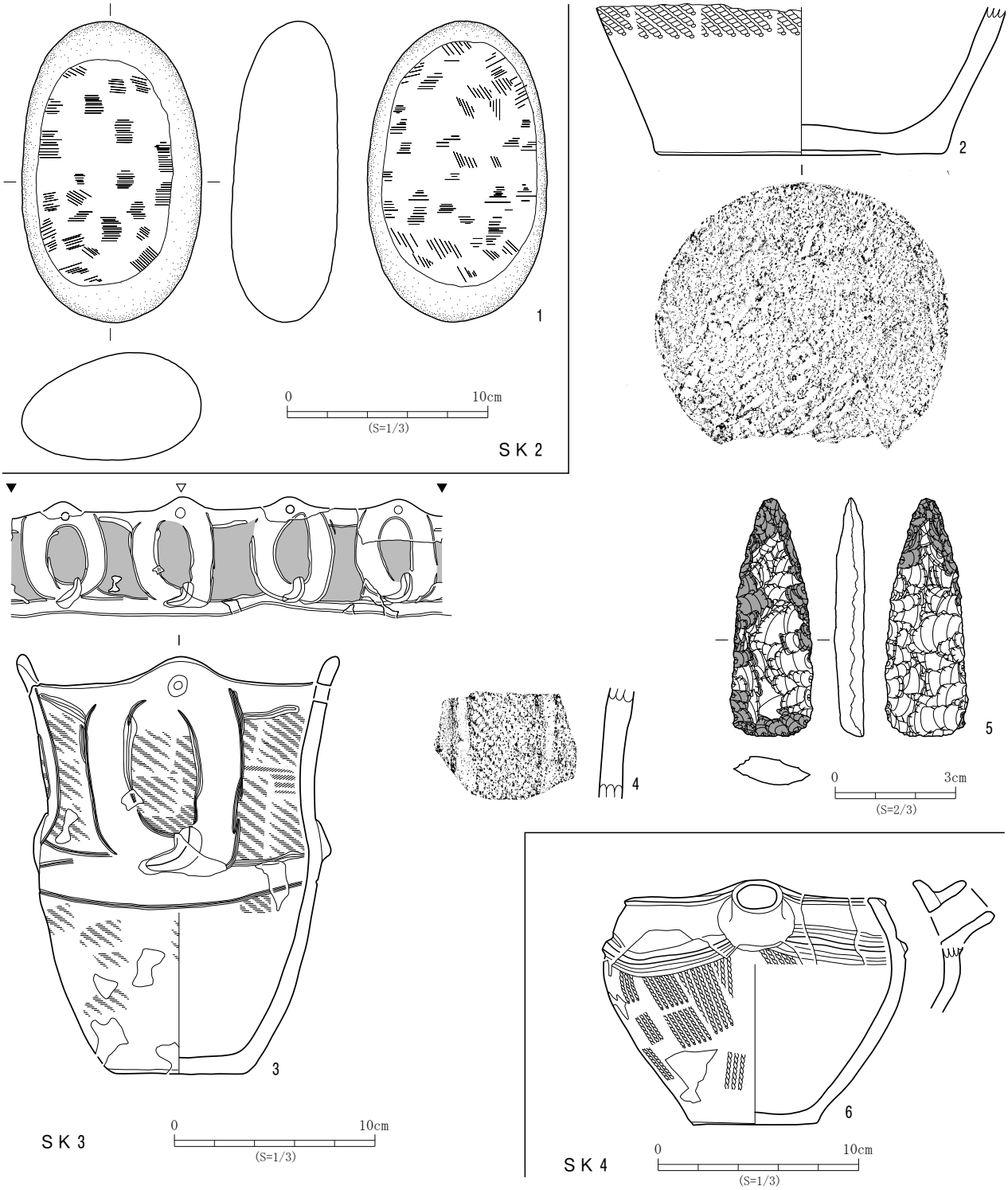
第12図　ＳＫ１出土遺物、ＳＫ２出土遺物（１）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-014	ＳＫ２	1層	深鉢-口縁～胴部	内外面隆沈線文。縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-15
2	A-015	ＳＫ２	1～2層	深鉢-口縁部	鰭状隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	波状口縁。	18-16
3	A-016	ＳＫ２	1～2層	深鉢-胴部	横位連続刺突文。撚糸文Ｌ縦位施文。	-	18-17
4	A-017	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	隆線文。	-	18-18
5	A-018	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	横位隆線文、結節縄文ＬＲ縦位施文。	-	18-19
6	A-019	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-20
7	A-020	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	18-21
8	A-021	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	横位隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	18-22
9	A-022	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	隆沈線文、縄文ＲＬ縦位・斜位施文。	-	18-23
10	A-023	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-24
11	A-024	ＳＫ２	1～2層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-25
12	A-025	ＳＫ２	1層	深鉢-胴部	胴部区画隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	18-26
13	A-026	ＳＫ２	3～4層	深鉢-胴下～底部	底径8.9㎝、残存高6.2㎝。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。底部：ナデ。	-	18-27
14	P-01	ＳＫ２	2～3層	土製円盤	胴部片利用。寸法：縦3.8㎝、横3.7㎝。重量16.0ｇ。	-	18-28
15	P-02	ＳＫ２	3～4層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ。寸法：縦3.9㎝、横4.2㎝。重量15.8ｇ。	土錘？	18-29

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器　種	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
16	Kc-c-1	ＳＫ２	上層	礫石器-敲石	安山岩	11.6	7.4	4.8	584.0	敲2+2。	19-2
17	Kc-b-1	ＳＫ２	中層	礫石器-凹石	安山岩	13.3	7.7	4.3	520.0	凹3+2。	19-3

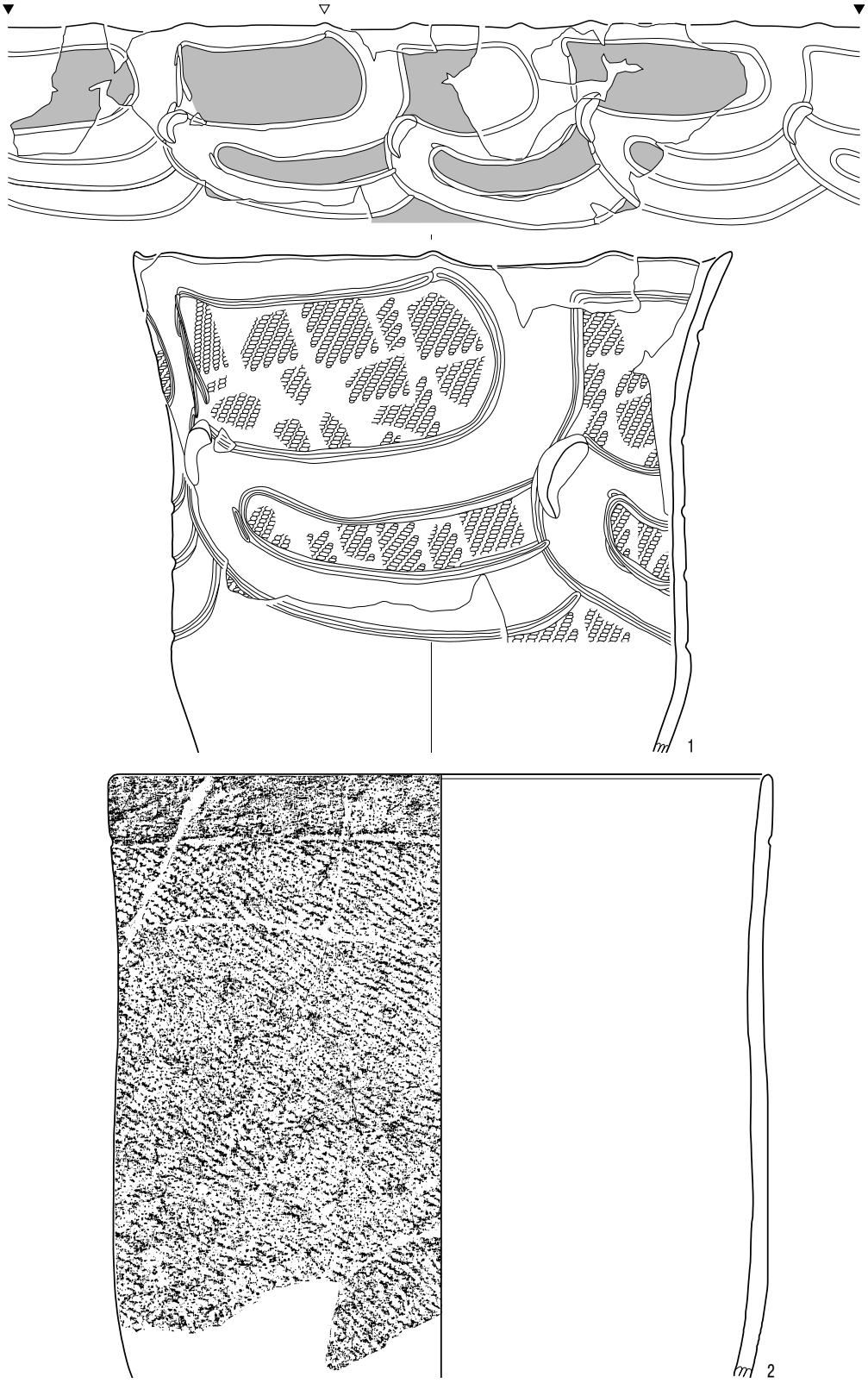
第13図　ＳＫ２出土遺物（２）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
2	A-027	ＳＫ３	2層	深鉢-胴下～底部	底径14.5㎝、残存高7.5㎝。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。底部：網代痕・ナデ。	-	19-5
3	A-028	ＳＫ３	2層	小型深鉢-口縁～底部	推定口径15.6㎝、底径6.5㎝、器港20.8㎝。口縁部：4単位の沈線区画文、波頂部に焼成前の穿孔１ヵ所と円形の凹み１ヵ所残存。胴部：横位沈線文、鰭状隆線文。口縁～胴部：無節縄文Ｌ縦位施文。	波状口縁。	19-4
4	A-029	ＳＫ３	2層	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	19-6
6	A-030	ＳＫ４	中層	注口土器？ -口縁～底部	推定口径12.4㎝、底径6.1㎝、残存高11.3㎝。口縁部:区画隆沈線文、注口？ 胴部:撚糸文Ｒ縦位施文→ナデ。	波状口縁。	19-8

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器　種	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-a-1	ＳＫ２	上層	礫石器-磨石	頁岩	15.0	9.0	5.4	1,096.0	磨1+1。	18-30
5	Ka-f2-1	ＳＫ３	上層	打製石器-石篦	珪質頁岩	5.9	2.1	0.8	9.7	二重パティナあり。	19-7

第14図　ＳＫ２出土遺物（３）、ＳＫ３出土遺物、ＳＫ４出土遺物（１）

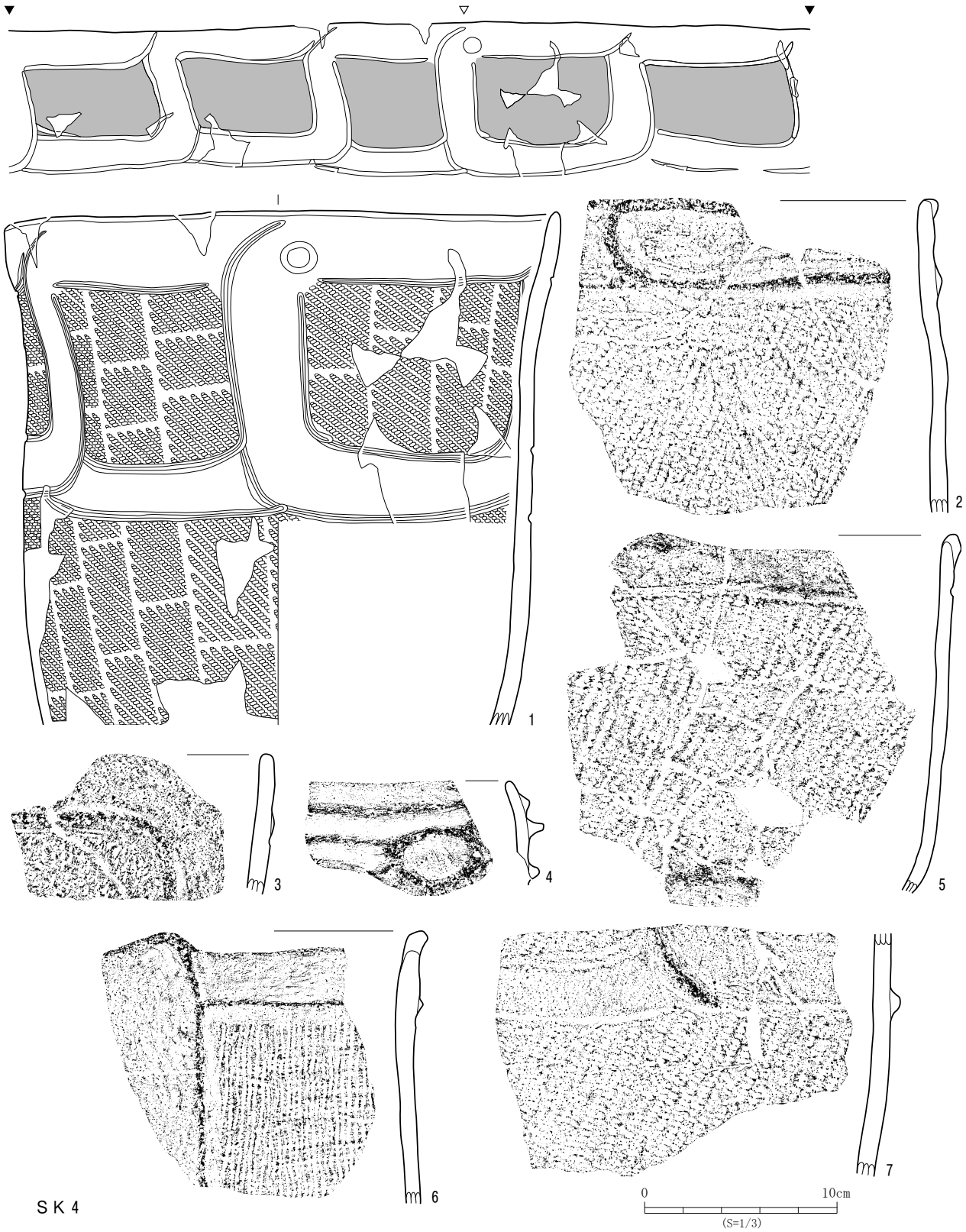


ＳＫ４

0　10cm
(S=1/3)

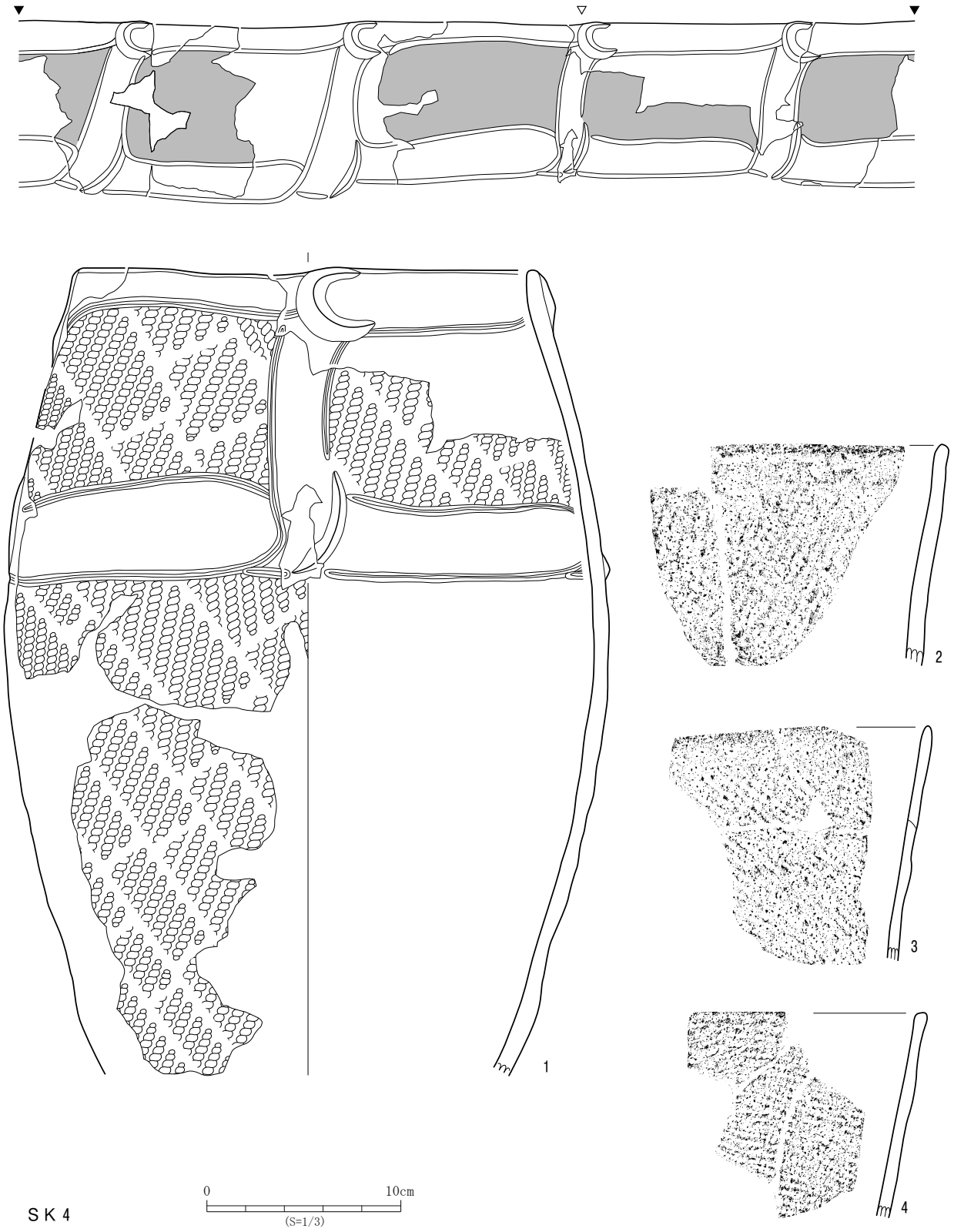
図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種･部位	文様等	備考	写真図版
1	A-031	ＳＫ４	1層	深鉢･口縁～胴部	口径27.3㎝、残存高23.0㎝。口縁部：小突起８ヵ所。口縁～胴部：「Ｓ」字状区画沈線文（４単位）、鰭状隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	19-9
2	A-032	ＳＫ４	3層	深鉢･口縁～胴部	推定口径30.0㎝、残存高27.4㎝。口縁部：無文帯、横位区画沈線文。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。	-	19-10

第15図　ＳＫ４出土遺物（２）



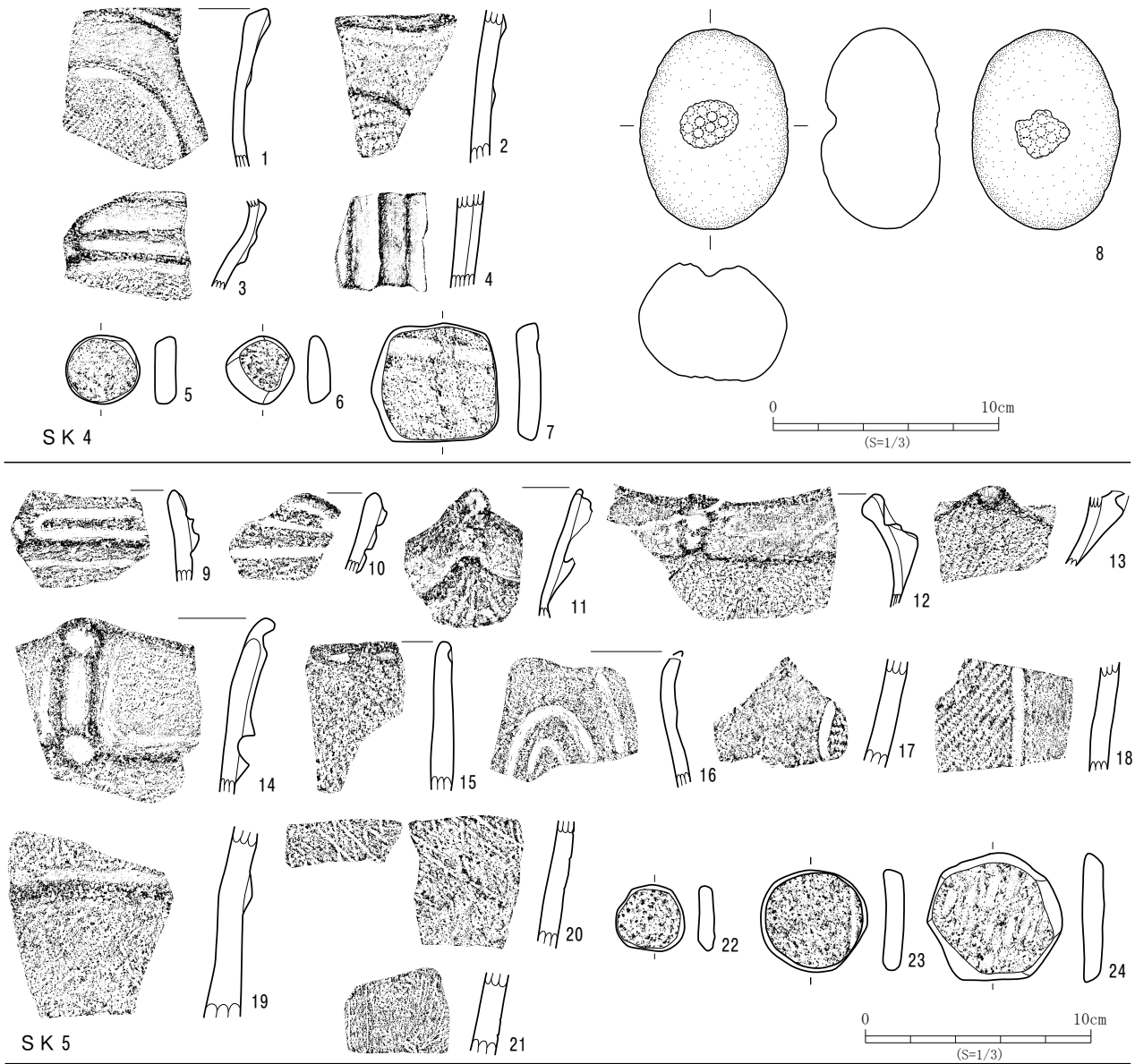
図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-033	ＳＫ４	1層・中層	深鉢-口縁～胴部	口径28.0㎝、残存高26.7㎝。口縁～胴部：「Ｌ」字状区画沈線文（5単位）、円形の凹み１ヵ所、縄文ＬＲ縦位施文。	-	20-1
2	A-034	ＳＫ４	1層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：鰭状隆線文、横位隆線文。胴部：縄文ＲＬ縦位施文。	-	20-3
3	A-035	ＳＫ４	中層	深鉢-口縁部	口縁突起、区画隆沈線文、撚糸文Ｌ縦位施文。	-	20-4
4	A-036	ＳＫ４	1層	深鉢-口縁部	円形・横位隆線文、縄文ＲＬ？	-	20-5
5	A-037	ＳＫ４	1層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：無文帯、横位沈線文。胴部：縄文ＲＬ縦位施文。	波状口縁。	20-8
6	A-038	ＳＫ４	1層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：区画隆線文。胴部：区画隆線文、撚糸文Ｒ縦位施文。	-	20-6
7	A-039	ＳＫ４	1層	深鉢-胴部	鰭状隆線文、沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	20-7

第16図　ＳＫ４出土遺物（３）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-040	ＳＫ4	検出面・1層	深鉢-口縁～胴部	口径22.9㎝、推定残存高41.6㎝。口縁～胴部:「L」字状区画沈線文（4単位）、鰭状隆線文、縄文ＲＬ斜位施文。	-	20-2
2	A-041	ＳＫ4	1層	深鉢-口縁部	縄文ＲＬ縦位施文。	-	20-9
3	A-042	ＳＫ4	検出面・1層	深鉢-口縁～胴部	縄文ＬＲ縦位施文。	波状口縁。輪積痕。	20-10
4	A-043	ＳＫ4	1層	深鉢-口縁部	縄文ＬＲ斜位施文。	-	20-11

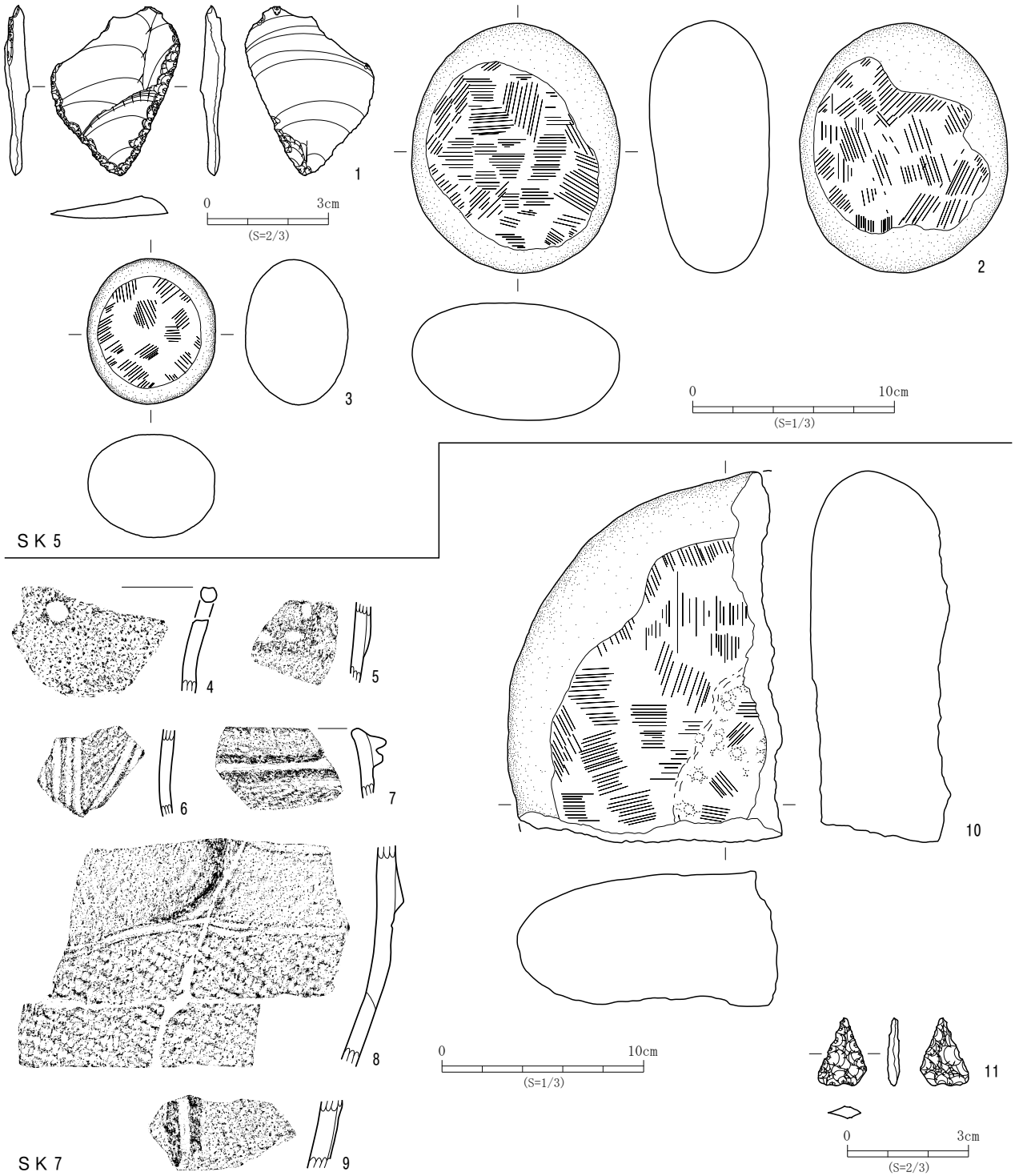
第17図　ＳＫ４出土遺物（４）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-044	ＳＫ４	下層	深鉢-口縁部	隆沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	外面赤彩。３・４と同一個体。	21-1
2	A-045	ＳＫ４	中層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＬＲ斜位施文。	-	21-2
3	A-046	ＳＫ４	下層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	内外面赤彩。１・４と同一個体。	21-3
4	A-047	ＳＫ４	中層	深鉢-胴部	縦位隆沈線文。	外面赤彩。１・３と同一個体。	21-4
5	P-03	ＳＫ４	下層	土製円盤	胴部片利用。寸法：縦3.0㎝、横3.3㎝。重量11.2ｇ。	-	21-5
6	P-04	ＳＫ４	中層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＲＬ？ 寸法：縦2.8㎝、横2.7㎝。重量8.2ｇ。	-	21-6
7	P-05	ＳＫ４	１層	土製円盤	胴部片利用、沈線文。寸法：縦5.2㎝、横5.5㎝。重量37.0ｇ。	-	21-7
9	A-048	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	横位隆沈線文。	波状口縁。	21-9
10	A-049	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	横位隆沈線文。	波状口縁。	21-10
11	A-050	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	橋状把手？ 渦巻隆沈線文。	波状口縁。	21-11
12・13	A-051 A-052	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁～胴上部	口縁部：横位隆線文、刺突文。胴部：縄文ＲＬ縦位施文。	波状口縁。同一個体。	21-12･13
14	A-053	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	区画隆線文、刺突文。	波状口縁。	21-14
15	A-054	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	横位連続刺突文、縄文ＬＲ縦位施文。	器面の摩滅激しい。	21-15
16	A-055	ＳＫ５	１層	深鉢-口縁部	「∩」字状沈線文。	内外面赤彩痕。	21-16
17	A-056	ＳＫ５	１層	深鉢-胴部	区画沈線文、縄文ＲＬ斜位施文。	-	21-17
18	A-057	ＳＫ５	中層	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	21-18
19	A-058	ＳＫ５	１層	深鉢-胴部	横位隆線文。不明縄文。	-	21-19
20	A-059	ＳＫ５	１層	深鉢-胴部	格子目状沈線文。	-	21-20
21	A-060	ＳＫ５	１層	深鉢-胴部	縦位沈線文。	-	21-21
22	P-06	ＳＫ５	１層	土製円盤	胴部片利用。寸法：縦2.9㎝、横3.0㎝。重量7.7ｇ。	-	21-22
23	P-07	ＳＫ５	中層	土製円盤	胴部片利用、沈線文、縄文ＬＲ？ 寸法：縦4.5㎝、横4.7㎝。重量22.2ｇ。	-	21-23
24	P-08	ＳＫ５	１層	土製円盤	底部片利用、網代痕。寸法：縦5.6㎝、横6.1㎝。重量34.0ｇ。	-	21-24

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
8	Kc-b-2	ＳＫ４	中層	礫石器-凹石	安山岩	8.9	6.6	5.3	226.0	凹1+1。	21-8

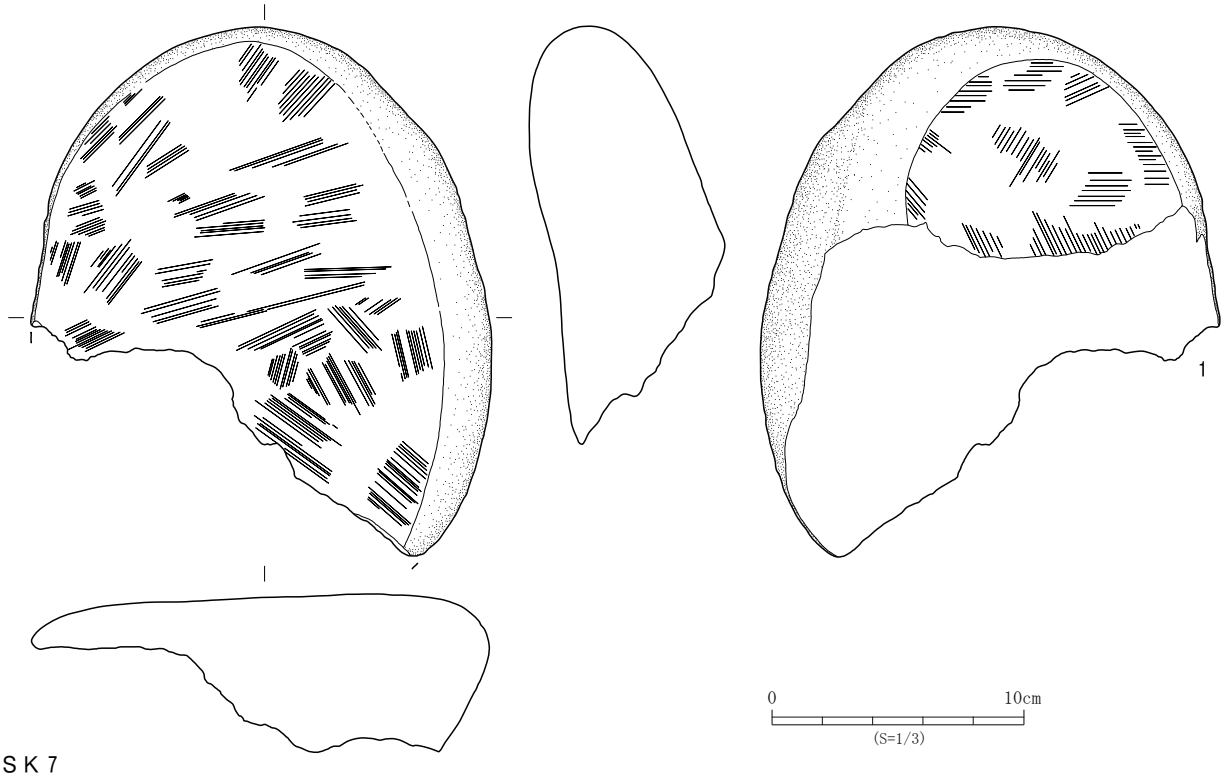
第18図　ＳＫ４出土遺物（５)、ＳＫ５出土遺物（１）



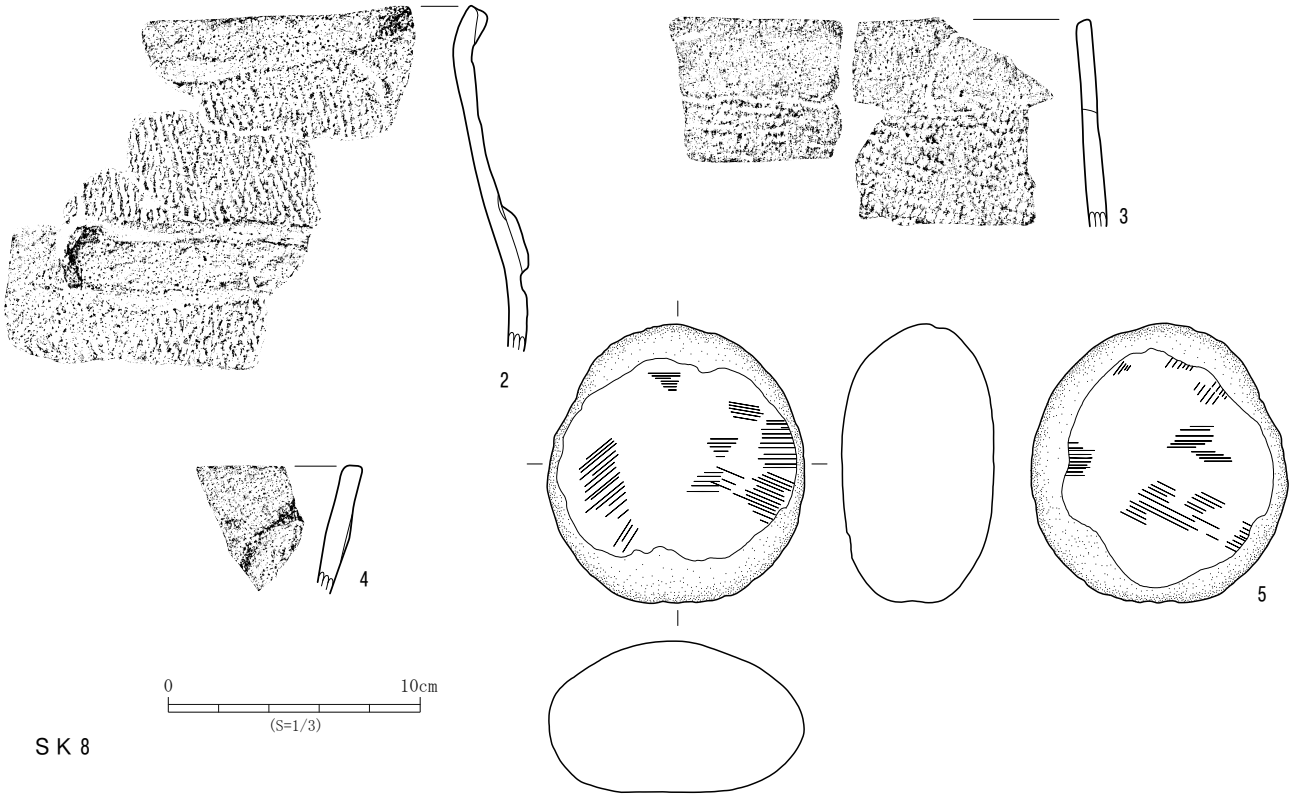
図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
4	A-061	ＳＫ７	下層	深鉢-口縁部	円形透し孔。	波状口縁。摩滅激しい。	21-28
5	A-062	ＳＫ７	下層	深鉢-胴部	鱔状隆線文、連続刺突文。	-	21-29
6	A-063	ＳＫ７	下層	深鉢-胴部	縦位・斜位沈線文。縄文ＲＬ縦位施文。	-	21-30
7	A-064	ＳＫ７	中層	深鉢-口縁部	横位隆線文。縄文ＲＬ縦位施文。	-	21-31
8	A-065	ＳＫ７	中層	深鉢-胴部	鱔状隆線文、区画沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	輪積痕。	21-32
9	A-066	ＳＫ７	中層	深鉢-胴部	縦位隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	器面の摩滅激しい。	21-33

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Ka-e1-1	ＳＫ５	上層	打製石器-不定形石器	珪質頁岩	4.2	3.2	0.6	5.1	削器。	21-25
2	Kc-a-2	ＳＫ５	中層	礫石器-磨石	安山岩	12.4	10.3	6.0	1,02.0	磨1+1。	21-27
3	Kc-a-3	ＳＫ５	上層	礫石器-磨石	安山岩	7.2	6.4	5.1	322.0	磨1。	21-26
10	Kc-f-2	ＳＫ７	中層	礫石器-石皿	安山岩	〈19.5〉	〈14.4〉	〈7.6〉	(3,140.0)	部分破片、裏面欠損、磨1、中央に敲打痕残存。。	21-35
11	Ka-a2-1	ＳＫ７	上層	打製石器-石鏃	珪質頁岩	1.7	1.2	0.3	0.5	三角鏃。	21-34

第19図　ＳＫ５出土遺物（２）、ＳＫ７出土遺物（１）



ＳＫ７

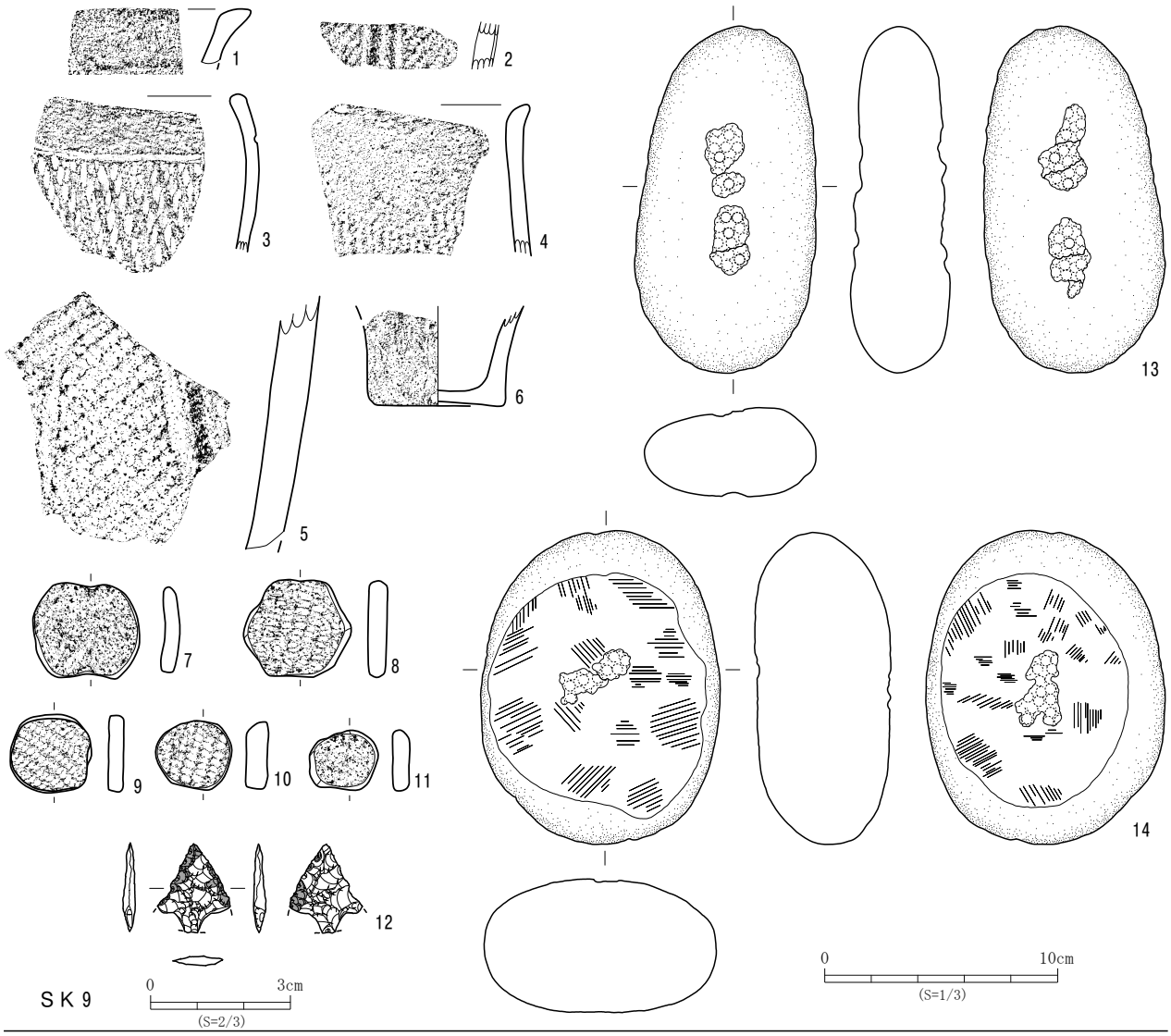


ＳＫ８

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
2	A-067	ＳＫ８	底部ピット１	深鉢-口縁～胴部	鰭状隆線文。横位隆線文。撚糸文Ｌ斜位施文。	-	22-1
3	A-068	ＳＫ８	中・下層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：無文。胴部：縄文ＬＲ斜位施文。	輪積痕。	22-3
4	A-069	ＳＫ８	下層	深鉢-口縁部	隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	内面赤彩痕。	22-2

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-f-3	ＳＫ７	中層	礫石器-石皿	安山岩	〈21.1〉	〈18.2〉	〈7.0〉	〈2,530.0〉	下半部欠損、磨2。	21-36
5	Kc-a-4	ＳＫ８	中層	礫石器-磨石	安山岩	11.1	10.2	6.0	944.0	磨2。	22-4

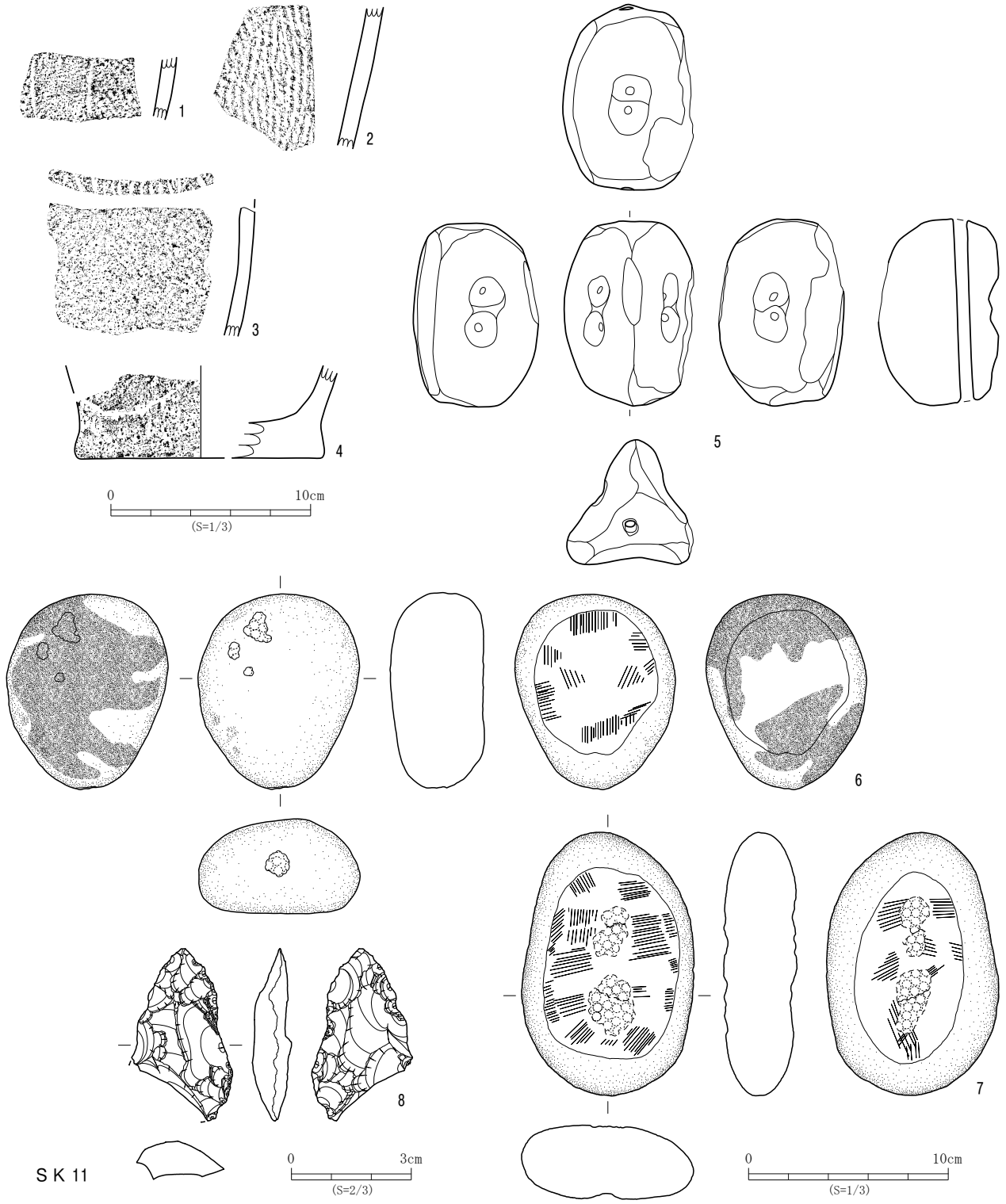
第20図　ＳＫ７出土遺物（２)、ＳＫ８出土遺物



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-070	ＳＫ９	下層	深鉢-口縁部	無文。	-	22-5
2	A-071	ＳＫ９	下層	深鉢-胴部	縦位隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	22-6
3	A-072	ＳＫ９	下層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：無文、区画沈線文。胴部：撚糸文Ｌ縦位施文。	-	22-7
4	A-073	ＳＫ９	中層	深鉢-口縁～胴部	口縁部：無文。胴部：撚糸文Ｌ縦位施文。	波状口縁。	22-8
5	A-074	ＳＫ９	中層	深鉢-胴部	縦位隆沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	22-9
6	A-075	ＳＫ９	上層	深鉢-胴下～底部	底径5.4㎝、残存高4.2㎝。胴部：ＲＬ斜位？ 底部ナデ。	器面の摩滅激しい。	22-10
7	P-09	ＳＫ９	上層	土製円盤	胴部片利用。寸法：縦4.0㎝、横4.6㎝。重量16.0ｇ。	土錘？	22-11
8	P-10	ＳＫ９	中層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＲＬ。寸法：縦4.2㎝、横4.6㎝。重量18.4ｇ。	六角形状。	22-12
9	P-11	ＳＫ９	下層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ。寸法：縦3.3㎝、横3.6㎝。重量10.0ｇ。	-	22-13
10	P-12	ＳＫ９	中層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ。寸法：縦2.9㎝、横3.3㎝。重量10.8ｇ。	-	22-14
11	P-13	ＳＫ９	下層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ？ 寸法：2.6㎝、2.9㎝。重量5.9ｇ。	-	22-15
15	A-076	ＳＫ11	下層	深鉢-口縁部	横位隆線文。	-	22-19
16	A-077	ＳＫ11	下層	深鉢-口縁部	縄文ＬＲ縦位施文。	-	22-20
17	A-078	ＳＫ11	下層	深鉢-胴部	区画沈線文、縄文ＲＬ斜位施文。	-	22-21
18	A-079	ＳＫ11	上層	深鉢-胴部	横位隆線文、縄文ＲＬ縦位施文？	-	22-22
19	A-080	ＳＫ11	下層	深鉢-胴部	縄文ＬＲ縦位施文。	-	22-23

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	備考	写真図版
12	Ka-a4-1	ＳＫ９	下層	打製石器-石鏃	珪質頁岩	〈1.9〉	〈1.6〉	0.3	〈0.5〉	両脚部欠損。	22-16
13	Kc-c-2	ＳＫ９	上層	礫石器-敲石	砂岩	14.9	7.7	4.3	662.0	敲4+6。	22-17
14	Kc-c-3	ＳＫ９	下層	礫石器-敲石	花崗閃緑岩	13.5	10.3	5.8	1,182.0	敲2+1、磨1+1、表裏に磨面あり。	22-18

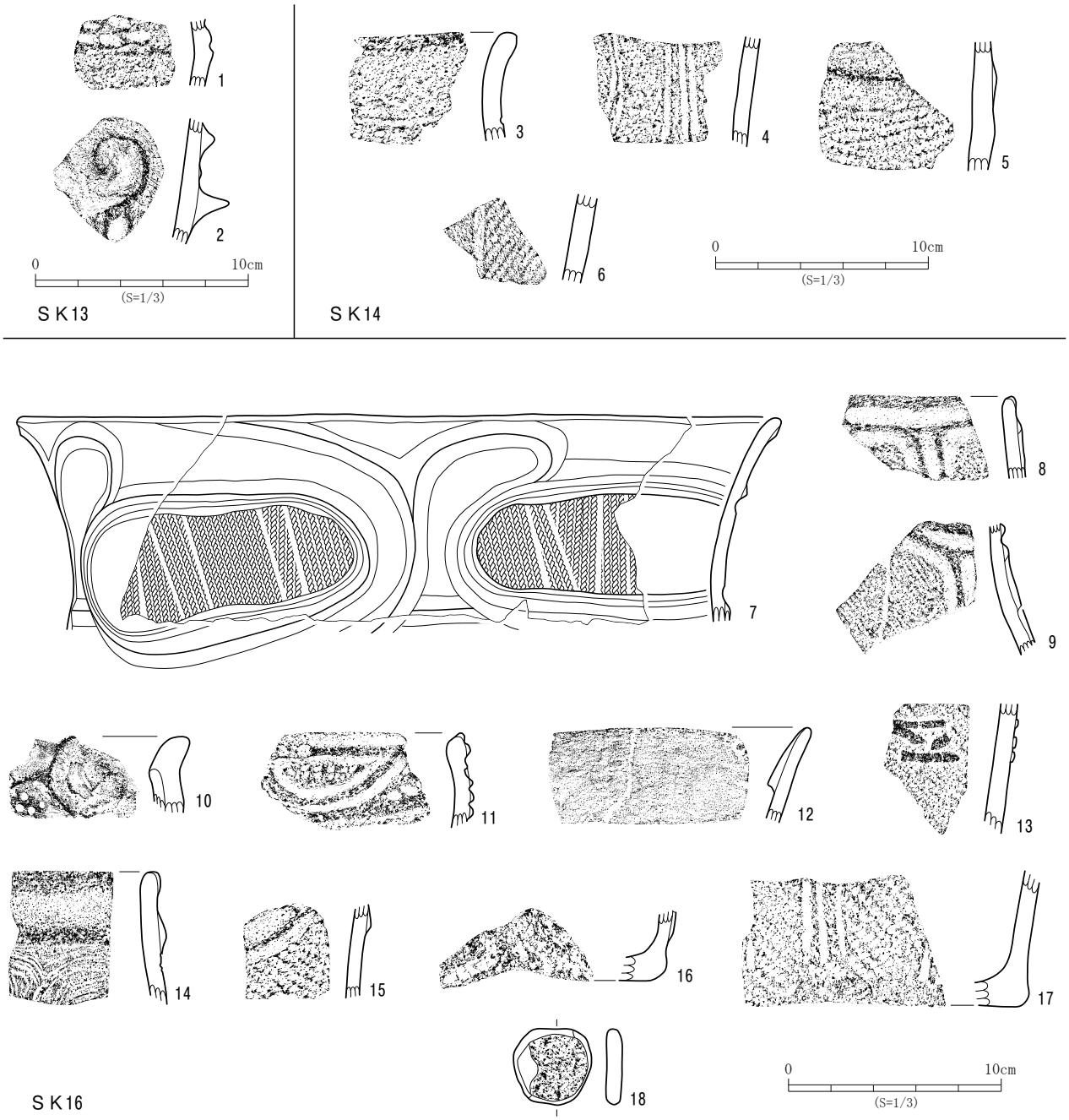
第21図　ＳＫ９出土遺物、ＳＫ11出土遺物（１）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-081	ＳＫ11	下層	深鉢-胴部	沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	22-24
2	A-082	ＳＫ11	下層	深鉢-胴部	撚糸文Ｒ縦位施文。	-	22-25
3	A-083	ＳＫ11	下層	深鉢-胴部	縄文ＬＲ縦位施文？	輪積接合部に刻目。	22-26
4	A-084	ＳＫ11	上層	深鉢-胴下～底部	底径12.0㎝、残存高4.6㎝。胴部：不明縄文。底面ナデ。	器面の摩滅激しい。	22-27
5	P-14	ＳＫ11	下層	三角壔形土製品	寸法：長さ9.2㎝、幅6.9㎝、高さ6.2㎝。重量315ｇ。各面に2単位ずつの凹み。長軸方向に焼成前の穿孔。	-	23-1

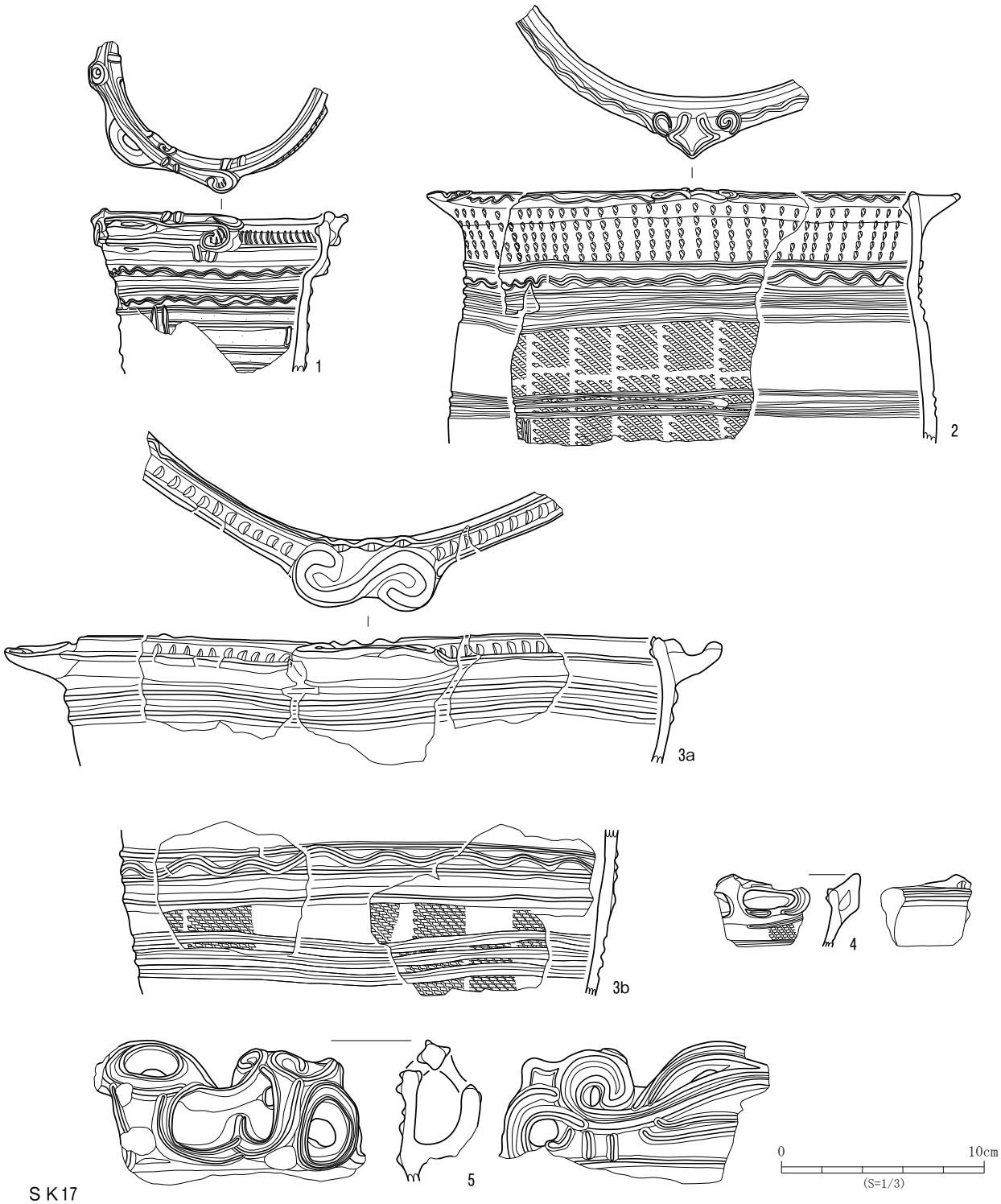
図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	備考	写真図版
6	Kc-c-4	ＳＫ11	下層	礫石器-敲石	安山岩	9.8	8.1	4.8	494.1	敲4+1、磨1、被熱痕あり。	23-2
7	Kc-a-5	ＳＫ11	下層	礫石器-磨石	安山岩	13.2	8.6	3.7	539.0	磨1+1、敲4+4。	23-3
8	Ka-b3-1	ＳＫ11	下層	打製石器-尖頭器？	珪質頁岩	〈4.3〉	2.5	1.0	〈7.4〉	基部欠損、全体的に二次加工で粗い。	23-4

第22図　ＳＫ11出土遺物（２）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-085	ＳＫ13	検出面	深鉢-胴部	横位連続刺突文。	-	23-5
2	A-086	ＳＫ13	1層	深鉢-口縁部？	渦巻隆線文。	-	23-6
3	A-088	ＳＫ14	上層	深鉢-口縁～胴上部	口縁部：無文、区画沈線文。胴部：縄文ＬＲ縦位施文？	-	23-7
4	A-087	ＳＫ14	検出面	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	器面の摩滅激しい。	23-8
5	A-089	ＳＫ14	上層	深鉢-頸部～胴部	頸部：横位隆線文。胴部：縄文ＬＲ斜位施文。	-	23-9
6	A-090	ＳＫ14	上層	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	23-10
7	A-091	ＳＫ16	中層・下層	深鉢-口縁部	推定口径36.0㎝、残存高9.8㎝。口縁部：楕円区画隆沈線文、区画内撚糸文Ｌ縦位施文。	-	23-11
8・9	A-092 A-093	ＳＫ16	堆積土・底面直上層	深鉢-口縁部・胴部	隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	同一個体。	23-12･13
10	A-094	ＳＫ16	中層	深鉢-口縁部	隆線文、刺突文。	-	23-14
11	A-095	ＳＫ16	堆積土	深鉢-口縁部	区画隆沈線文、刺突文。	-	23-15
12	A-096	ＳＫ16	1・4層	深鉢-口縁部	内外面ナデ。	赤彩痕。	23-16
13	A-097	ＳＫ16	下層	深鉢-胴部	隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	23-17
14	A-098	ＳＫ16	中層	深鉢-口縁部	横位隆線文、櫛歯状沈線文。	-	23-18
15	A-099	ＳＫ16	中層	深鉢-胴部	隆沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	23-19
16	A-100	ＳＫ16	堆積土	深鉢-底部	隆沈線文、底面ナデ。	-	23-20
17	A-101	ＳＫ16	中層	深鉢-胴下部～底部	縦位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	23-21
18	P-15	ＳＫ16	堆積土	深鉢-土製円盤	胴部片利用、縄文ＲＬ？ 寸法：縦3.6㎝、横3.7㎝。重量12.2ｇ。	-	23-22

第23図　ＳＫ13・14・16出土遺物



ＳＫ17

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-102	ＳＫ17	下層	小型深鉢-口縁～胴部	口径10.9㎝、残存高8.0㎝。口縁部:渦巻突起、横位橋状把手、横位・縦位隆線文、キザミ。口縁内面:クランク状隆線文。頸部:横位・小波状隆線文。胴部:横位・縦位隆線文。	-	24-5
2	A-103	ＳＫ17	下層	深鉢-口縁～胴部	推定口径23.6㎝、残存高：12.5㎝。口縁部：小突起、渦巻・剣先状・波状・横位隆線文、押圧縄文ＬＲ縦位施文。頸部：横位隆沈線文。胴部：横位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	24-1
3a・3b	A-104	ＳＫ17	下層	深鉢-口縁部・胴部	推定口径28.4㎝、口縁部残存高6.4㎝、胴部残存高8.0㎝。口縁部:「Ｓ」字状突起、横位隆線文、刺突文。胴部:横位・波状隆線文、横位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	同一個体。	24-2
4	A-105	ＳＫ17	検出面	深鉢-口縁部	橋状把手、隆線文、沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。内面-隆線文。	波状口縁。	24-6
5	A-106	ＳＫ17	下層	深鉢-口縁部	渦巻装飾橋状把手。	-	24-7

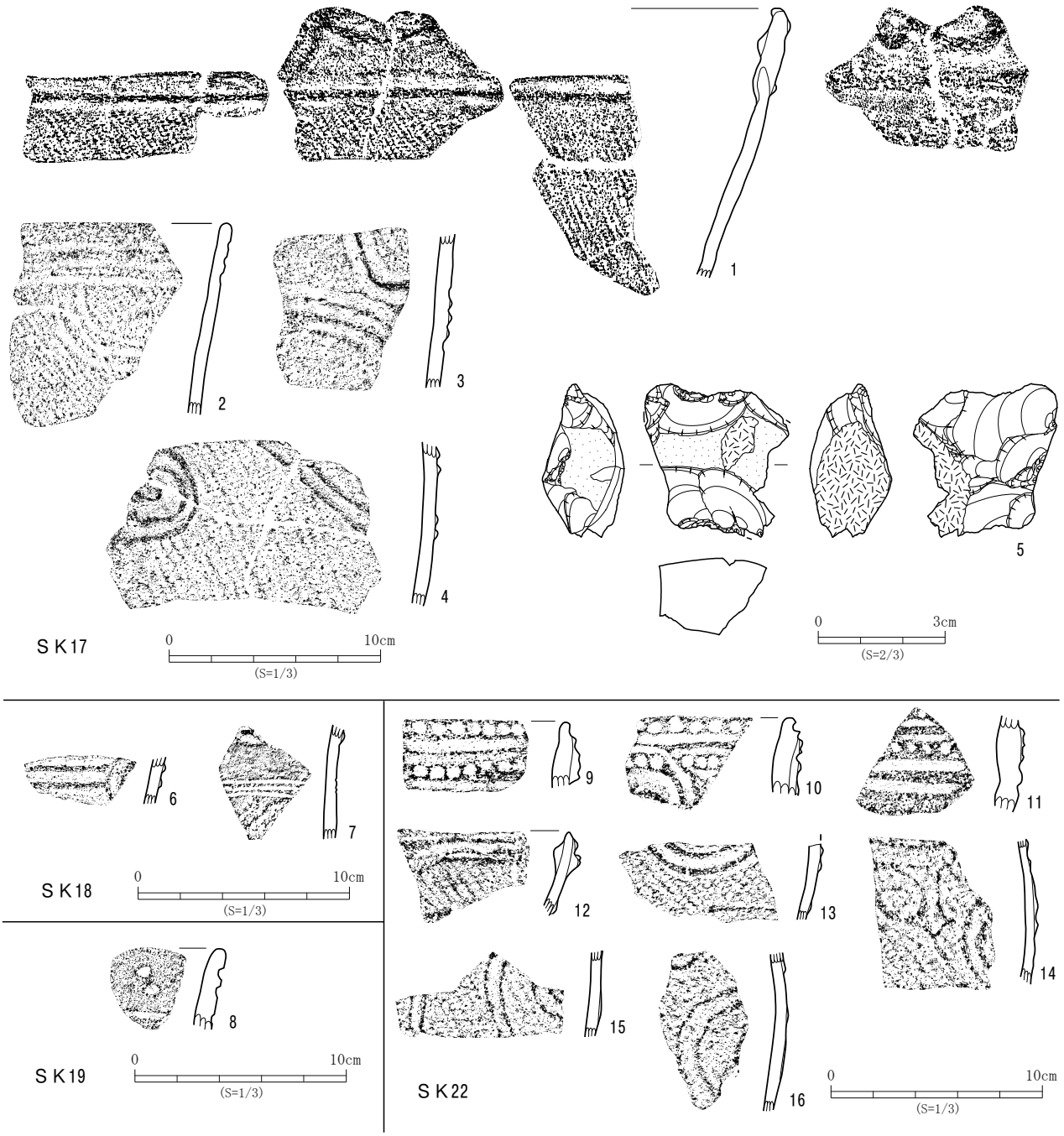
第24図　ＳＫ17出土遺物（１）

ＳＫ17

0　10cm
(S=1/3)

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-107	ＳＫ17	検出面・底面直上層	深鉢-口縁～胴部	口径11.6㎝、残存高20.4㎝。口縁部:口唇部刺突、渦巻把手、剣先状把手、渦巻・横位・縦位隆線文。口縁内面:「S」字状貼付文、渦巻・クランク状隆線文。頸部：横位沈線文。胴部：渦巻・菱形状隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	24-4
2	A-108	ＳＫ17	底面直上層	深鉢-口縁～底部	推定口径21.4㎝、底径12.0㎝、器高29.9㎝。口縁部：渦巻橋状把手、剣先状突起、弧状・縦位沈線文、刺突文。口縁内面:渦巻・横位隆線文。頸部:横位沈線文。胴部：渦巻・クランク状沈線文、「ハ」状・縦位短沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	器面の摩滅激しい。	24-3
3	A-109	ＳＫ17	底面直上層	深鉢-口縁部	推定口径42.8㎝、残存高6.9㎝。「S」字状・楕円隆線文、刻目文、沈線文。	ＳＫ22出土破片と接合。	25-1

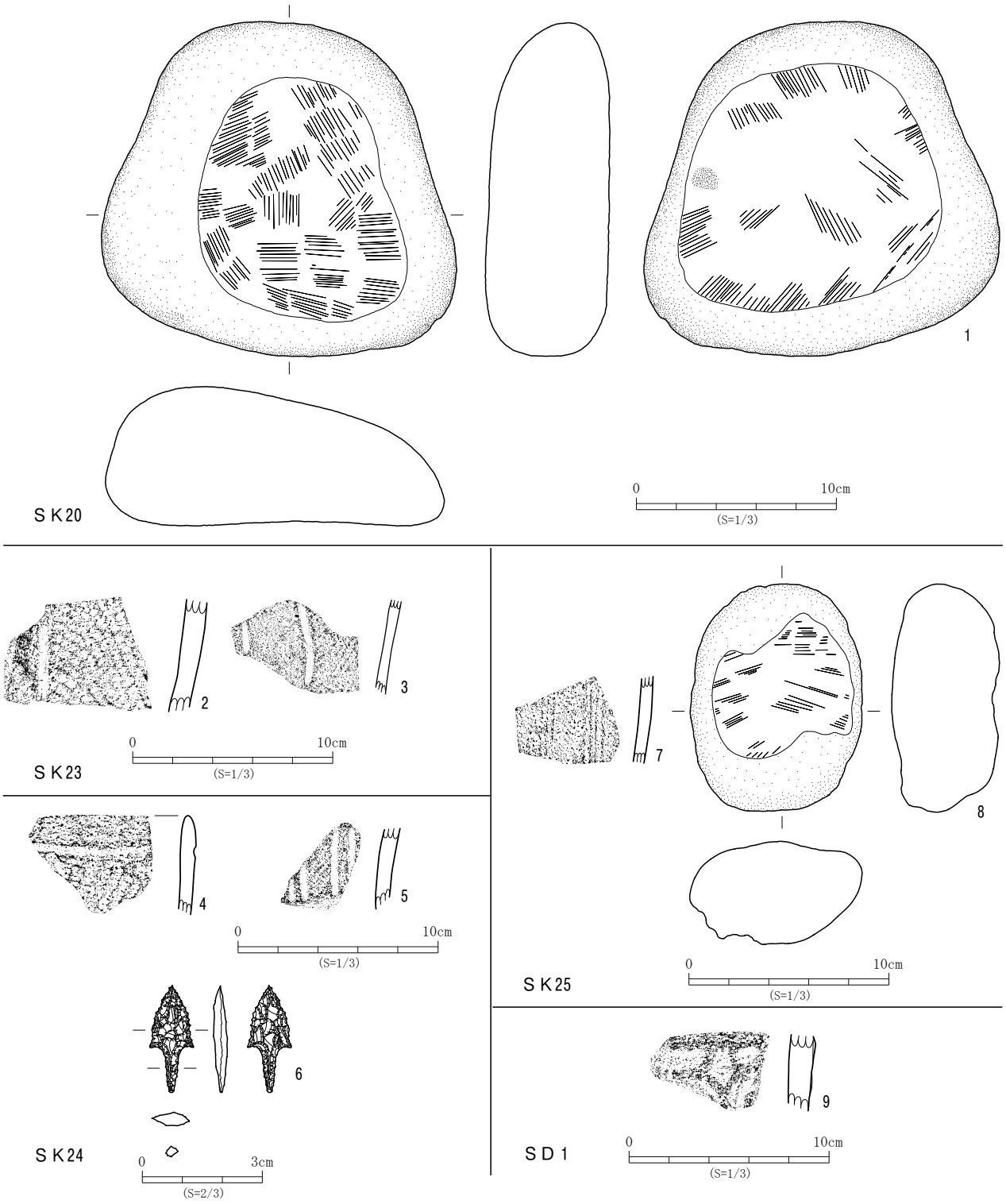
第25図　ＳＫ17出土遺物（２）



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-110	ＳＫ17	下層	深鉢-口縁～胴上部	口縁部：「M」字状突起、横位隆線文。口縁内面：渦巻・横位隆線文。胴部：縄文ＬＲ縦位施文。	-	24-8
2	A-111	ＳＫ17	堆積土	深鉢-口縁～胴上部	口縁部：横位沈線文。胴部：沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	25-2
3	A-112	ＳＫ17	下層	深鉢-胴部	隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文？	-	25-3
4	A-113	ＳＫ17	下層	深鉢-胴部	渦巻隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	25-4
6	A-114	ＳＫ18	堆積土	深鉢-胴部	隆線文。	-	25-6
7	A-115	ＳＫ18	堆積土	深鉢-胴部	隆沈線文、縄文ＲＬ縦位施文？	-	25-7
8	A-116	ＳＫ19	堆積土	深鉢-口縁部	横位沈線文、刺突文。	波状口縁。	25-8
9	A-117	ＳＫ22	堆積土	深鉢-口縁部	隆沈線文、隆線文、沈線文、刺突文。	同一個体。	25-9
10	A-118	ＳＫ22	堆積土	深鉢-口縁部			25-10
11	A-119	ＳＫ22	堆積土	深鉢-胴部			25-11
12	A-120	ＳＫ22	堆積土	深鉢-口縁部	横位・小波状隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	25-12
13	A-121	ＳＫ22	堆積土	深鉢-胴部	渦巻状隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	14と同一個体。	25-13
14	A-122	ＳＫ22	堆積土	深鉢-胴部	渦巻・剣先状隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	13と同一個体。	25-14
15	A-123	ＳＫ22	堆積土	深鉢-胴部	渦巻隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	25-15
16	A-124	ＳＫ22	堆積土	深鉢-胴部	渦巻隆線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	25-16

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
5	Ka-m-1	ＳＫ17	底面直上	打製石器-石核	珪質頁岩	〈3.6〉	〈3.4〉	〈2.0〉	〈19.1〉	被熱によるハジケあり。	25-5

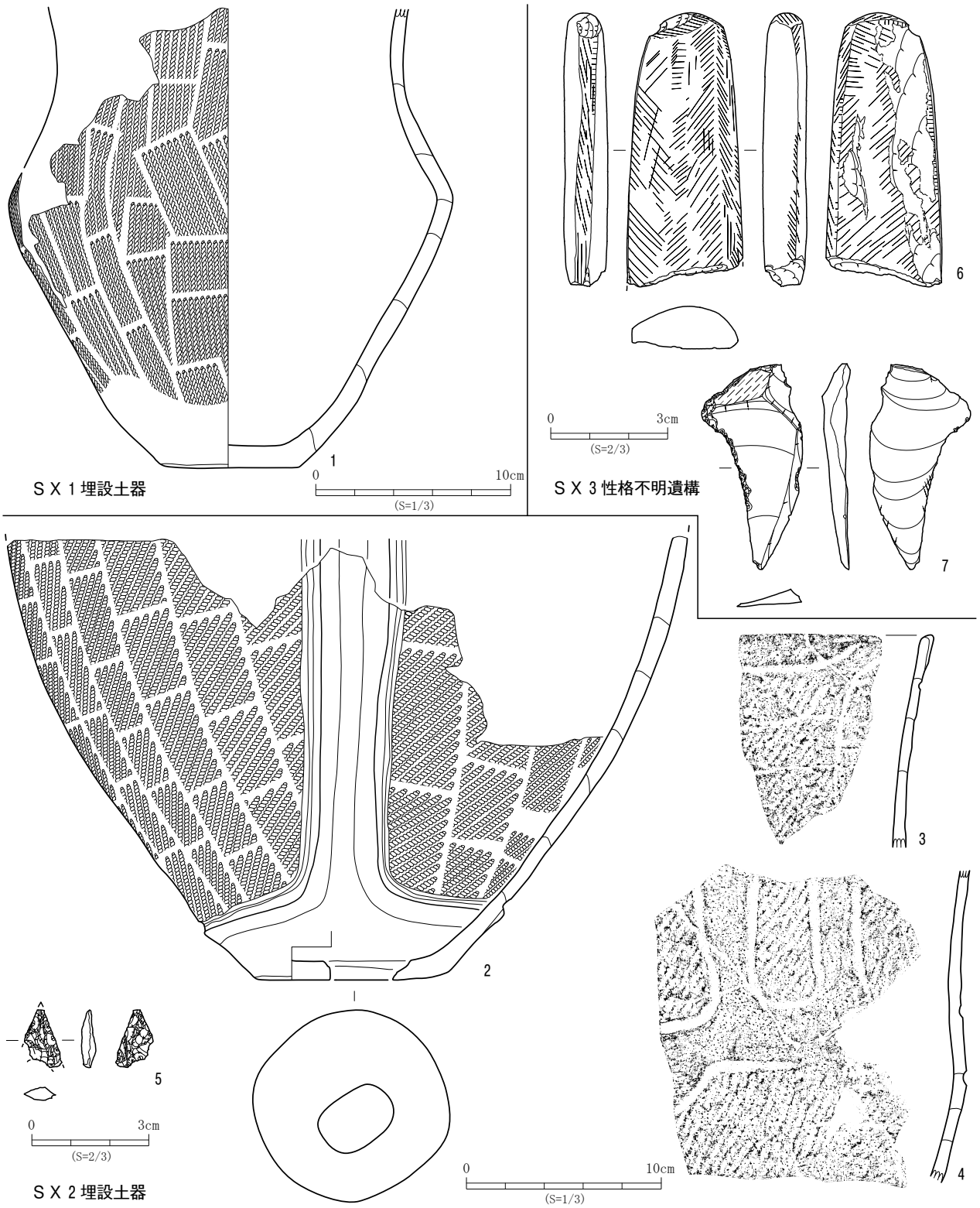
第26図　ＳＫ17出土遺物（３）、ＳＫ18・19・22出土遺物



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
2	A-125	ＳＫ23	底面直上層	深鉢-胴部	縦位隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	25-18
3	A-126	ＳＫ23	下層	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	25-19
4	A-127	ＳＫ24	中～下層	深鉢-口縁部	横位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	25-20
5	A-128	ＳＫ24	中～下層	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	25-21
7	A-129	ＳＫ25	堆積土	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＲＬ縦位施文？	器面の摩滅激しい。	25-23
9	A-130	ＳＤ１	堆積土	深鉢-胴部	剣先状隆線文。	-	25-25

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-a-6	ＳＫ20	4層	礫石器-磨石	安山岩	16.7	12.8	7.0	3,000.0	磨1。	25-17
6	Ka-a1-1	ＳＫ24	堆積土	打製石器-石鏃	珪質頁岩	2.7	1.1	0.4	0.6	有茎石鏃、二次加工で茎部が比較的長い。	25-22
8	Kc-a-7	ＳＫ25	1層	礫石器-磨石	安山岩	11.4	8.6	5.4	695.0	磨1。	25-24

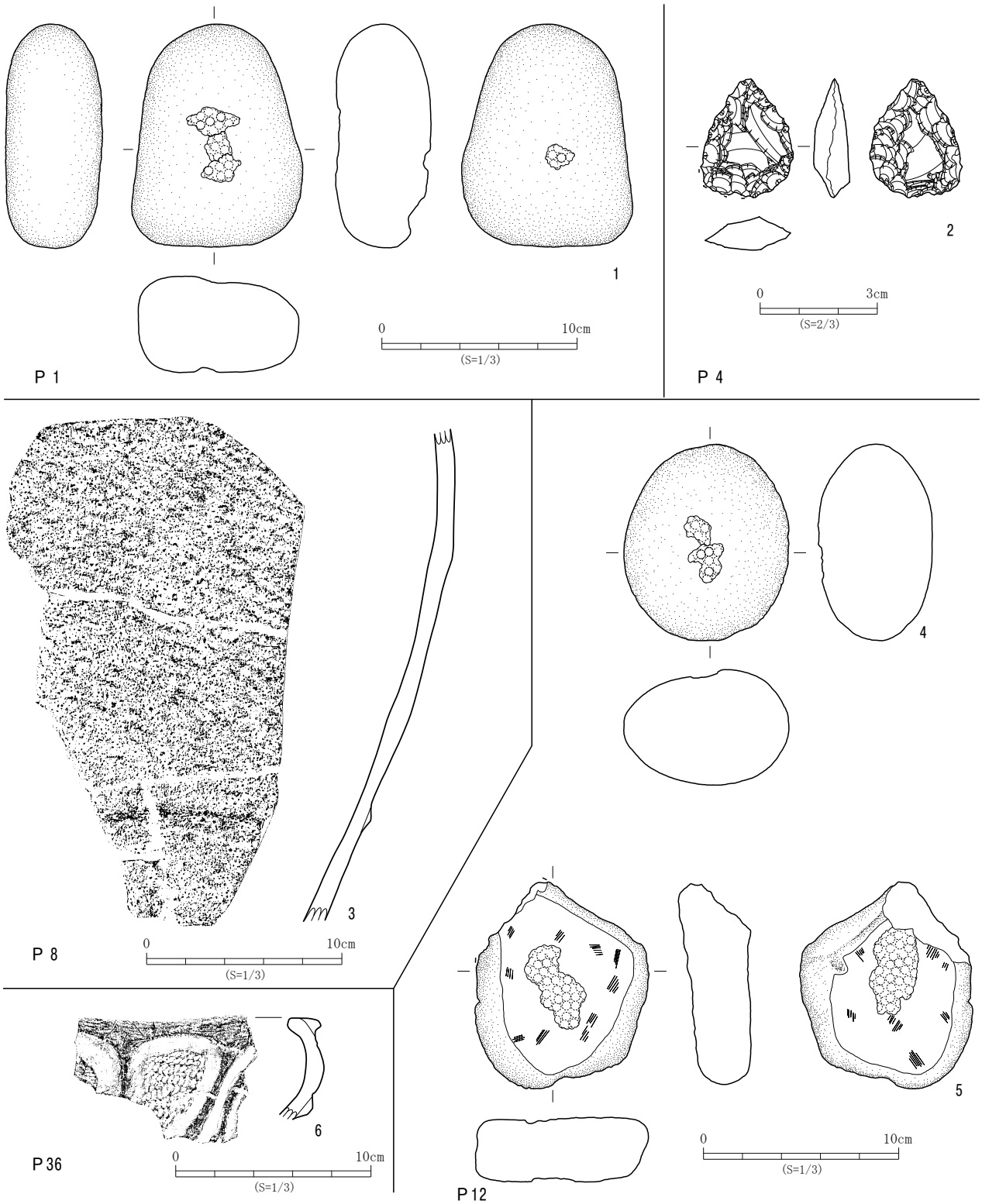
第27図　ＳＫ20・23～25、ＳＤ１出土遺物



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
1	A-131	ＳＸ１埋設土器	検出面	深鉢-胴～底部	底径7.0㎝、残存高23.5㎝。撚糸文Ｌ縦位施文。	輪積痕。	25-26
2	A-132	ＳＸ２埋設土器	検出面	深鉢-胴～底部	底径10.0㎝、残存高22.6㎝。胴部：２単位の区画隆沈線文、縄文ＲＬ縦位施文。底部：焼成後穿孔。	無文部に赤彩の痕跡。被熱し胎土もろい。輪積痕。	26-1
3・4	A-133 A-134	ＳＸ２埋設土器	1層	深鉢-胴部	鰭状隆線文、沈線区画文、縄文ＲＬ縦位施文。	-	26-2・3

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	備考	写真図版
5	Ka-a3-1	ＳＸ２埋設土器	埋設土器内	打製石器-石鏃	珪質頁岩	(1.5)	(1.0)	(0.4)	(0.4)	被熱ハジケにより両脚部欠損。	26-4
6	Kb-a-1	ＳＸ3性格不明遺構	下層	磨製石器-磨製石斧	緑泥片岩	(7.0)	(3.0)	(1.1)	(41.2)	刃部欠損、研磨は前面に丁寧に施されるが裏面に剥離面が残存する。	25-27
7	Ka-e1-2	ＳＸ3性格不明遺構	平坦面直上	打製石器-不定形石器	珪質頁岩	5.3	2.6	0.7	4.0	削器。	25-28

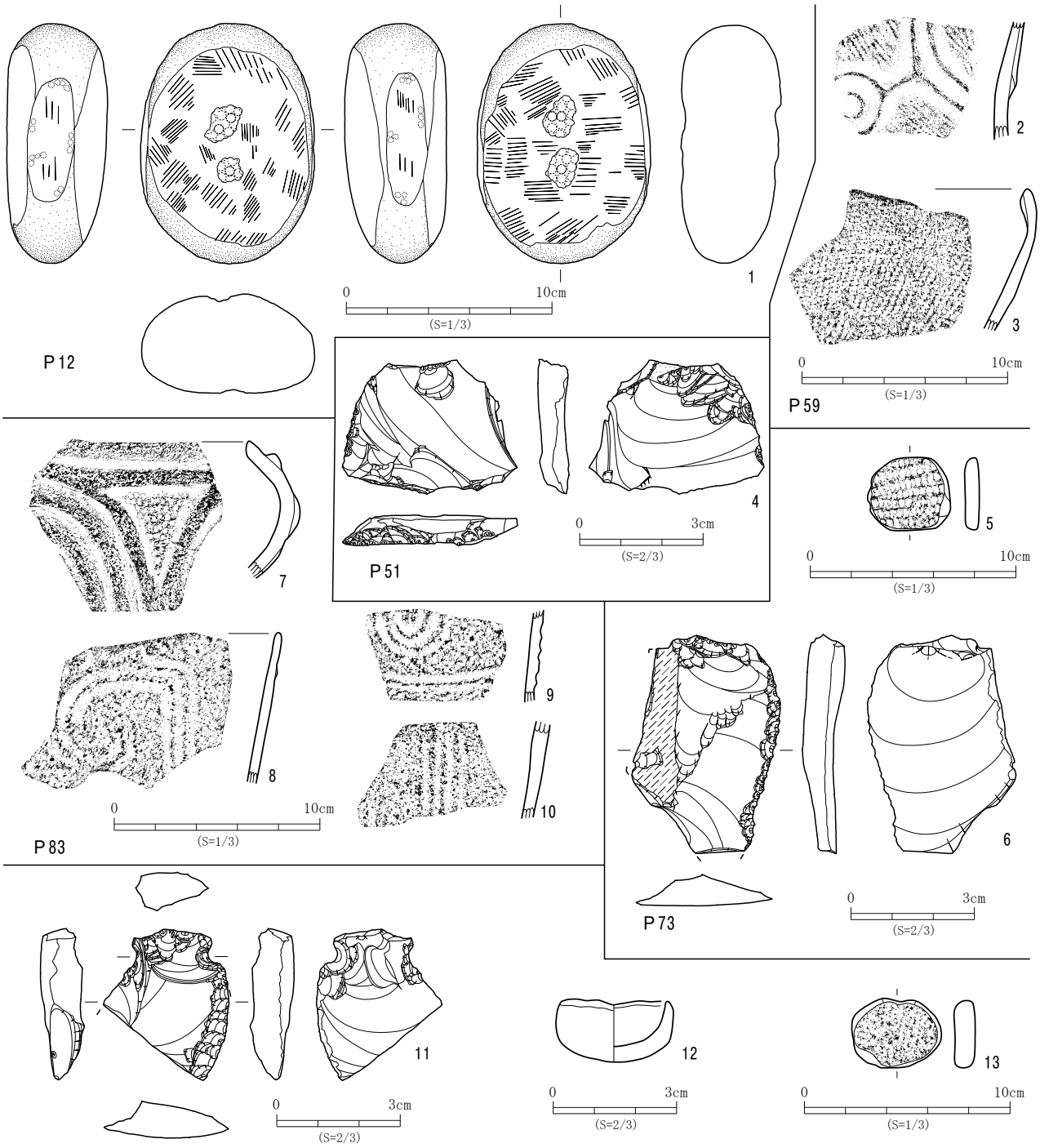
第28図　ＳＸ１・２埋設土器、ＳＸ３性格不明遺構出土遺物



図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
3	A-134	P8	上～中層	深鉢-胴部	横位隆線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	26-5
6	A-135	P36	下層・堆積土	深鉢-口縁部	区画隆沈線文、縄文ＬＲ斜位施文。	-	26-11

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-c-5	P1	上層	礫石器-敲石	安山岩	11.4	8.2	4.9	614.0	敲3+1、被熱痕あり。	26-6
2	Ka-a4-2	P4	堆積土	打製石器-石鏃	珪質頁岩	3.0	2.4	0.9	5.1	円基鏃、二次加工がやや粗く表裏に素材面を残す。	26-10
4	Kc-c-6	P12	下層	礫石器-敲石	安山岩	10.1	8.4	5.8	578	敲2。	26-14
5	Kc-c-7	P12	下層	礫石器-敲石	安山岩	〈10.6〉	8.9	3.3	〈378.0〉	敲1+1、磨1+1、上部欠損。	26-15

第29図　Ｐ１・４・８・12・36（ピット）出土遺物



遺構外出土遺物

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種-部位	文様等	備考	写真図版
2	A-136	P59	堆積土	深鉢-胴部	渦巻隆沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	-	26-7
3	A-137	P59	堆積土	深鉢-口縁部	縄文ＲＬ縦位施文。内面-横位隆線文。	-	26-8
5	P-16	P73	堆積土	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ。寸法：縦3.5㎝、横4.0㎝。重量：13.2ｇ。	-	26-12
7	A-138	P83	下層	深鉢-口縁部	区画隆線文、充填刺突文。	-	26-17
8	A-139	P83	堆積土	深鉢-口縁部	渦巻・区画沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	9と同一個体。	26-18
9	A-140	P83	堆積土	深鉢-胴部	渦巻・横位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文。	8と同一個体。	26-19
10	A-141	P83	堆積土	深鉢-胴部	縦位沈線文、縄文ＬＲ縦位施文？	-	26-20
12	P-17	V-8Gr.	Ⅲ層	ミニチュア土器	手捏ね。寸法：口径2.5㎝、器高1.4㎝。	-	26-22
13	P-18	U-1Gr.	Ⅰc層	土製円盤	胴部片利用、縄文ＬＲ。寸法：縦3.4㎝、横4.3㎝。重量18.8g。	土錘？	26-23

図番号	登録番号	遺構名	出土層位	器種	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	Kc-c-8	P12	下層	礫石器-敲石	安山岩	11.7	8.4	4.9	652.0	敲2+2、磨1+1（横2）。	26-16
4	Ka-e2-1	P51	堆積土	打製石器-不定形石器	珪質頁岩	3.2	4.3	0.8	11.3	掻器。	26-9
6	Ka-e1-3	P73	堆積土	打製石器-不定形石器	珪質頁岩	〈5.3〉	〈3.6〉	1.1	〈15.8〉	削器、端部欠損。	26-13
11	Ka-d3-1	R-2Gr.	Ⅴ層上面	打製石器-石匙	珪質頁岩	〈3.7〉	〈3.1〉	1.1	〈9.4〉	ＳＫ23西脇検出面に出土、刃部欠損。	26-21

第30図　P12・51・59・73・83（ピット）、遺構外出土遺物

第Ⅵ章　自然科学分析

上野遺跡第10次調査出土赤色顔料の蛍光Ｘ線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

仙台市に所在する上野遺跡は、縄文時代の集落跡である。土坑より出土した縄文時代中期終末の土器に付着する赤色顔料について蛍光Ｘ線分析を行い、顔料の種類を検討した。

２．試料と方法

分析対象資料は、上野遺跡第10次調査で１区ＳＫ４下層より出土した縄文時代中期終末の大木10式の深鉢計２点に付着する赤色顔料である（写真１～４）。赤色顔料は、遺物番号A-044（以下資料１）は土器外面、遺物番号A-046（以下資料２）は土器内外面に付着していた。実体顕微鏡下で、資料の赤色部分をセロハンテープに極少量採取して分析試料とした。採取箇所を写真１,３中に白丸で示す。

分析装置はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置である㈱堀場製作所製分析顕微鏡ＸＧＴ-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大50kV･1mAのロジウムターゲット、Ｘ線ビーム径が100μｍまたは10μｍ、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光Ｘ線分析装置の性質上、検出感度が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、0.72～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100μｍ、測定時間500s、パルス処理時間Ｐ４に設定した。定量分析は標準試料を用いないＦＰ（ファンダメンタル・パラメータ）法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値の誤差は大きい。

また、採取した試料を生物顕微鏡下で観察し、赤色顔料の粒子形状を確認した。

３．結果

分析により得られたスペクトルおよびＦＰ法による半定量分析結果を第31図に示す。いずれの試料からも鉄(Fe)、ケイ素（Si)、アルミニウム（Al）などが主に検出された。

また、生物顕微鏡観察により得られた画像を写真５,６に示す。両者とも赤色パイプ状の粒子が観察された。第３表に顔料の同定結果を示す。

第３表　分析結果一覧

資料番号	出土遺構	遺物番号	器種	型式	赤色顔料の付着面	主に検出された元素	赤色パイプ状粒子の有無	顔料の種類
1	ＳＫ4	A-044	深鉢	大木10式	外面	Fe,Si,Al	あり	ベンガラ
2	ＳＫ4	A-046	深鉢	大木10式	内外面	Si,Fe,Al,Ca	あり	ベンガラ

４．考察

縄文時代に使用されていた赤色顔料としては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀（HgS）で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄（Fe_2O_3、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬，2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1μｍのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリアを起源とすることが判明しており（岡田，1997）、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998）。

両試料ともケイ素など土中に一般的に多く含まれる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が

多く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものであると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたると考えられる。また、生物顕微鏡下で観察したところ、パイプ状の粒子が認められたことから、鉄バクテリアを起源とする、いわゆるパイプ状ベンガラが利用されていたといえる。

５．おわりに

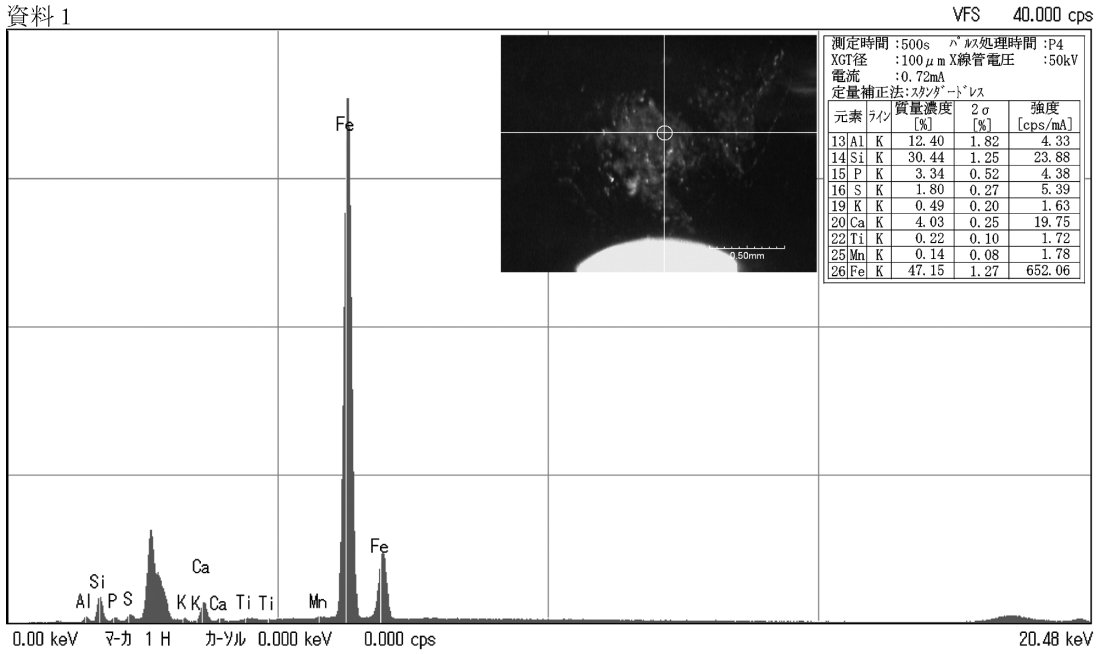
上野遺跡ＳＫ４より出土した土器２点に付着する赤色顔料について蛍光Ｘ線分析をした結果、鉄が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と判断された。顔料としてはベンガラにあたる。また、両者ともパイプ状ベンガラが認められた。

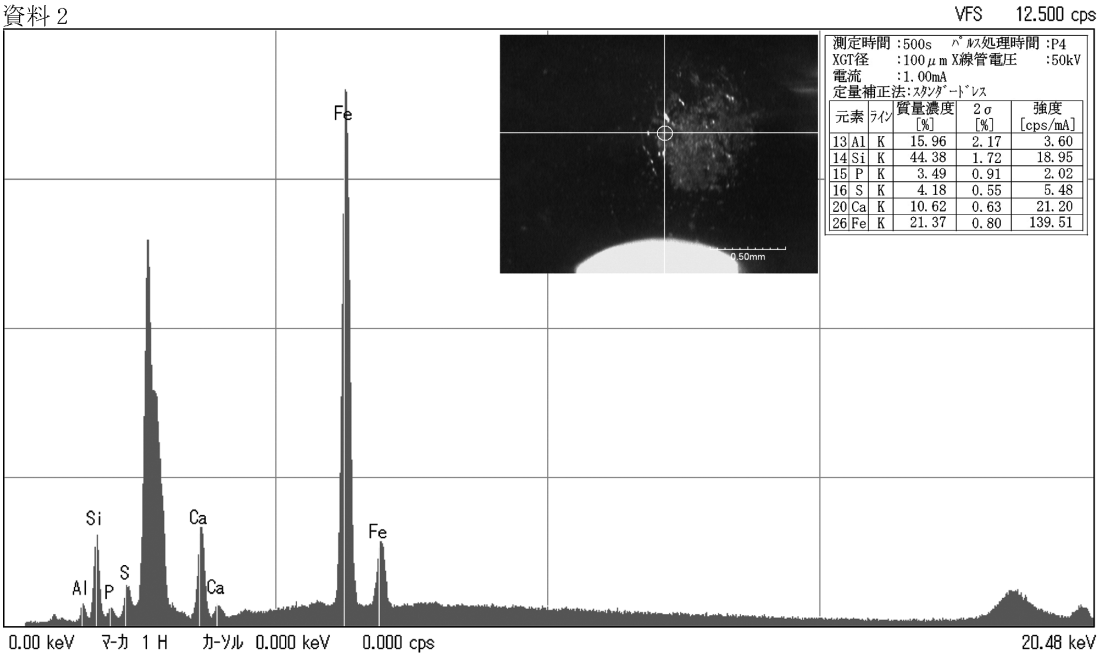
引用文献

成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―．考古学ジャーナル，438，10-14，ニューサイエンス社．

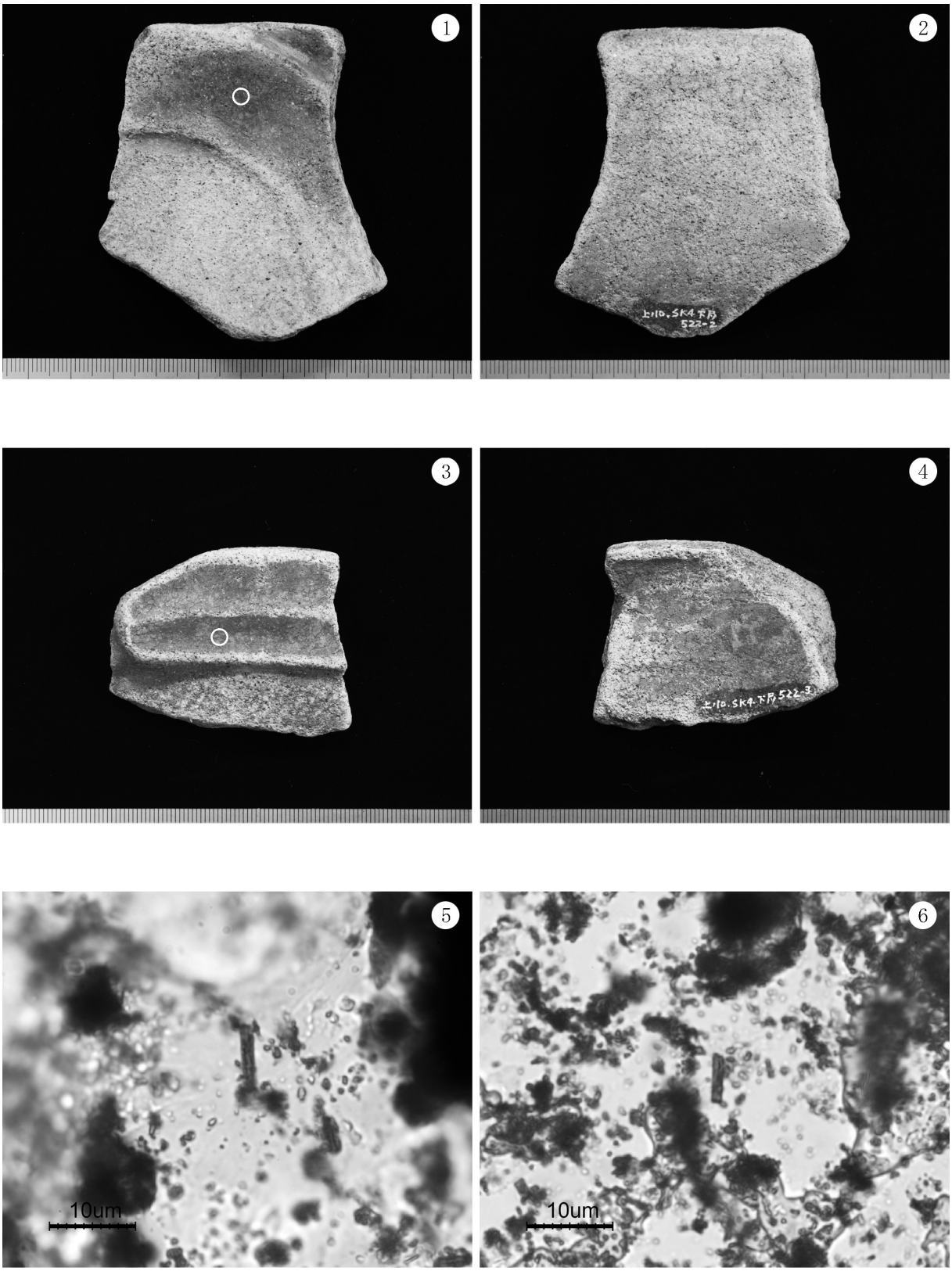
成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料．正倉院紀要，26，13-61，宮内庁正倉院事務所．

岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集，38-39．





第31図　土器付着赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果



1．資料１外面　2．資料１内面　3．資料２外面　4．資料２内面　5．資料１生物顕微鏡写真　6．資料２生物顕微鏡写真

分析対象資料および生物顕微鏡写真

第Ⅶ章　まとめ

今回の調査により縄文時代中期の土坑、溝跡、埋設土器、ピットなどの遺構群を検出した。現況地形でみて上段部分にあたる１区と下段の２区を対象に調査を行ったが、下段側の２区では砂礫層の途中まで削平を受けているため、今回の調査範囲内では遺構は確認されず、わずかな遺物が出土したのみであった。

基本土層としては１区においてⅠ層から砂礫層にあたるⅥ層までを確認した。全体にⅡ層～Ⅴ層中への砂礫の混入が顕著であり、その傾向は調査区南側の１Ｅ・１Ｆ区に向かって明瞭になる。Ⅱ層は最も色調が暗く、以下漸移的に色調が明るくなるとともに、土性も砂質化してⅥ層の砂礫層に至る。この土層の漸移的な変化は上野遺跡第６・７次調査で確認された基本土層と同様であるため、今次調査の基本土層は第６・７次調査に対応させている。

遺構の検出面はⅣ層の遺存する箇所ではいずれもⅣ層上面で、Ⅳ層の遺存しない範囲についてはⅤ層上面である。Ⅴ層が均質なシルトとして確認できる範囲は限られており１Ａ区のほぼ全面及び1Ｃ区の一部であった。１Ａ区ではⅥ層上面が東方向に傾斜し、その上にⅤ層が層厚を増しながら堆積する状況が確認できた。

写真図版４－１には１Ａ区での遺構検出状況を示しているが、この段階で最も新しく確認できた遺構堆積土は黒褐色砂質シルトであり、基本土層のⅡ層に類似するものであった。調査の結果、確認された範囲はＳＫ１～５・７・９・14・15とＳＤ１が該当することが分かった。これらの遺構は大木９～10式期、及び後期前葉にかけての時期に収まっている。一方で、大木８ａ式期とした土坑はＳＫ17・22の２基のみであるが、にぶい黄褐色シルトや暗褐色シルトが堆積土の主体となっている。自然堆積と人為的な堆積の差も考慮に入れる必要があるが、今次調査に限っていえば、大木９式期から後期前葉にかけての中で黄褐色シルトよりも黒褐色砂質シルトの堆積土が新しいものとして確認できた。今後、Ⅱ層から出土する遺物の時期にも注意するとともに、遺構堆積土の比較が必要となろう。

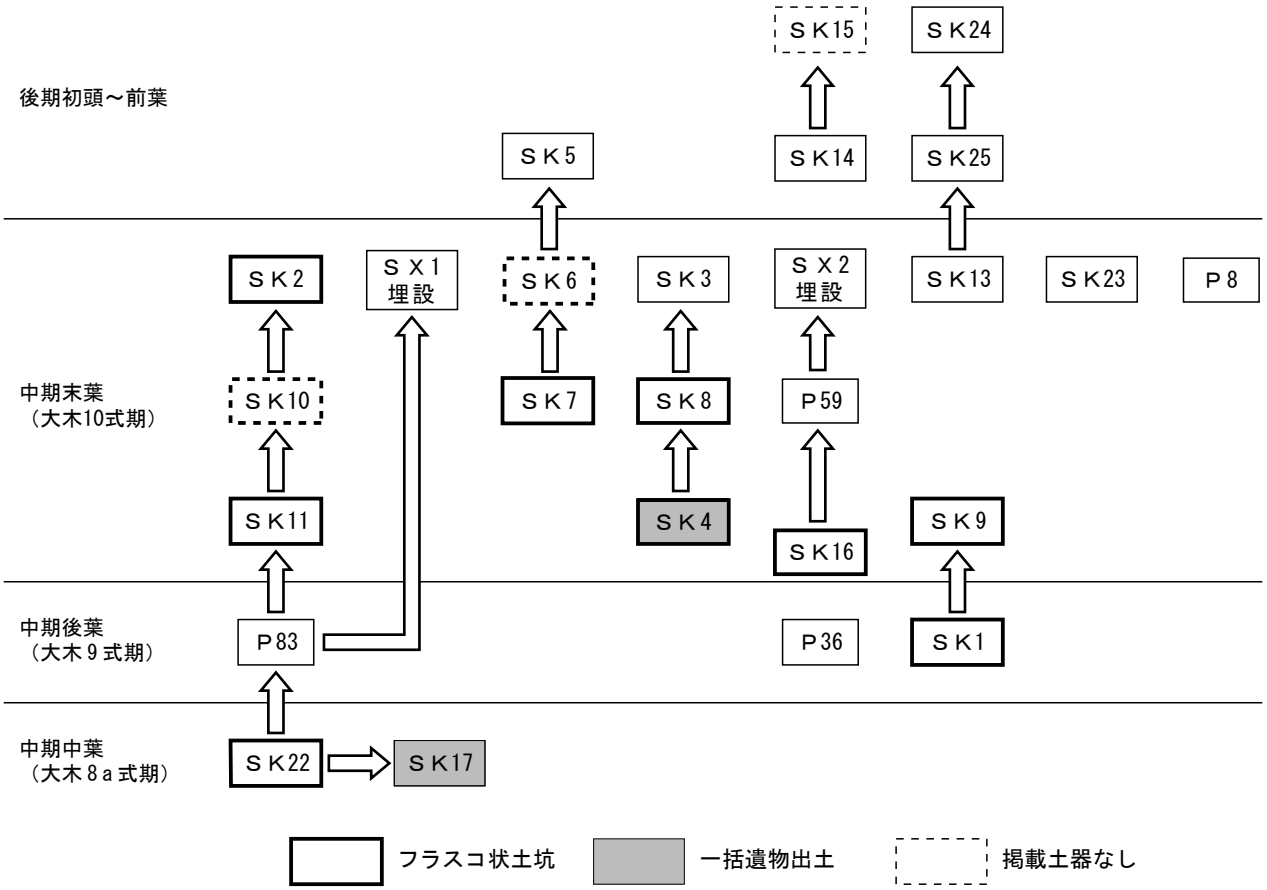
検出遺構のうち土坑は25基検出された。このうち19基は調査区北側の1Ａ区に集中しており、そのうち半数以上の11基はフラスコ状土坑と考えられる。１Ａ区以外の土坑としては１Ｂ区で３基（ＳＫ12・14・15）及び１Ｃ区で３基（ＳＫ13・24・25）が検出されたが、いずれも断面が皿状となる浅い土坑であり、１Ａ区以外にフラスコ状土坑や同等規模の土坑は分布していない。

１Ａ区で検出された２基の埋設土器については住居跡の可能性も想定して調査を行ったが、炉跡などの施設は確認できなかった。ピットは計83個が検出された。分布範囲は１Ａ・１Ｂ・１Ｃ区のほぼ全面及び１Ｄ区の西側であり、１Ｃ区の中央部と１Ｄ区の西側にピットが集中する傾向がみられる。ピットの規模や掘り込み形をみると住居跡あるいは掘立柱建物跡の柱穴となり得るものが多く存在するが、調査区外にかけてのピットの配置関係が不明であるため個別に記録している。

土坑を中心とした遺構群からの出土遺物は縄文時代中期中葉から末葉、及び後期前葉にかけての時期と考えられる。遺構の切り合い関係と出土土器の時期により遺構の変遷を考えると第32図のようになる。図中の矢印は遺構の直接的な切り合い関係を示している。これをみると、最も古い段階では大木８ａ式期のＳＫ17・22が存在する。次段階の大木８ｂ式期では明確にこの時期と判断できるものは今次調査区内にはない。大木９式期では土坑ではＳＫ１のみが該当し、ピット36・83が同時期と考えられる。

大木10式期に至ると推定も含めて土坑12基が該当する。さらに２基の埋設土器やＰ８・59も同時期と考えられ、大木10式期の段階で明らかに遺構の増加傾向が認められる。今次調査区に限っていえば大木10式期の遺構が中心となっている。

後期では推定も含めＳＫ５・14・15・24・25の５基をこの段階とした。これらは１Ａ区に１基、１Ｂ区北側では２基が重複し、１Ｃ区ではＳＫ14・15の２基が重複している。１Ａ区のＳＫ５以外は断面形が皿状となる浅い土坑となる点で共通している。また、第32図には示していないが、ＳＫ19→ＳＫ18→ＳＤ１の新旧関係が捉えられてお



第32図　主要遺構の新旧関係図

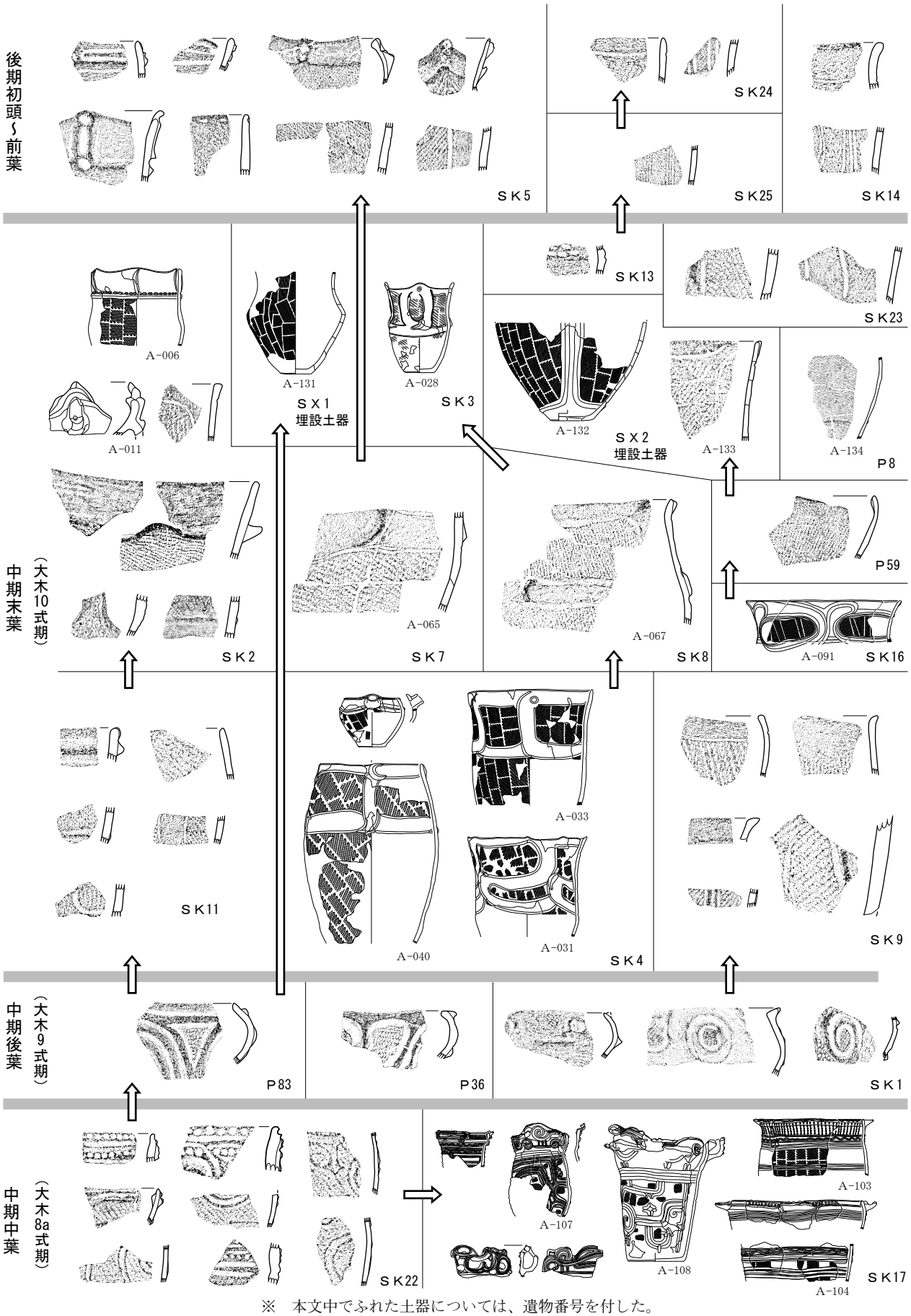
り、ＳＫ19では後期と考えられる土器片を１点のみ示している（第26図）。時期的に不明な点もあるが後期の遺構がさらに増える可能性をもっている。これまでの上野遺跡の調査では後期前葉として遺構外から少量の土器が出土していたが、ＳＫ５をはじめ遺構として検出できたのは今回が初めてといえる。後期前葉の遺物は土坑の堆積土以外にはほとんど見あたらず、遺物量としては希薄な状況であった。

なお、フラスコ状土坑と考えられるものは１Ａ区内で11基が確認されたが、それらはすべてＳＫ１・９、ＳＫ２・10・11・22、ＳＫ４・８・16、ＳＫ６・７といった４ヵ所のまとまりの中にある。こうしたフラスコ状土坑が接近・重複する状況は大木８ａ～10式期を通じてみられる。

今回の出土遺物のうち土器はすべて縄文土器であり、土坑から出土したものが大部分を占める。個体資料として出土したのはＳＫ４とＳＫ17から出土した９個体、その他に土器片が約4,600点を数える。このうちＳＫ４出土の注口土器と考えられるＡ-030以外はいずれも深鉢と観察できるものである。第33図には遺構新旧関係図に基づき、主要な土器を時期別に整理し、必要に応じて登録番号を付している。

最も古い段階の大木８ａ式期ではＳＫ17、ＳＫ22から出土した土器が該当する。ＳＫ17からはキャリパー形を中心とする深鉢が数個体出土した。そのうちＡ-104は横位の「Ｓ」字状突起が付され、Ａ-107には口縁部に隆沈線文による渦巻文やクランク状文が描かれる。Ａ-108の口縁部には横方向に立体的な橋状把手が連続し、胴部には３本１単位の沈線による渦巻文やクランク状文が描かれる。Ａ-104・107・108は大木８ａ式期の特徴をよく示しているといえる。また、ＳＫ17のＡ-103は口縁部に縦位の押圧縄文が施されるが、これは大木７ｂ式新～８ａ式古段階にかけての様相を示している。

大木９式期の土器はＳＫ１、Ｐ36、Ｐ83より出土した。出土量は少量であるが口縁部の渦巻隆線文や楕円隆線文の一部がみられるため、これらが横位に連結して文様を構成すると考えられる。



※　本文中でふれた土器については、遺物番号を付した。

矢印：遺構の切り合い関係

第33図　縄文土器集成図

大木10式期では遺構数の増加がみられるとともに（第32図）、遺物量も最も多くなる。とくにＳＫ４では堆積土の１層より数個体の深鉢が一括出土した。ＳＫ４のA-031・033・040には胴部上半に展開する「Ｓ」字状区画文や「Ｌ」字状区画文がみられ、このうちA-031・040には区画文に伴って鰭状隆線文が配される。この他にＳＫ３で出土したA-028の小型深鉢あるいはＳＫ７のA-065、ＳＫ８のA-067、ＳＸ02埋設土器内から出土したA-133にも胴上半に巡る区画文と鰭状隆線文が認められる。また、ＳＸ２埋設土器のA-132やＰ８のA-134には胴下部に施される縦横の隆線文がみられるとともに、ＳＸ１埋設土器A-131の器面全面には撚糸文が施文されており、いずれも大木10式期の特徴を示している。

また、ＳＫ２のA-006は口縁の無文帯が隆線文に区画され、隆線文に沿って連続刺突文が巡る。ＳＫ13のA-085にも連続刺突文が施される。また、ＳＫ２にはA-011とした口縁突起もみられる。ＳＫ２とＳＫ７にみられるこうした特徴は後期につながる様相とみることもできる。

続く後期初頭～前葉ではＳＫ５・14・24・25から出土した土器がこの段階として考えられる。いずれの土坑も少量の土器片が堆積土中に混在する出土状態であるが、隆線文と沈線文により構成される口縁区画文や刺突文、胴部の縦位沈線文などの特徴からこの時期とした。

土器の他、土製品として土製円盤が50点、ミニチュア土器が１点、ＳＫ11の堆積土下層より三角壔形土製品が出土した。この三角壔形土製品は長さ9.2㎝の大きさで形状は丸みを帯びた三角柱状である。長軸方向の中央には焼成前の穿孔があり、側面には３面とも２単位ずつの凹みが施されている。穿孔部には紐掛け等とみられる擦痕はみられない。重量は315gである。上野遺跡6・7次調査のＳＫ6016からも三角壔形土製品が出土しているが、ＳＫ6016のものは断面が２等辺三角形で表面は平坦である。ともにフラスコ状土坑からの出土である。

石器は総計105点出土した。このうち剥片石器類は、石鏃５点、尖頭器１点、石匙１点、石篦１点、不定形石器７点、二次加工のある剥片９点、微細剥離痕のある剥片７点、剥片36点、石核１点が出土し、礫石器は磨製石斧１点、磨石13点、凹石４点、敲石８点、石皿10点が出土した。また、この他、鉄石英の原石１点が出土した。

剥片、石核を含めた剥片石器類の利用石材は、68点のうち48点（70.6％）が珪質頁岩で、石鏃、尖頭器、石匙、石篦、不定形石器は全て珪質頁岩を利用している。他は、玉髄（８点）、鉄石英（４点）、流紋岩（４点）、珪質凝灰岩（１点）などがみられる。礫石器の利用石材は、37点のうち28点（75.7％）が安山岩で、その他、閃緑岩（３点）、砂岩（１点）などがみられる。各利用石材の割合は、概ね６・７次調査と同じ傾向を示している。

今回の調査において、石器全体の８割近くが、１Ａ区の土坑集中箇所より出土しているが、とくに石器の出土が集中する遺構はみられない。それぞれ５～10点程度出土するものが多く、全体的にも石器の出土点数は少ないといえる。今後は、周辺の調査成果と比較しながら、利用石材の流通経路や集落への搬入形態、石器の製作・使用に関わる作業内容および最終的な廃棄のあり方等について、時間的な変遷を踏まえながら検討していく必要がある。

以上、今回の調査により調査区北側の1Ａ区において大木９～10式期を中心とする土坑の密集域を、１Ａ～１Ｄ区にかけては柱穴状のピット群を確認することができた。ピットの時期は出土遺物からみて大木９～10式期が中心になると考えられる。今回の調査結果からみて、今次地区が上野集落の一部であることが明らかとなった。また、調査区南側の１Ｅ・Ｆ区では遺構の検出はみられないため、この付近については遺構分布が希薄になることも予想されてくる。今次地区の北側40ｍには上野遺跡第７次調査地区が東西に延びているが（第３図）、ここでは住居跡や土坑群を中心とした遺構群が調査されている。第７次地区と今次地区は相互に関連してくることは明白であり、周辺域を含めて上野集落の変遷の中で検討する必要がある。しかしながら、今次地区は狭い調査範囲であり、土坑群の分布範囲や存続期間、あるいはピット群の性格など不明な点が多いため今後の課題としたい。

＜引用・参考文献＞

仙台市史編さん委員会編　1995『仙台市史　特別編２　考古資料』仙台市

仙台市史編さん委員会編　1999『仙台市史　通史編１　原始』仙台市

仙台市史編さん委員会編　2000『仙台市史　通史編２　古代・中世』仙台市

仙台市教育委員会　1986『上野遺跡－市道十文字線関係調査略報』仙台市文化財調査報告書第88集

仙台市教育委員会　1989『上野遺跡－電力鉄塔関係発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第127集

仙台市教育委員会　2004『上野遺跡―平成15年確認調査・第５次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第278集

仙台市教育委員会　2009『上野遺跡－第８次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第343集

仙台市教育委員会　2010『上野遺跡　第６・７次発掘調査－都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第365集

仙台市教育委員会　2010『上野遺跡他発掘調査報告書　上野遺跡第９次・大野田古墳群第16次・愛宕山横穴墓群第５次・住吉遺跡第２次・沖野城跡第５次』仙台市文化財調査報告書第372集

写　真　図　版

1．１Ａ区Ⅳ・Ｖ層上面全景（東から）

2．１Ａ区Ⅳ・Ｖ層上面全景（西から）

3．１Ａ区Ｖ層上面全景（東から）

4．１Ａ区Ｖ層上面全景（西から）

写真図版１　調査区全景（１）

1．１Ｂ区Ⅳ･Ⅴ層上面全景（北から）

2．１Ｂ区Ⅳ･Ⅴ層上面全景（南から）

3．１Ｃ区Ⅳ・Ⅴ層上面全景（北東から）

4．１Ｃ区Ⅳ・Ⅴ層上面全景（南西から）

写真図版２　調査区全景（２）

1．１Ｃ区Ｖ層上面全景（北東から）

2．１Ｃ区Ｖ層上面全景（南西から）

3．１Ｄ区Ｖ層上面全景（南西から）

4．１Ｄ区Ｖ層上面全景（北東から）

写真図版３　調査区全景（３）

1．１Ａ区Ⅳ・Ⅴ層上面遺構検出状況（東から）

2．１Ｂ区Ⅳ・Ⅴ層上面遺構検出状況（南から）

3．１Ｃ区Ⅳ・Ⅴ層上面遺構検出状況（北東から）

4．１Ｄ区Ⅴ層上面遺構検出状況（南西から）

写真図版４　遺構検出状況

１．１Ａ区東側遺構内遺物出土状況（東から、手前ＳＫ１・９）

２．１Ａ区中央Ｖ層上面全景（東から）

３．１Ａ区東側Ｖ層上面全景（南西から）

写真図版５　遺構群全景（１）

1．１Ｂ区Ⅳ・Ｖ層上面北半全景（南から）

2．１Ｃ区南側遺構内遺物出土状況（南西から、手前Ｐ１）

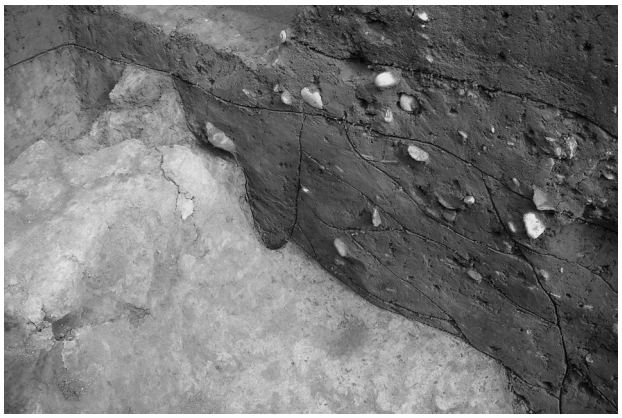
3．１Ｄ区Ｖ層上面西側全景（北西から）

写真図版６　遺構群全景（２）

1．ＳＫ１・９遺物出土状況（北東から、左手前ＳＫ１）

2．ＳＫ１完掘（西から、手前ＳＫ９）

3．ＳＫ１北壁断面（南から）



4．ＳＫ１南壁断面（北西から）

5．ＳＫ２・10・11完掘（北東から）

6．ＳＫ２・10・11断面（南から）

7．ＳＫ３・４遺物出土状況（東から、奥ＳＫ３）

8．ＳＫ３遺物出土状況（南東から）

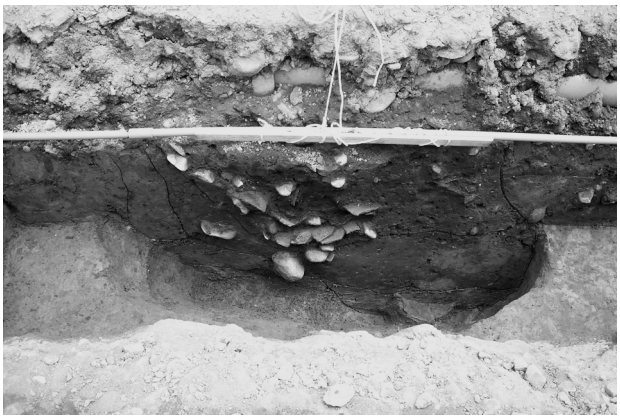
写真図版７　土坑（１）

1．ＳＫ３完掘（南西から）

2．ＳＫ３断面（南から）

3．ＳＫ４遺物出土状況（北から）

4．ＳＫ４完掘（南から）



5．ＳＫ４断ち割り断面（北から）

6．ＳＫ５完掘及び断面（南西から、手前ＳＫ７出土礫）

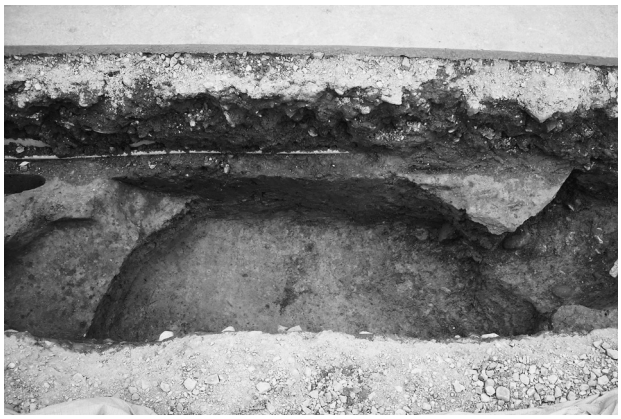
7．ＳＫ６完掘及び断面（南から）

8．ＳＫ７礫出土状況（南東から、右ＳＫ５断面）

写真図版８　土坑（２）

1．ＳＫ７礫出土状況（南から、断面右ＳＫ５）

2．ＳＫ７断面（南から、断面右ＳＫ５）



3．ＳＫ7完掘（北から）

4．ＳＫ８完掘及び断面（南から、断面中央ＳＫ３）

5．ＳＫ９完掘（東から、右ＳＫ１）

6．ＳＫ９断面（北から）

7．ＳＫ２・10・11遺物出土状況（南西から、左手前ＳＫ２）

8．ＳＫ11遺物出土状況（南から、中央三角壔形土製品）

写真図版９　土坑（３）

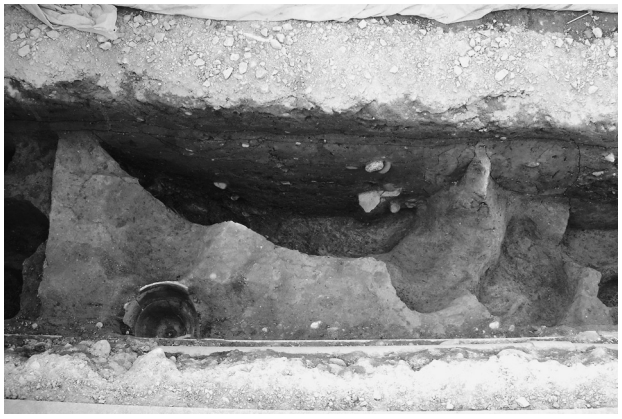
1．ＳＫ10・11完掘（西から、奥ＳＫ10）

2．ＳＫ12完掘及び断面（西から）

3．ＳＫ13完掘（北から）

4．ＳＫ14完掘及び断面（南から）

5．ＳＫ15完掘及び断面（東から）



6．ＳＫ16全景（南から）

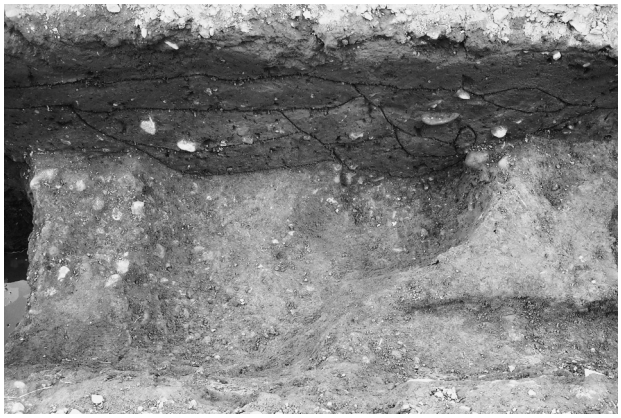
7．ＳＫ16断ち割り断面（南から）

8．ＳＫ17遺物出土状況（南から）

写真図版10　土坑（４）

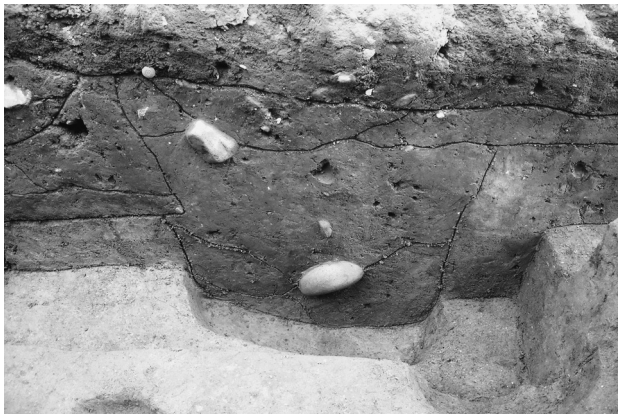
1．ＳＫ17遺物出土状況第２面（南から）

2．ＳＫ17完掘及び断面（南から）

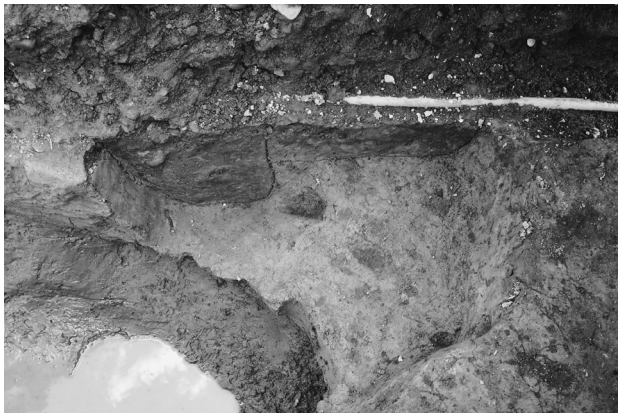


3．ＳＫ18・19完掘及び断面（南から、右ＳＫ18）

4．ＳＫ20完掘（南から）

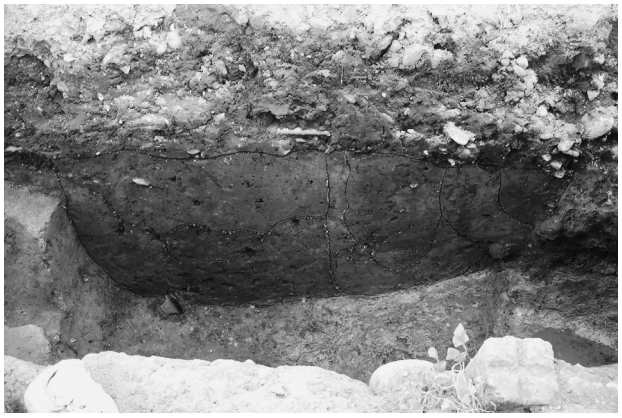


5．ＳＫ20断ち割り断面（南から）



6．ＳＫ21・Ｐ64完掘及び断面（北から）

7．ＳＫ22完掘（南から）



8．ＳＫ22断面（北から）

写真図版11　土坑（５）

1．ＳＫ23完掘及び断面（南から）

2．ＳＫ24・25石器・礫出土状況（北西から、右ＳＫ24）

3．ＳＫ24完掘及び断面（北西から）

4．ＳＫ25完掘及び断面（北西から）

5．ＳＤ１完掘（南西から）

6．ＳＤ１断面（南から）

7．ＳＤ２完掘（西から）

8．ＳＤ２断面（北西から）

写真図版12　土坑（６）、溝跡

１．ＳＸ１埋設土器下部状況（北から）

２．ＳＸ１埋設土器掘り方断面（北から）

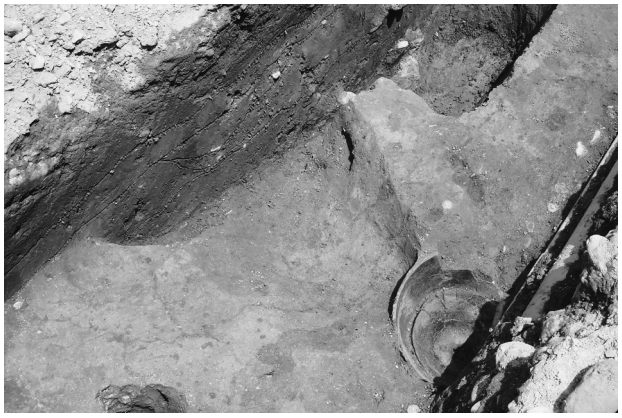
３．ＳＸ２埋設土器内遺物出土状況（北西から）

４．ＳＸ２埋設土器完掘（北から）

５．ＳＸ２埋設土器断ち割り状況（北東から）

６．ＳＸ２埋設土器断ち割り状況（北から）

７．ＳＸ２埋設土器掘り込み断面及びＰ59断面（南東から）



８．ＳＸ２埋設土器及びＰ59完掘（南西から）

写真図版13　埋設土器、ピット（１）

1．Ｐ１完掘及び断面（南東から）

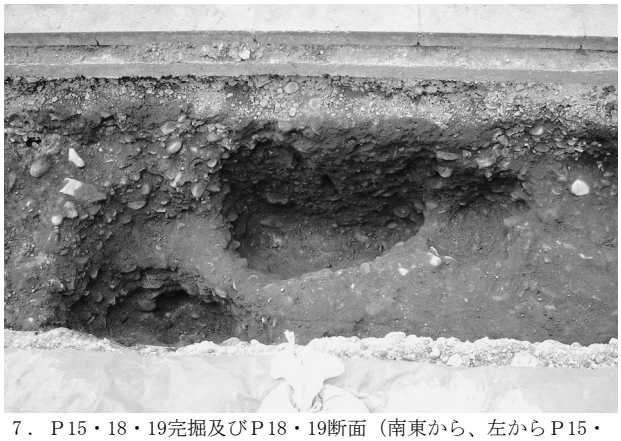
2．Ｐ２完掘及び断面（北西から）

3．Ｐ４・８遺物出土状況（西から、左Ｐ４）

4．Ｐ９完掘及び断面（北西から）

5．Ｐ12遺物出土状況（南東から）

6．Ｐ13・14完掘及び断面（南東から、左Ｐ13）



7．Ｐ15・18・19完掘及びＰ18・19断面（南東から、左からＰ15・18・19）

8．Ｐ16完掘及び断面（南東から）

写真図版14　ピット（２）

1．Ｐ17完掘（南東から）

2．Ｐ31完掘（東から）

3．Ｐ32完掘及び断面（東から）

4．Ｐ39完掘及び断面（北西から）

5．Ｐ45・46完掘及び断面（南東から、右Ｐ45）

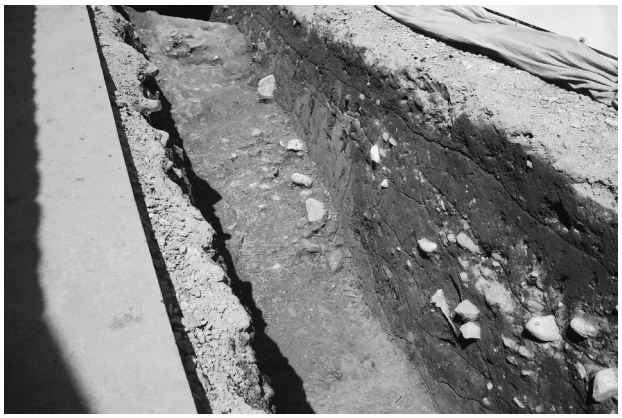
6．Ｐ65完掘及び断面（南から）

7．Ｐ65断面、Ｐ76完掘、Ｐ78断ち割り状況（南西から）

8．Ｐ81断面（北東から、右Ｐ54）

写真図版15　ピット（３）

1．ＳＸ３性格不明遺構断面（西から）



2．１Ａ区西側Ⅵ層上面傾斜状況（東から）

3．１Ｃ区西側南東壁断面(北西から)

4．１Ｄ区西半南東壁断面（北から）

5．１Ｅ区南側Ｐ-10Gr.付近全景（北西から）

6．１Ｆ区西端深掘り南東壁断面（北西から）

7．１Ｆ区東側Ｕ-８Gr.南壁断面（北西から）

8．１Ｆ区東端深掘り断面（北北西から）

写真図版16　ＳＸ３性格不明遺構、土層断面（１）

1．２区深掘り１・２区間全景（北東から、奥深掘り１区）

2．２区深掘り１区南東壁断面（北西から）

3．２区深掘り２区全景（南南東から）

4．２区深掘り３区西壁断面（東南東から）

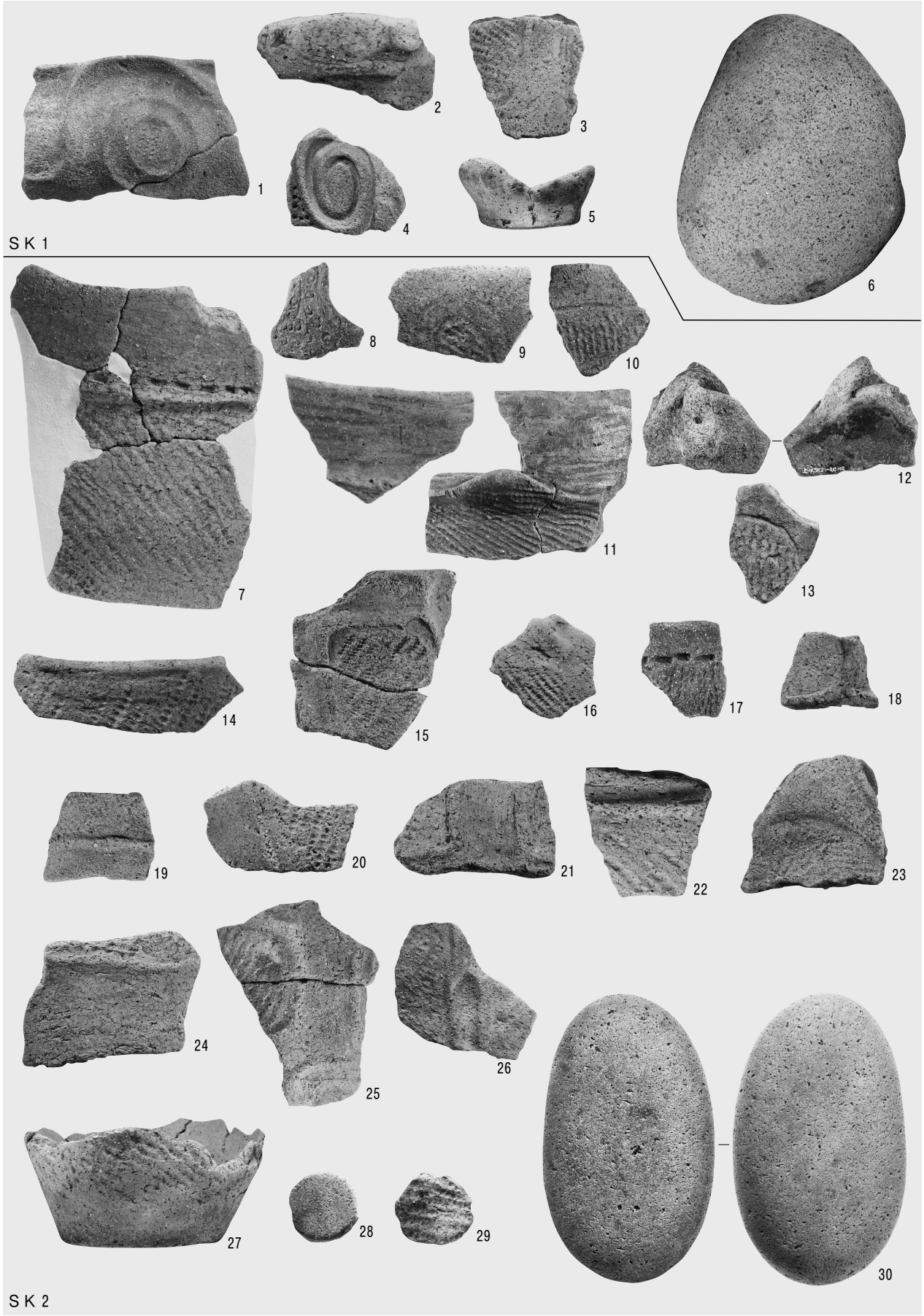
5．２区深掘り４区全景及び断面（南東から）

6．２区深掘り５区南壁断面（北北西から）

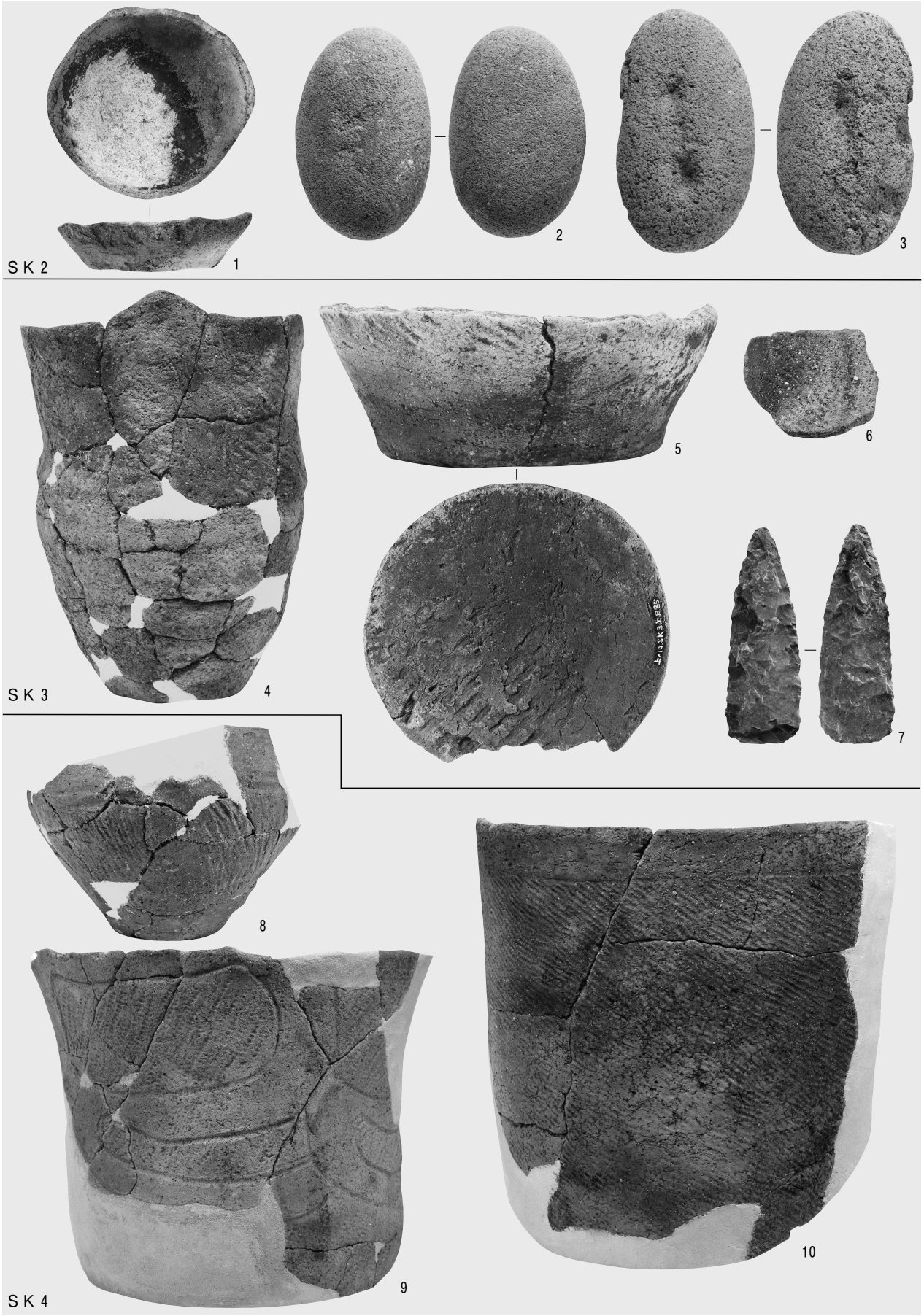
7．１区西側調査前現況（南西から）

8．２区南側調査前現況（南から、右奥１区）

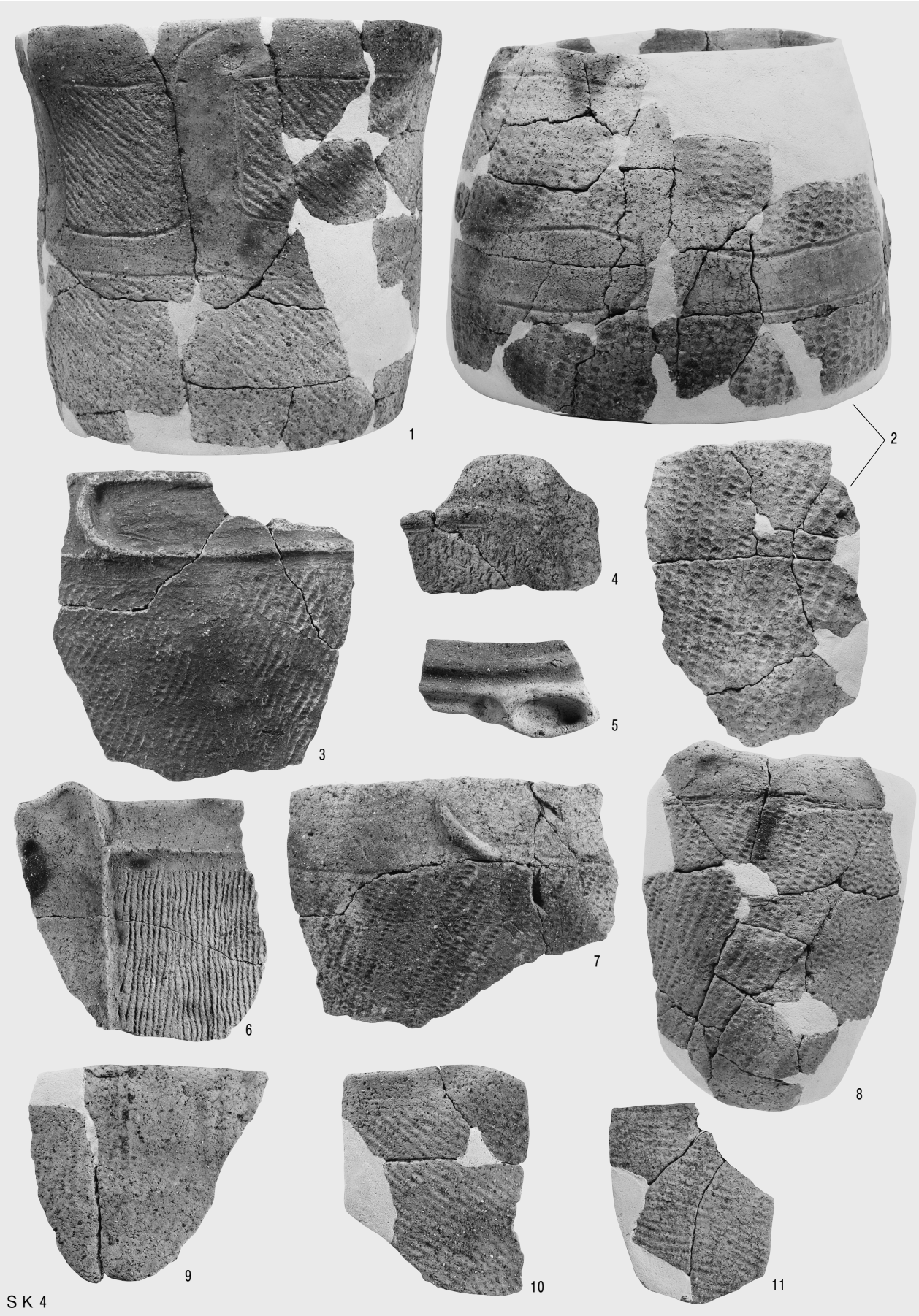
写真図版17　土層断面（２）、調査前現況



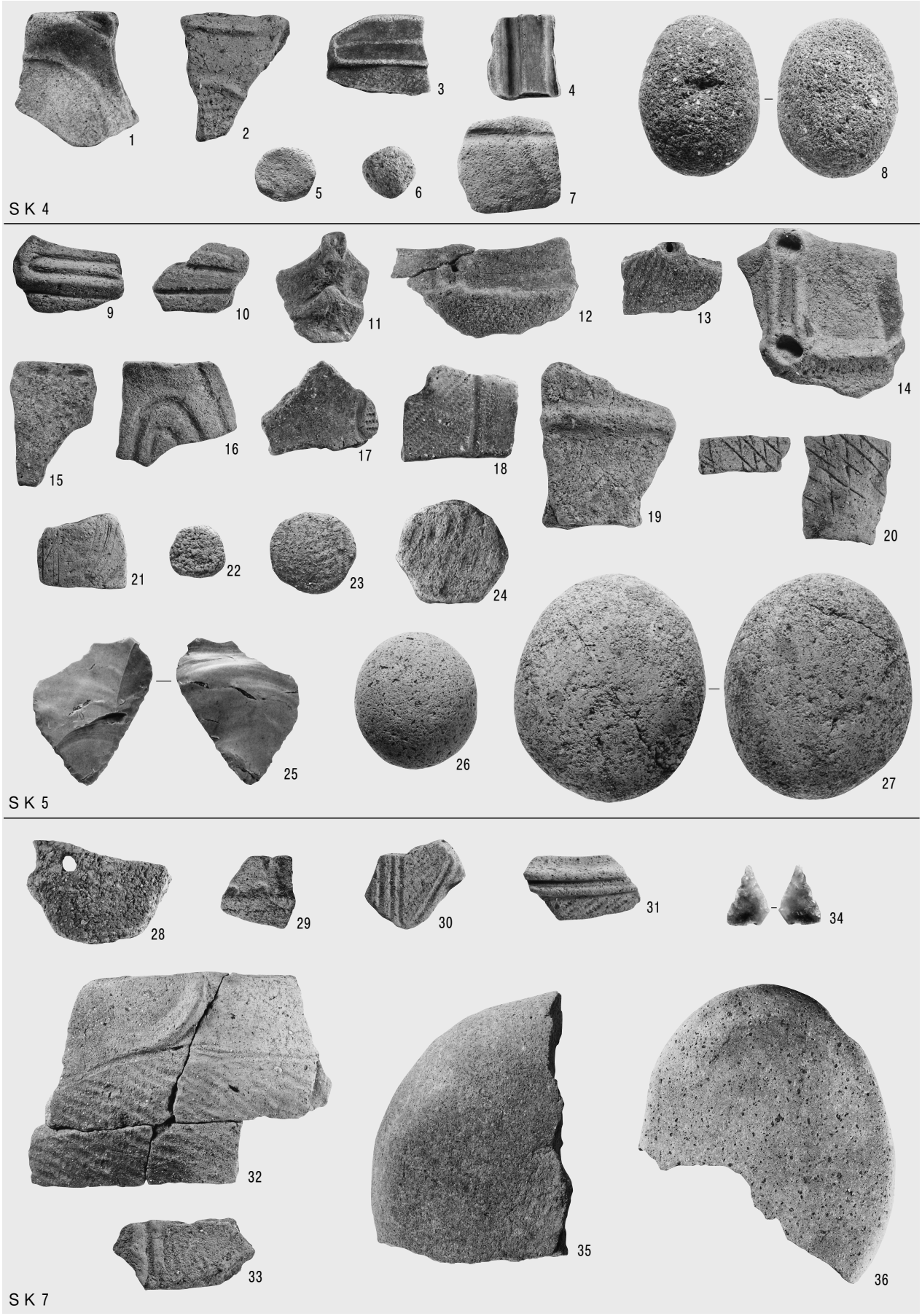
写真図版18　ＳＫ１出土遺物、ＳＫ２出土遺物（１）



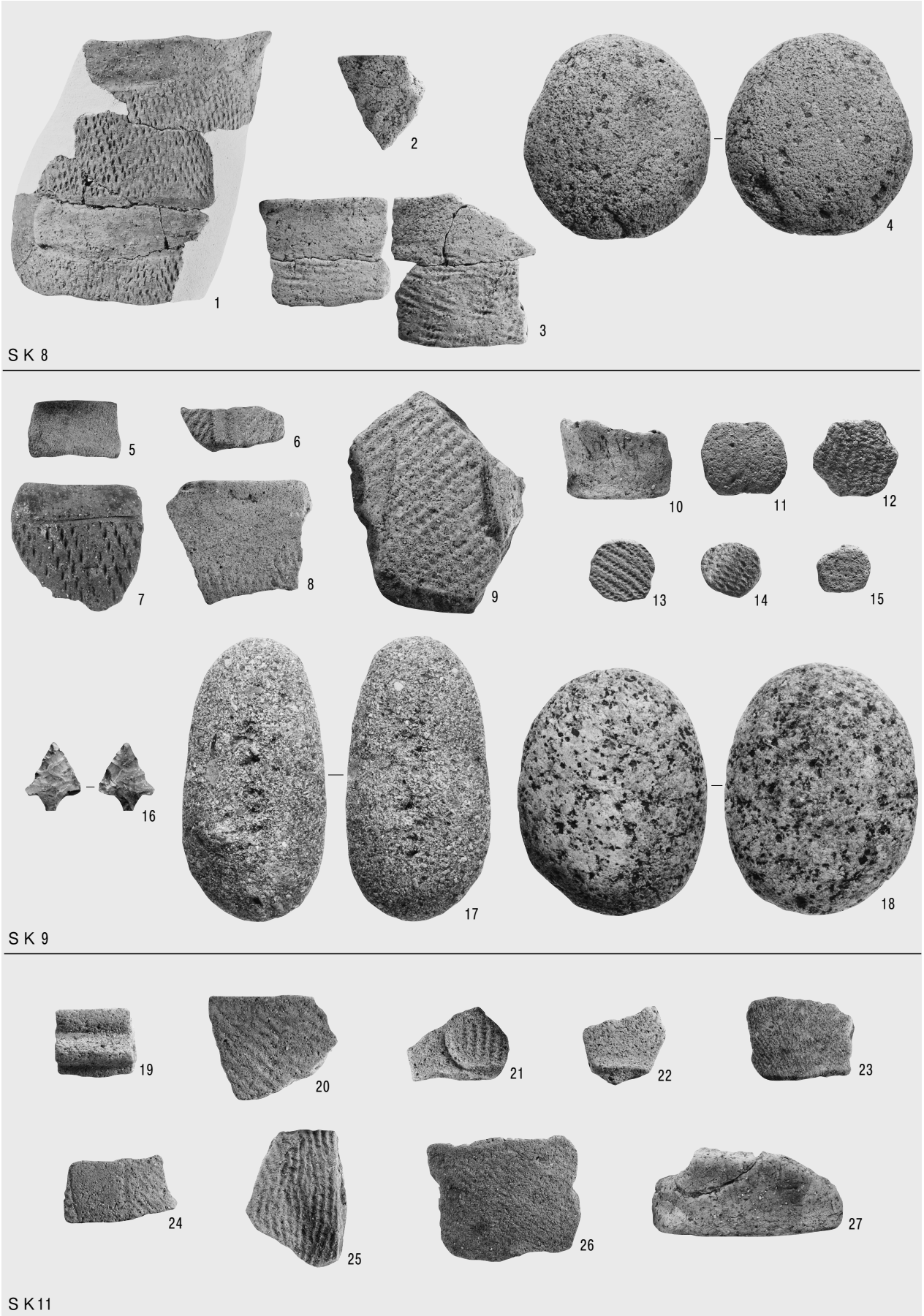
写真図版19　ＳＫ２出土遺物（２）、ＳＫ３出土遺物、ＳＫ４出土遺物（１）



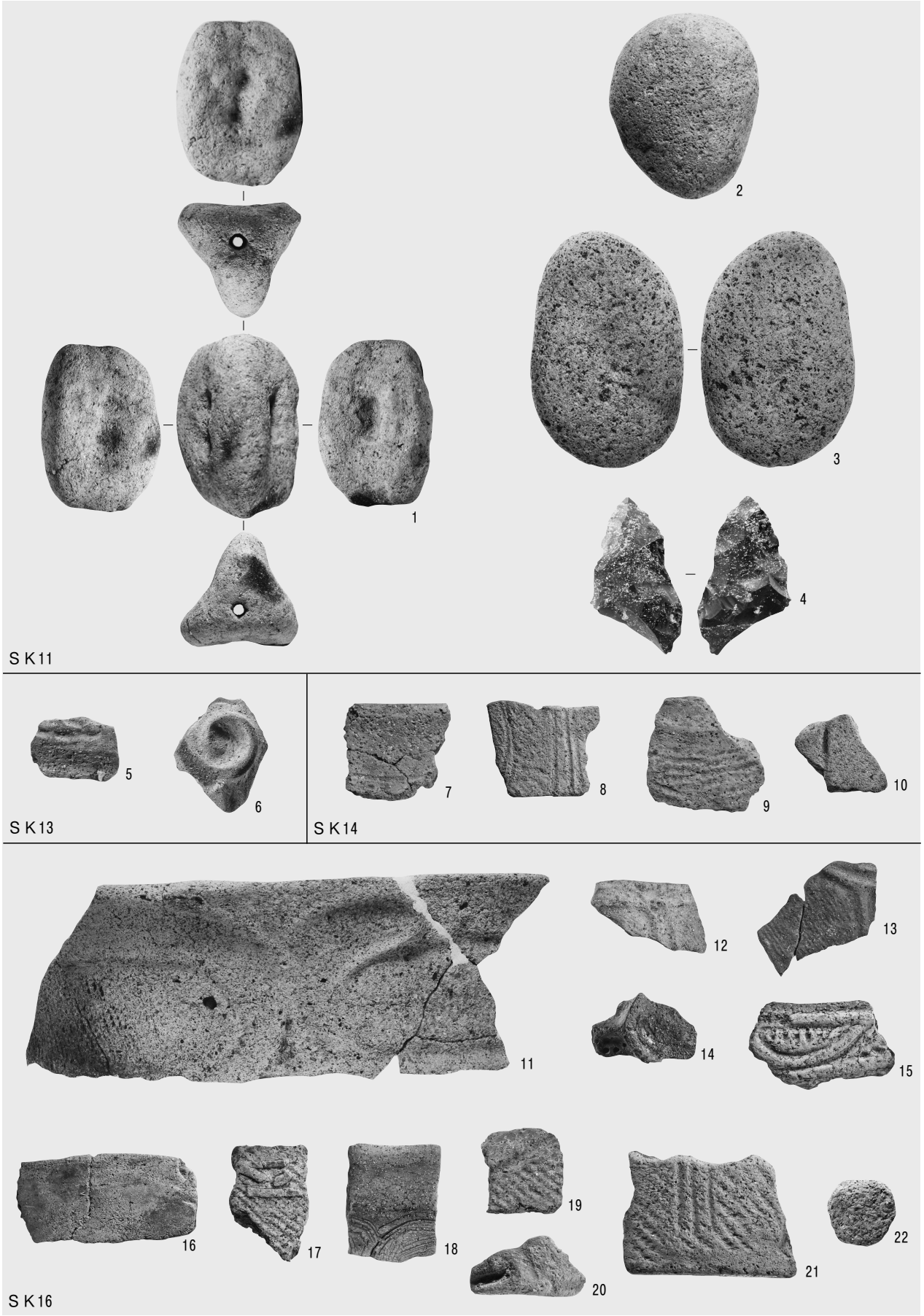
写真図版20　ＳＫ４出土遺物（２）



写真図版21　ＳＫ４出土遺物（３）、ＳＫ５・７出土遺物

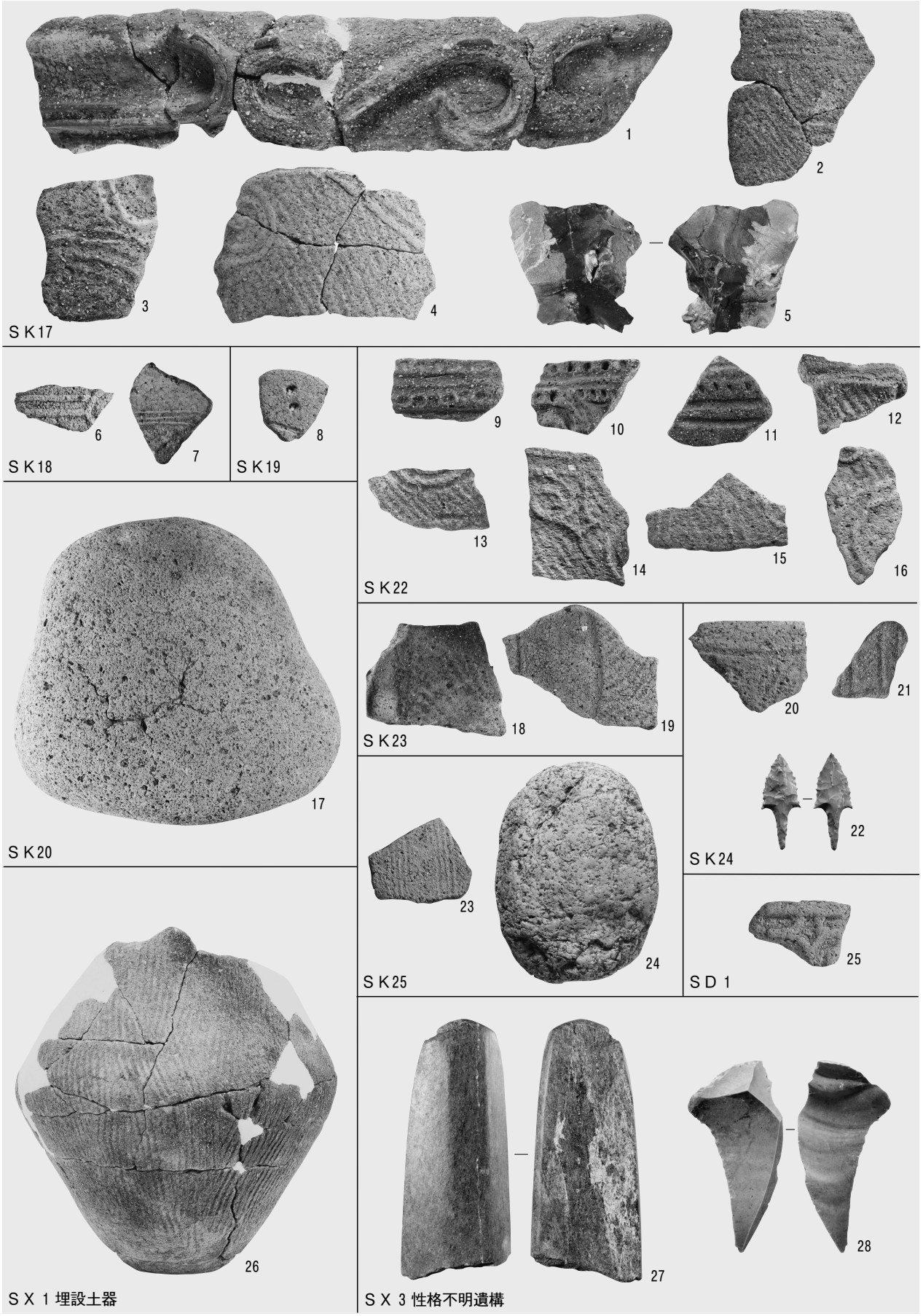


写真図版22　ＳＫ８・９出土遺物、ＳＫ11出土遺物（１）

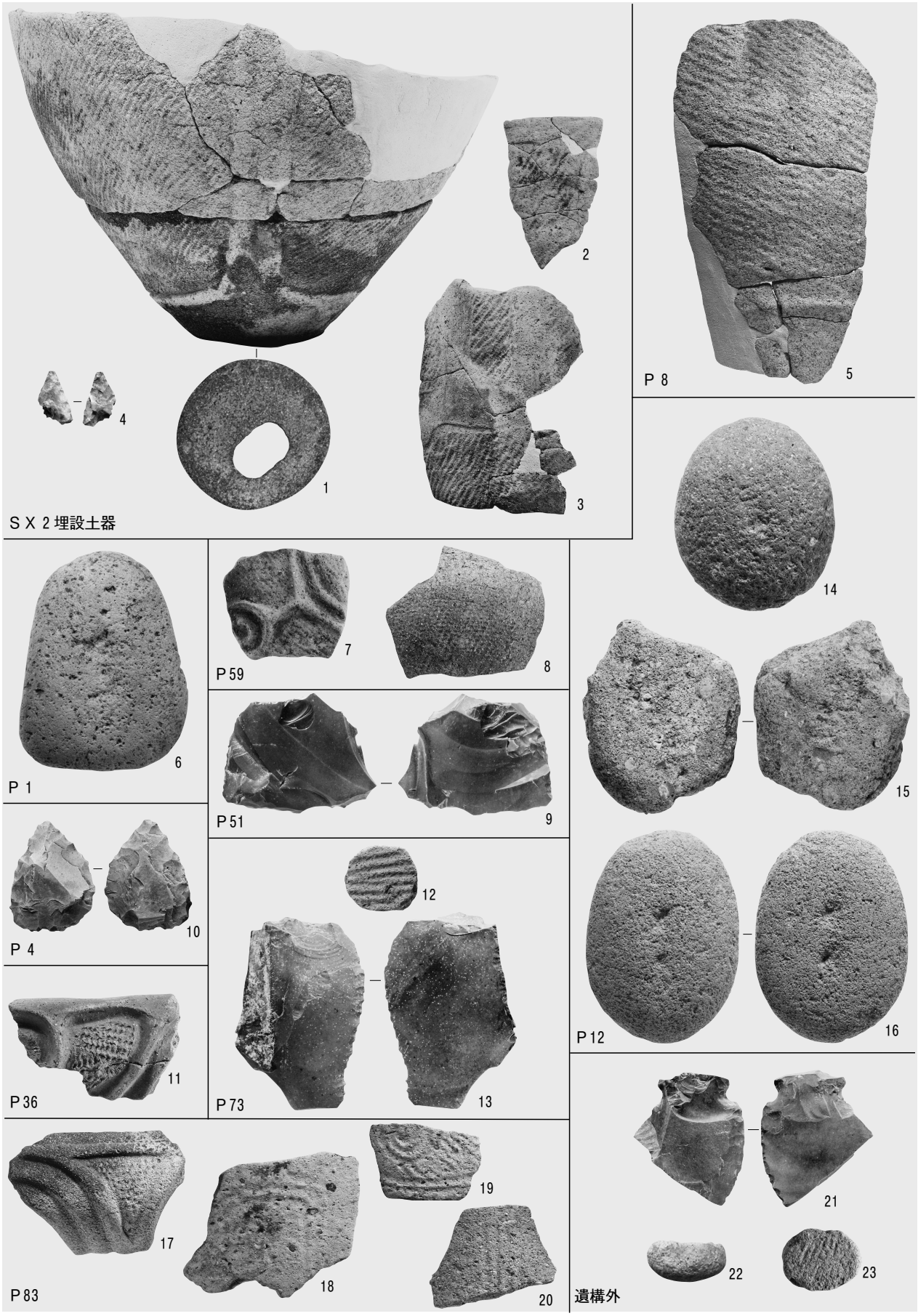


写真図版23　ＳＫ11出土遺物（２）、ＳＫ13・14・16出土遺物

写真図版24　ＳＫ17出土遺物（1）



写真図版25　ＳＫ17出土遺物（２）、ＳＫ18～20・22～25、ＳＤ１、ＳＸ１埋設土器・ＳＸ３性格不明遺構出土遺物



写真図版26　ＳＸ２埋設土器及びピット・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うわのいせき　だい10じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	上野遺跡　－第10次発掘調査報告書－
副書名	
巻次	
シリーズ名	仙台市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第380集
編著者名	鈴木　隆・庄子裕美・吉田浩明
編集機関	仙台市教育委員会(文化財課)
所在地	〒980-8761　宮城県仙台市青葉区二日町１番１号　　TEL 022-214-8894
発行年月日	2011年１月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
上野遺跡（うわのいせき）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし）太白区富田字上野西（たいはくくとみたあざうわのにし）11-6地先（ちさき）～11-2地先（ちさき）	04100	仙台市 C－108 宮城県 01002	38° 12′ 36″	140° 51′ 00″	20100521 ～ 20100728	152㎡	仙台市太白区富田地内の下水管敷設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野遺跡	集落跡	縄文時代	土坑　25基 溝跡　２条 埋設土器　２基 性格不明遺構　１基 ピット　83個	縄文土器、土製品、石器	

要約	上野遺跡は青葉山丘陵と名取川の間に広がる名取台地の東端部に位置する。今回の調査により縄文時代中期中葉から後期前葉の土坑群を主体とする遺構が検出され、上野集落の一部であることが明らかとなった。土坑群は１区北側（１Ａ区）に集中し、中期中葉から末葉にかけての重複が捉えられた。それらのなかでフラスコ状土坑は中期後葉の主体遺構となっている。１区中央（１Ｂ～１Ｄ区）ではピット群の分布が確認できた。１区南（１Ｅ・Ｆ区）では遺構は検出されず、南に向かい遺構分布が希薄な状況となる。遺物は土坑から出土した土器・石器が中心となっている。

仙台市文化財調査報告書第380集

上　野　遺　跡

－第10次発掘調査報告書－

2011年１月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区二日町１番１号
仙台市教育委員会文化財課
TEL 022-214-8894

印刷　㈲平電子印刷所
福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL 0246-23-9051